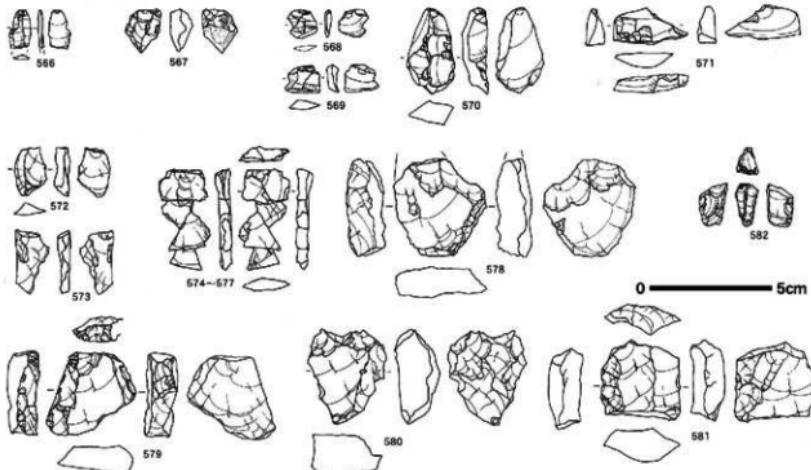


0 —————— 5cm

第48図 旧石器時代（唐木戸4-II期）の石器（2）

表7 旧石器時代（唐木戸4-II期）～縄文時代草創期の石器石材と剥片剥離

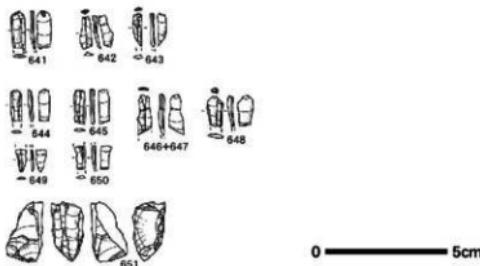
母岩	原石・石質の特徴	図No	石器生産の様相	点	総重量
桑Ob	熊本・鹿児島・宮崎県境の桑ノ木津 留・上青木等の産地をまとめたもの。	442～565	細石刃生産にあたる。原石には転磨されたような滑らかな面で覆われるもの・ガサガサした小角様のもの等があり、後者が細石刃核に利用される。細石刃核のうち、最も多いのは、裸端を飛ばす打面作出・調整の後、打面・作業面固定で細石刃を生産するもの。また、少数ながら横分割を行なうもの・作業面の入れ替えを行なうものもある。	124	178.1
黒 曜 石					
日東Ob 1	日東・五木木・栗々等、大口一帯の産 地をまとめたもの。	582	細石刃核1点があるが、細石刃はない。細石刃核は分割標素材。作業面を長辺三角形にするよう な入念な石核整形あり。打面調整あり。	1	1.4
日東Ob 2	日東・五木木・栗々等、大口一帯の産 地をまとめたもの。	572～581	縦長い剥片あるいは不定形剥片がある。厚手。削器 等に加工されている。石核はない。	10	77.6
鹿Ob	佐賀県伊万里市巣鴨のもの。漆黒色で 透通性あり。重かずと、雲状に青黒色 の筋がみえる。裏面は角様。	583～595	細石刃生産にあたる。細石刃核は、究極に小さく なるまで剥離の進行したものや、打面転移を少な くとも5回以上繰り返すものがある。	13	15.1
手野Ob	風化面は黒色そし、新剥離面は黒色・ 透通性なし。風化面等の特徴は、阿蘇 象ヶ鼻産ガラス質溶結凝灰岩に類似。	596～599	細石刃核・細石刃のみの出土。剥片・碎片等はな い。石材の風化が著しいことから、碎片等は土壤 化。あるいは回収できなかった可能性がある。	4	2.9
黒色Ob	産地の特徴が困難な、黒色風化石の一 群。複数産地・母岩が存在する可能 性がある。印象として西北九州產か。	566～571	細石刃生産にあたったものか。	6	10.2
R9	風化面は暗灰色で滑らか。高橋豊氏の 同定結果では祖母山1。	600・601	細石刃・細石刃核各1点。	2	4.6
R10	風化面は灰色～灰白色で滑らか。高橋 豊氏の同定結果では祖母山2。	602～610	細石刃のみ。細石刃核等はなし。	9	0.3
R11	風化面はくすんだ白色～うすい褐色で 黒い筋が茎根状に入る。表面は滑らか なものからややざらつくものまである る。	611～640	細石刃ではなく、細石刃核およびその調整剥片等で 構成される。細石刃核は厚手の剥片素材で、細石 刃剥離の作業面は石核小口にある。細石刃剥離の ための打面再生が複数回あり、いずれも横打ちで ある。このほか、先細りのやや大形の縦長剥片2 点がある。	30	88.8
Ch3	暗灰色に白い筋が若干入るもの。	641～651	細石刃・細石刃核とともにあり、細石刃生産にあ たったもの。細石刃核は剥片素材で、打面横打・ 下縫調整あり。調整剥片等はない。	11	5.1
上					



第49図 旧石器時代（唐木戸4-II期）の石器（3）



第50図 旧石器時代（唐木戸4-II期）の石器（4）・縄文時代草創期の遺物（1）



第51図 縄文時代草創期の遺物（2）

SC55-1層出土炭化物に関する放射性炭素年代測定結果

1. 試料と方法

地點・層準	種類	前処理・調整	測定法
陸し穴、埋土1層	炭化物	酸-75%・酸洗浄、石墨調整	加速器質量分析(AMS)法

2. 測定結果

^{14}C 年代	$\delta^{13}\text{C}$ (ppm)	補正 ^{14}C 年代 (年 BP)	層年代 (西暦) (年 BP)	測定No. (Beta-)
9590 ± 60	-28.9	9530 ± 60	交点: cal BC 8800 1 σ : cal BC 9120~8990, 8910~8750 2 σ : cal BC 9170~8690	164934

- 1) ^{14}C 年代測定値 試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在 (1950 年 AD) から何年前かを計算した値。 ^{14}C の半減期は、国際的慣例により Libby の 5,568 年を用いた。
- 2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値 試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)。この値は標準物質 (PDB) の同位体比からくる千分偏差 (%) で表す。
- 3) 補正 ^{14}C 年代値 $\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正値 を加えた上で算出した年代。
- 4) 層年代 過去の宇宙線強度の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動を校正することにより算出した年代(西暦)。校正には、年代既知の樹木年輪の ^{14}C の詳細な測定値、およびサンゴの U-Th 年代と ^{14}C 年代の比較により作成された校正曲線を使用した。最新のデータベースでは、約 19,000 年 BP までの換算が可能となっている。ただし、10,000 年 BP 以前のデータはまだ不完全であり、今後も改善される可能性がある。
- 層年代の交点とは、補正 ^{14}C 年代値と層年代校正曲線との交点の層年代値を意味する。1 σ (68% 確率)・2 σ (95% 確率) は、補正 ^{14}C 年代値の偏差の幅を校正曲線に投影した層年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の 1 σ ・2 σ 値が表記される場合もある。

3. 考察

加速器質量分析法 (AMS 法) による放射性炭素年代測定の結果、 $9,530 \pm 60$ 年 BP (2 σ の層年代で BC 9,170~8,690 年) の年代値が得られた。なお、放射性炭素年代測定値よりも層年代の年代幅が大きくなっているが、これは該当層の層年代校正曲線が長期間にわたって停滞しているためである。

文献

Stuiver, M., et al., (1998), INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, Radiocarbon, 40(3).
中村俊夫 (1999) 放射性炭素法. 考古学のための年代測定学入門. 古今書院, p.1-36.

第5節 繩文時代早期の調査

1. 概要

繩文時代早期は、地形・植生の関係から、低地と丘陵上に分けられ、それぞれ遺構・遺物の中心はV層下部からVI層上部の層境にある。

低地では打製石器のほか、剥片・石核・礫器が少量出土した。調査は遺物密度の関係から全面掘削とせず、湿地範囲の約50%の掘削とした。

丘陵部については、赤化礫・遺物とともにK-Ah直下から数点見られ、MB0掘り下りの段階で赤化礫・遺物ともに増加し、MB0~ML1層境付近にかけて散礫、散礫下には集石遺構・炉穴が確認される。散礫と重複して土器・石器類が約6000点出土した。

2. 繩文時代早期の環境

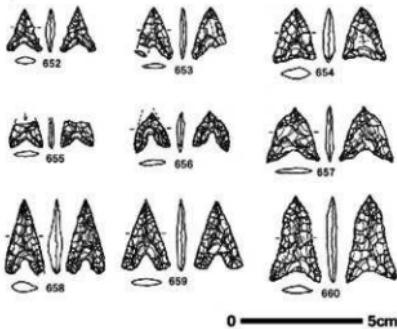
地形は、低地とそれを囲む丘陵地で構成される。土層堆積についてみると、各層の厚みは低地で厚く丘陵上で薄い。また各層の土色についても、低地の方が相対的に濃く、丘陵に上がると淡くなる傾向がみられた。土層堆積は、丘陵と低地で異なる。

植物珪酸体・花粉分析の結果からは、VI層段階で湿地規模が徐々に減少して乾燥地が広がりはじめ、クマザサ属やメダケ属（メダケ節やネザサ節）などの竹節類が生育する環境となった。周辺地域にはナラ林やハンノキ林などの落葉樹林が分布していた。そしてV層のうちK-Ah直下の段階になると、イネ科やヨモギ属を主体としてキクア科やタンボボア科なども生育する比較的乾燥した草原が広く分布していたと考えられ、周辺地域にはナラ林やハンノキ林などの落葉樹林が分布していたとされる（第II章参照）。低地の湿潤な環境が乾燥へ変化していった様子が示されている。

3. 繩文時代早期の低地の遺構・遺物

低地に遺構はなく、打製石器のほか、剥片・石核・礫器が少量出土した。いずれの出土状況も剥片・碎片が集中するものではなく、単独出土あるいは単独出土に近いものである。

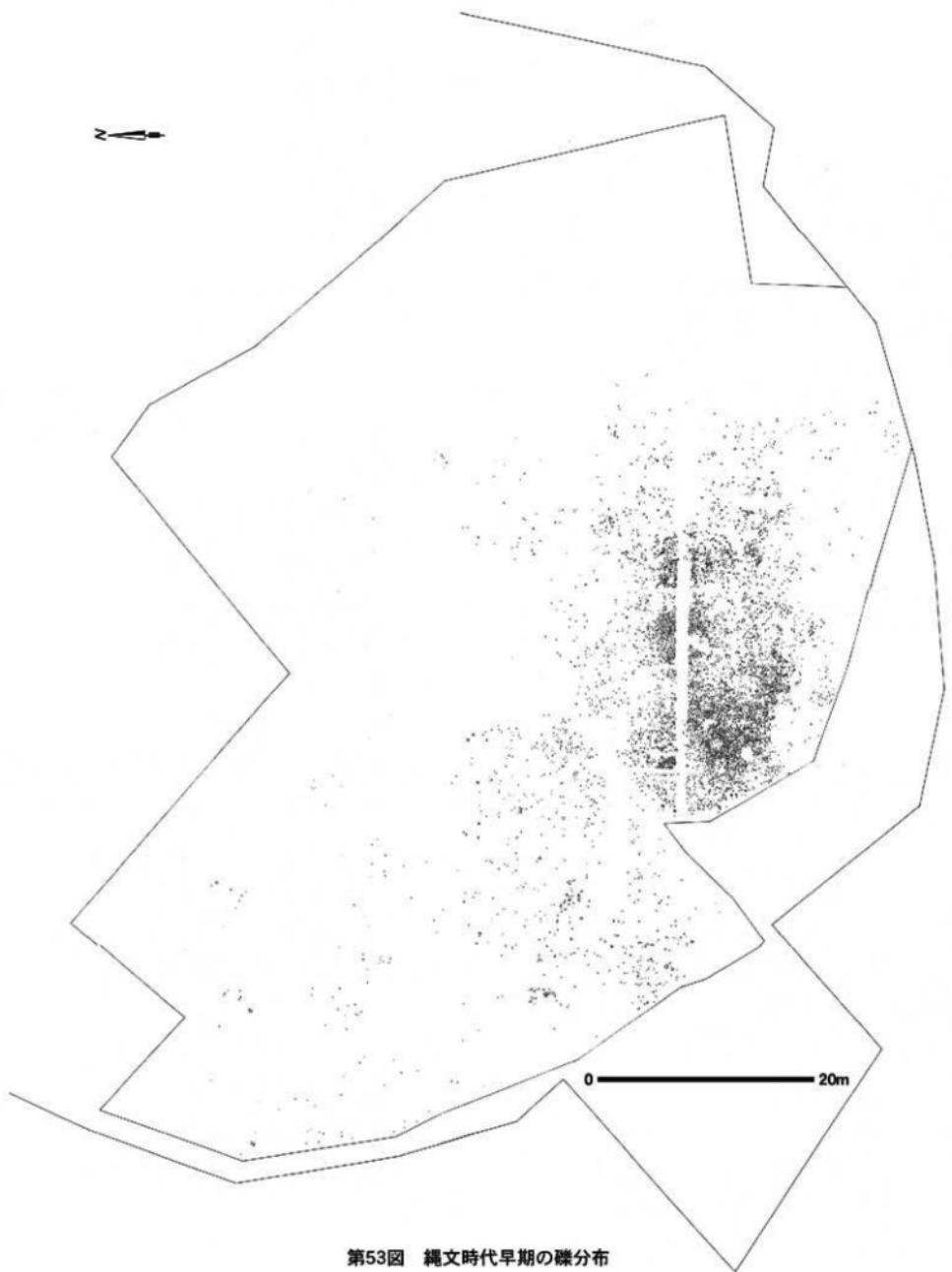
低地より単独で出土した打製石器は4点ある（第52図652~654・657）。打製石器の分布は非常に疎らで、



第52図 繩文時代早期の遺物（1）

5m×5mGrで1点ずつの出土であった。包含層はV層・VI層にまたがっており、縄文時代草創期から早期にかけて若干の時期差が予想される。このほか、散礫・石器調整剥片等の主分布域から外れた、低地に向かう丘陵斜面上から打製石器3点（第52図656・658・659）、散礫範囲内で他の打製石器・石器調整剥片と全く石材の異なる打製石器1点（第52図660）、低地部B13Grにおいて剥片・石核・礫器（第71図889・890、第73図895）とともに出土した打製石器1点（第52図655）がある。礫器（第70図885）もB33Gr単独出土で、周辺に数点礫がみられた。

低地部からの単独出土例の特徴として、サヌカイト（653）、姫島産黒曜石（652・654）、腰岳産黒曜石（658）、頁岩（660）といった、打製石器調整剥片の出土していない石材の利用が挙げられる。いずれも完成品あるいは完成品が欠損したものであり、左右・表裏シンメトリなものが多い。先端欠損後、先端のみ再加工したと推定されるものもある（656・657）。



第53図 縄文時代早期の砾分布

表8 縄文時代早期散疎のGr別状況一覧(1)

Gr	用	石材構成(点数)			石材構成(重量)			石量	石材別許率(%)			石材別導化率(%)		
		尾鉈	砂岩	カルシウムそのほか	尾鉈	砂岩	カルシウムそのほか		尾鉈	砂岩	カルシウムそのほか	尾鉈	砂岩	カルシウムそのほか
A	34 V	1			340			340	0			0		
B	11 V	4			380			380	0			0		
B	13 V	1			10			10	0			0		
B	13 VI	2	1	2	330	270	1620	2220	50	100	100	100	100	100
B	14 VI	1			50			50	100			100		
B	23 VI	2	5		160	420		780	100	80		100	100	
B	32 V	1			530			530	0			0		
B	33 VI	3	4		1930	470		2400	67	50		100	100	
C	11 V	1			120			120	0			0		
C	11 VI	3	2		360	180		540	67	100		100	100	
C	13 V	2	3	1	650	80		760	0	0	0	0	0	0
C	23 V	1			20			20	0			0		
C	23 VI	6	6		420	230		650	100	33		100	100	
C	24 VI	1	8		60	580		640	100	100		100	100	
C	33 V	2			130			130	0			0		
C	33 VI	1			50			50	100			100		
C	43 V	1	2	1	20	180	940	1140	0	0	0	0	0	0
C	43 VI	7			230			230				57		
D	11 V	5	5	1	210	200	860	1270	100	100	100	100	100	100
D	11 VI	2	1		260	90		370	100	100		100	100	
D	13 VI	2	1		370	60		430	50	100		100	100	
D	22 V		1			360		340	0			0		
D	22 VI	3			350			350	100			100		
D	23 VI	1			40			40	100			100		
D	24 VI	1			110			110	100			100		
D	24 VI	1	1		40	50		90						
D	31 V	2	2		60	60		120	100	100		100	100	
D	31 VI	1	2		20	100		120	100	100		100	100	
D	32 VI	1	7		1020	380		1400	100	100		100	100	
D	33 V	1			10			10	100			100		
D	33 VI	3	2	1	1050	160	720	1930	100	100	100	100	100	100
D	42 V	2	1		110	70		160	100	100		100	100	
D	42 VI	3	2		240	680		920	100	100		100	100	
D	43 V	4	2		450	300		750	100	100		100	100	
D	43 VI	5			390			390	100			100		
D	44 VI	1	1	2	100	40	1500	1640	100	100	100	100	100	100
D	61 V	1	10		20	170		190	100	90		100	100	
D	73 VI	1	1	3	150	50	1790	1950	100	100	100	100	100	100
D	74 VI	3	1		6490	530		7220	100	100		100	100	
E	21 VI	1	2		100	170		270	100	100		100	100	
E	21 VI	1	3		2090	1010		3100						
E	22 VI	1			120			120	100			100		
E	23 VI	35	13		3220	1380		4600	100	100		100	100	
E	31 VI	4	6		1220	370		1590	100	100		100	100	
E	31 VI	4	5		2140	1120		3260						
E	32 VI	4	6		1900	1700		3600	100	86		100	100	
E	33 V	12	26		2320	2310		4630	100	83		100	100	
E	33 VI	3			60			60	100			100		
E	34 VI	5	12		860	860		1720	100	75		100	100	
E	41 V	4	1		230		20	250	100		100	100	100	
E	41 VI	16	6	12	2010	280	1950	4240	100	100	100	100	100	100
E	42 VI	3	11	3	1840	660	1480	3980	67	100	100	100	100	100
E	43 V	6	16	3	340	800	400	1540	100	100	67	100	100	100
E	43 VI	12	17	8	2020	1360	910	4190	100	100	100	100	100	100
E	44 VI	3	1		1130	160		1290	100	100		100	100	
E	44 VI	3	1	1	240	160	770	1190	100	100	100	100	100	100
E	52 V	1	1	1	10	260	310	580	100	100	100	100	100	100
E	52 VI	16	14	5	740	760	510	2010	100	100	80	100	100	100
E	53 V	1			70			70	100			100		
E	53 VI	2			220			220	100			100		
E	54 V	1	3		20	100		120	100	100		100	100	
E	54 VI	36	21	9	3580	860	360	4800	97	100	100	100	100	100
E	63 VI	4	1	2	500	40	180	720	100	100	100	100	100	100
E	64 VI	3	1	4	520	30	1120	1670	100	100	100	100	100	25
E	71 VI	2	1	2	1250	90	260	1600	100	100	100	100	100	50
E	72 VI	1		2	1780	1250		3030	100			100		
E	72 VI	1	2	2	70	320	570	940	100	100	100	100	100	100
E	74 VI	4	6	3	6260	1760	1790	9770	75	100	100	100	100	33
F	23 VI	5	11		1370	1460		2830						
F	31 VI	6	3	2	5010	420	970	6300	83	100	100	100	100	100

表9 繩文時代早期散疎のGr別状況一覧（2）

Gr	用	石材構成(点数)			石材構成(重量)			粒度量	石材別確率率(%)			石材別発化率(%)				
		尾鉈	砂岩	カルシウムそのほか	尾鉈	砂岩	カルシウムそのほか		尾鉈	砂岩	カルシウムそのほか	尾鉈	砂岩	カルシウムそのほか		
F	32 VI	2	2	1	780	1430	560	2770	100	100	100	100	100	100		
F	32 VI	10	6	1	770	280	70	1120	100	83	0	100	100	0		
F	32 VI		5			160										
F	33 VI	92	230	26	3	25270	2940	5370	100	97	92	0	100	100	0	
F	33 VI	4	9	5	780	3700	2590	7070	100	100	100	100	100	100		
F	34 VI	34	34		5640	3330		8970	89	91		100	100			
F	41 VI	39	49	1	3840	3693	1310	8940	100	100	100	98	100	100		
F	42 VI	3	1		2450	860		3310	0	33		0	67			
F	42 VI	15	16	4	1730	2380	290	4400	99	100	100	100	100	100		
F	43 VI	57	21	43	11420	2210	5560	19190	99	100	100	77	95	30		
F	44 VI	2	2		480	200		680	100	100		100	100			
F	44 VI	18	13	15	4810	1430	2800	9040	83	85	100	100	99	67		
F	44 VI	5	3	1	890	140	100	1130								
F	51 VI	37	32	21	4340	2630	2940	10110	100	100	100	99	56	62		
F	51 VI		1			110										
F	52 VI	60	53	26	27170	10670	4570	42410	99	99	100	75	78	66		
F	53 VI	99	53	50	17980	3640	3720	25340	100	100	100	71	57	54		
F	54 VI	170	82	82	1	44570	15280	10720	20	70590	99	99	100	98	99	88
F	61 VI	6	4	3	1430	480	170	2080	100	100	100	50	50	33		
F	62 VI	26	17	27	3680	2120	2100	8100	99	99	100	77	82	58		
F	63 VI	109	80	111	15060	8280	11210	34550	100	99	99	72	69	59		
F	64 VI	202	222	226	33560	14610	13500	61700	100	100	100	66	54	24		
F	71 VI	1	2	6	300	640	1140	2080	100	50	100	100	100	67		
F	72 VI	14	25	27	4560	5980	4770	15310	100	68	99	100	100	60		
F	73 VI	6	8	5	1140	1120	550	2810	100	100	100	80	75	0		
F	74 VI	59	51	112	12640	8703	11490	32830	97	99	99	97	90	89		
F	82 VI	9	1	1	5360	150	2000	7510	100	100	100	100	100	100		
F	84 VI	6	4	3	910	250	400	1560	100	100	100	100	100	100		
G	31 VI	3	1		1260	80		1340	67	0		100	100			
G	31 VI	2	3	1	2190	1360	940	4490	100	100	100	100	100	100		
G	32 VI	5	3	2	1250	1503	1720	4470	80	67	100	100	100	100		
G	32 VI		2			1030										
G	41 VI	157	63	101	3	26360	4680	8110	610	39760	100	100	100	86	79	74
G	43 VI	36	10	35	3530	810	2940	7280	100	90	100	86	70	35		
G	51 VI	320	200	237	35450	18120	15310	68880	98	100	98	89	100	85		
G	52 VI	674	267	463	56090	31530	40200	157810	100	100	99	100	100	100		
G	53 VI	478	202	305	42820	13290	18370	74180	99	99	100	100	100	100		
G	54 VI	427	87	209	1	55440	6060	19320	30	77850	100	100	0	79	79	60
G	61 VI	119	85	129	17940	8660	12700	39300	97	99	100	95	60	57		
G	62 VI	193	137	175	4	28430	10430	12700	3340	54900	99	99	99	100	59	61
G	62 VI	5	8	5	1	1510	650	1630	340	4130	100	100	100	60	63	60
G	63 VI	75	27	54	12390	4820	5670	22880	100	100	100	86	89	75		
G	64 VI	182	62	103	1	24460	4870	7690	40	37040	100	100	0	99	78	65
G	71 VI	15	15	6	2020	3040	1600	6660	100	100	100	87	87	84		
G	72 VI	120	36	116	16770	5103	12490	34320	100	99	100	74	95	71		
G	72 VI	10	2	2	1130	40	160	1330	100	100	100	100	100	100		
G	73 VI	39	13	53	2	24120	1920	9360	1930	25260	99	100	0	100	93	87
G	74 VI	82	30	89	21080	6910	8940	36950	99	100	100	100	93	87		
G	82 VI	7	5	5	1	5810	2080	1930	160	9980	100	100	100	100	100	100
G	82 VI		1				340	340						100		
G	64 VI	10	7	13	1060	770	840	2690	100	100	100	100	100	100		
H	51 VI	34	17	31	2530	910	2050	5490	100	100	100	65	83	62		
H	52 VI	3	3	7	190	340	490	1020	100	100	100	67	33	57		
H	61 VI	7	4	2	800	410	100	1310	100	100	100	86	100	100		
H	62 VI	39	22	22	3120	1780	1770	6670	100	100	100	83	97	64		
H	71 VI	3	1	2	2840	40	470	3330	100	100	100	100	100	100		
H	72 VI	3	2	2	610	110	390	1050	100	100	100	100	100	100		
H	72 VI	2			3900			3900	100			100				
H	74 VI	1	1	1	200	50	70	320	100	100	100	100	100	100		
H	81 VI	1				30		30								
H	82 VI	4	3	2	460	630	680	1770	100	100	100	100	100	50		
H	83 VI	13	32	35	2030	4660	4050	10740	100	100	100	100	100	92		
H	84 VI	5	10	11	1	1580	450	3070	450	5550	100	100	100	100	90	82

表10 繩文時代早期散縄の接合距離一覧

接合距離の単位はm

石材	鹿島山遺跡岩層										計	
	206											
	接合個体数	接合距離	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
0.0~0.5	56	7	1	1	1	1	1	1	1	1	1	74
0.5~1.0	24	9	3	1	1	1	1	1	1	1	1	37
1.0~1.5	16	7	1	1	1	1	1	1	1	1	1	26
1.5~2.0	9	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13
2.0~2.5	8	2	3	1	1	1	1	1	1	1	1	14
2.5~3.0	10	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	14
3.0~3.5	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	5
3.5~4.0	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	5
4.0~4.5	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4
4.5~5.0	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3
5.0~5.5	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3
5.5~6.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
6.0~6.5	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3
6.5~7.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
7.0~7.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
7.5~8.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
8.0~8.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
8.5~9.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
9.0~9.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
9.5~10.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
10.0~10.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
10.5~11.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
11.0~11.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
11.5~12.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
12.0~12.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
12.5~13.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
13.0~13.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
13.5~14.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
14.0~14.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
14.5~15.0	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3
15.0~15.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
15.5~16.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
16.0~16.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
16.5~17.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
17.5~18.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	150	37	11	3	3	1	1	1	0	0	0	206
最长距離	16.96	6.04	4.84	3.02	3.38	2.48	3.52	0	0	0	0	16.96

石材	ホルンフェルス地										計	
	178											
	接合個体数	接合距離	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
0.0~0.5	54	3	3	1	1	1	1	1	1	1	1	62
0.5~1.0	18	6	3	1	1	1	1	1	1	1	1	27
1.0~1.5	18	3	4	1	1	1	1	1	1	1	1	25
1.5~2.0	9	5	3	1	1	1	1	1	1	1	1	18
2.0~2.5	5	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
2.5~3.0	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	6
3.0~3.5	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8
3.5~4.0	4	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8
4.0~4.5	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4
4.5~5.0	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3
5.0~5.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
5.5~6.0	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3
6.0~6.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
6.5~7.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
7.0~7.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
7.5~8.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
8.0~8.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
8.5~9.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
9.0~9.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
9.5~10.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
10.0~10.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
10.5~11.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
11.0~11.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
11.5~12.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
12.0~12.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
12.5~13.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
13.0~13.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
13.5~14.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
14.0~14.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
14.5~15.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
15.0~15.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
15.5~16.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
16.0~16.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
16.5~17.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
17.5~18.0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	127	28	15	3	1	1	1	0	1	2	178	540
最长距離	8.72	4.98	4.24	4	0.12	2.84	0	3.88	5.54	8.72	17.84	

表11 繩文時代早期散碟・集石造構の接合数・距離一覧

接合距離の単位はm

		散碟・集石造構間の接合数・距離一覧																							
		集石番号-石材																							
		SI 13			SI 15			SI 17			SI 19			SI 51			SI 52			SI 53			SI 54	計	
		尾	砂	木	尾	砂	木	尾	砂	木	尾	砂	木	尾	砂	木	尾	砂	木	尾	砂	木	尾	砂	木
接合距離組成個数	0.5	1	2	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	2	1	2	1	1	1	1	1	1	1	10
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	11
	1.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13
	2.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	14
	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	15
	3.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	16
	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	17
	4.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	18
	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	19
最大距離	5.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	20
	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	21
	6.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	22
	7	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	23
	7.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	24
	8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	25
	8.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	26
	9	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	27
	9.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	28
	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	29

4. 繩文時代早期の丘陵上の遺構

【散 碠】

散疎は、丘陵のほぼ全面とそこから低地に下がる斜面部分に広がる。疎がとくに密集するのはF5～F6Gr・G5～G7Grであり、これと重なって集石遺構・炉穴が分布していた。散疎を構成する疎の石材は、尾鈴山酸性岩類を筆頭に、砂岩、ホルンフェルス（石器石材とはならない粗質のもの）、その他少数チャート等である。

散疎構成疎の総重量は1,300.130kg（表8・9）で、集石遺構構成疎の総重量811.5kg（表12・13）を加えると、2,111.63kg（2t強）の疎が持ち込まれている。

疎の接合関係は540個体で確認され、そのうち260個体については1m以内の距離にあるものであった。疎の接合距離は1m～10.5mまで徐々に減少し、次に11.5～12.5m、15.0～15.5m、16.5～18.0m間の接合例が1例ずつある。石材別で顕著な接合距離の差はなく、接合距離の最長例は砂岩にみられた17.84mであった（表10・第88図）。

【集石遺構】

集石遺構は散疎と分布をともにする。疎の包含状況・埋土・土坑形状から以下のI～III類に大別され、さらにいくつかの特徴で細分される。

I類 土坑をもち、かつ土坑底部に配石のあるもの

II類 土坑をもつが配石はないもの

IIa類：埋土上部にのみ破碎疎を密に含むもの

IIb類：埋土上部にのみ破碎疎を疎らに含むもの

IIc類：埋土下部まで破碎疎を密に含むもの

III類 土坑をもたないもの

IIIa類：疎の供給について他所から持ち込むもの

IIIb類：疎の供給について露出した疎層等をあてるもの

I類はSI7が相当する。上部が大きく削平されており、本来の規模・形状等は不詳ながら、大形の集石遺構であった可能性が高い。配石は土坑底部に直接置かれ、中央に25cm×20cm×15cmの大きな平石を置き、その

周囲を廻るように10～30cm角の平石を配置していた。

IIa類はSI13・15・54が相当する。埋土は大別上下2層に分けられ、上層は黒みが強くかつ破碎疎を密に含んでいる。下層は上層に比べ色調がうすくかつ疎を含んでいない。土坑形状はサラダボウル状。なお、SI54は、散疎直下の検出面の疎について、集石遺構中心に向かって渦を巻くような格好で配されていた。検出面から1枚分疎を外した下部の疎が渦を巻くようなことはなかった。

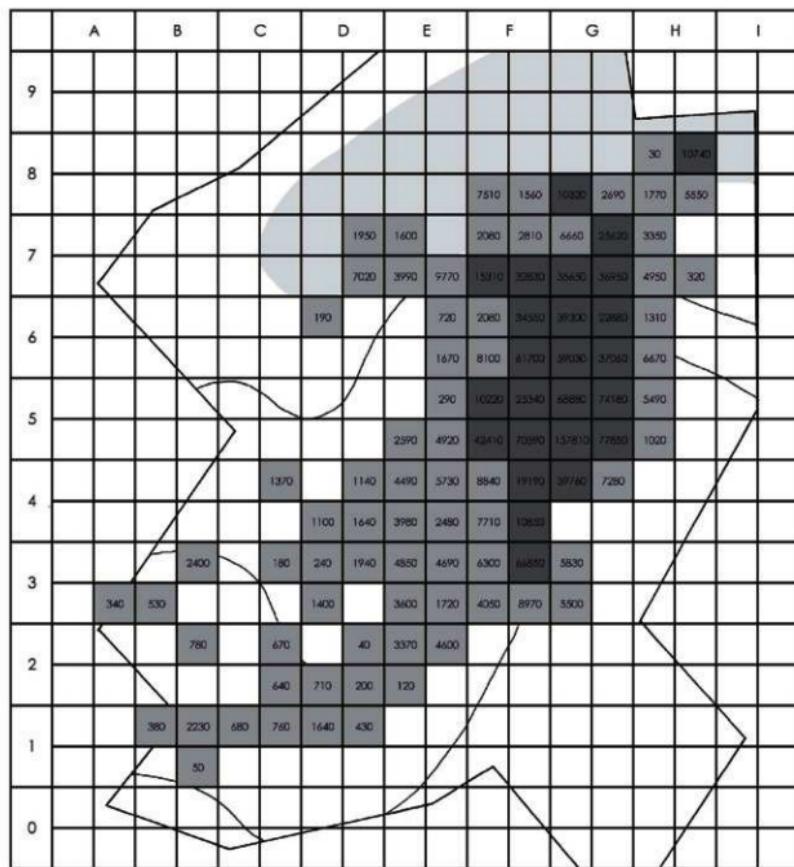
IIb類はSI10・12・18・51・52・53が相当する。埋土はIIa類と同様に大別上下2層に分けられるものの、色調については上層の黒みが強いものと下層暗褐色土とあまり変わらないものがある。疎は埋土上部にのみ疎らに含まれ、ガ穴等にみられる疎の包含状況に近い。

IIc類はSI8・17・19・34が相当する。埋土は地山（Ⅴ層褐色土）に比べやや暗めといった程度と識別困難なものが多く、疎を除くと結果、土坑状になるといった検出方法であった。破碎疎の密度は高い。

IIIa類はSI1・2・5・6・11・16・26が相当する。SI1・5・6・11・16・26は、削平による影響のない地点でかつ疎が密集した箇所を集石遺構とみなした。SI2はIIIb類に相当するSI3に近接する。検出当初、疎層頂部の突出である可能性も想定し、写真撮影・平面図作成後、疎層まで断ち切った。その結果、集石遺構は、疎層上に砂利層をはさんで形成されたとわかった。また、集石遺構中の疎と、疎層中の疎の疎径は異なり、集石遺構中の疎径は疎層中のそれと比較し小さくこと、集石遺構中の疎は自然でない状態で割れており、また、大半が赤化すること、同時に疎層中に赤化疎が含まれていないことがわかった。この時点で人為的な集石遺構と判断し、見通し断面図を作成した。

IIIb類はSI3が相当する。集石遺構周辺には疎層頂部が露出し、集石遺構にはその疎が用いられる。疎は1.3m四方に散在する。破碎疎は集石遺構中央に集中し、それらは赤化する。破碎疎の周囲には、赤化しない大形の疎が配される。集石遺構周辺には若干の炭化物が見られ、土の赤変は確認されなかった。

なお、少数ながら、散疎と集石遺構疎の接合もみられた（表11）。



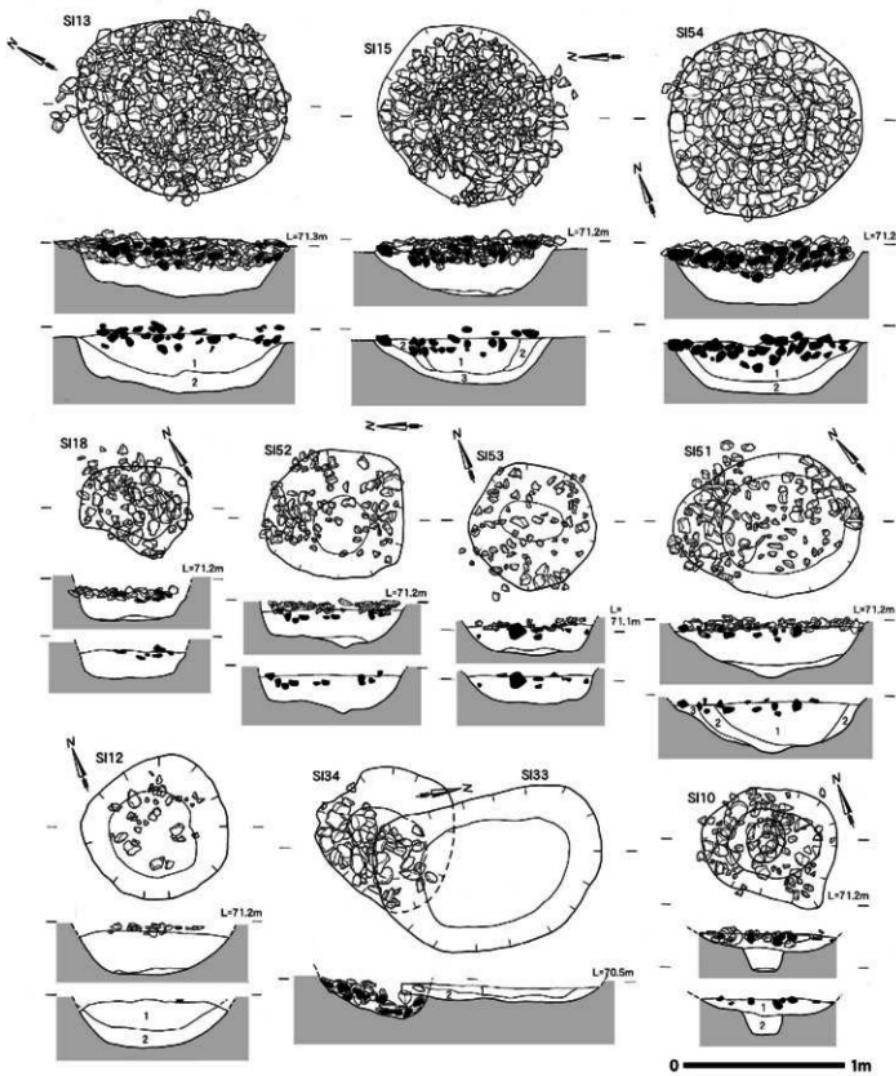
第54図 繩文時代早期のGr別礫分布（単位はg）

【土 坑・炉 穴】

土坑は散癡の密でない地点に分布し、平面格円形のもので、掘り込みは浅い。埋土中に炭化物粒を含むほかは目立った特徴はない。なお、図化した土坑のほか、丘陵北斜面の沢そばで、シミ状の遺構も複数確認された（図版136頁）。各遺構は直径0.5~1mの円形・梢円形であり、明確な立ち上がりのないこと・埋土中から遺物出土のないこと・埋土が単色であること（ML1と近似）から樹痕等あるいは波打った包含層下面の

残骸と判断した。

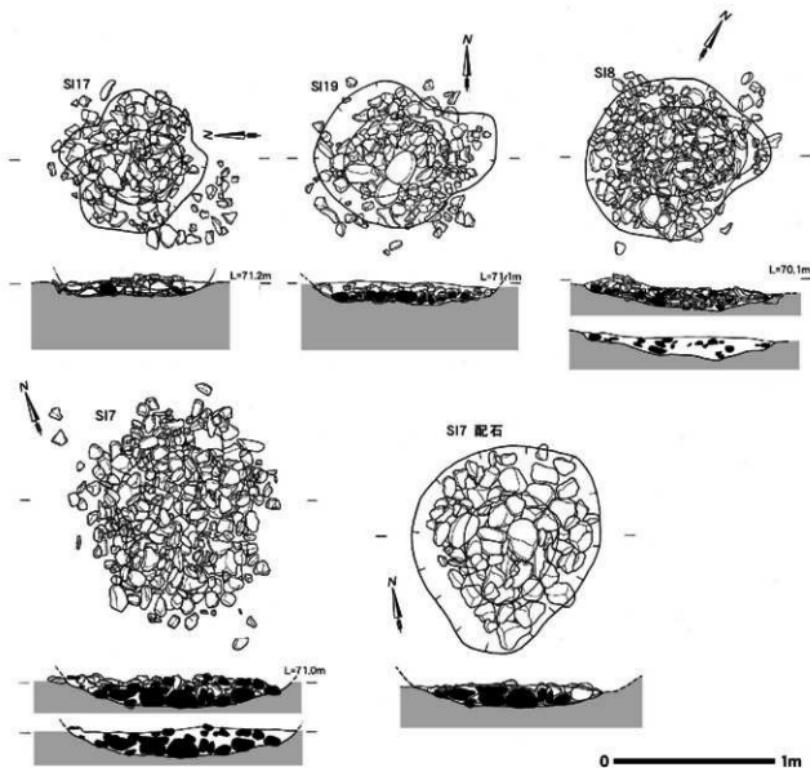
炉穴は散癡・集石遺構のもっとも高密度な地点に分布する。平面形は、長軸1.5~3.5m、幅0.9m前後の細長い土坑がますあり、その一端に直径0.8mの円形土坑が組み合わさったような格好をする。床面は両端がやや深く、とくに円形土坑部分が深く掘り下がる（SP50・60・61）。埋土は、細長い土坑と円形土坑との連結点付近に地山土ブロックが密に含まれるものがある（SP50）。この特徴からは、本来「連結土坑」で



第55図 縄文時代早期の集石遺構（1）

あったものが、そのブリッジ部分が崩壊したことで一つの土坑となつたものである。

なお、現場写真を整理中に、散碟の合間に炉穴と思われる焼土の広がりが確認された。散碟の精査や包含



第56図 縄文時代早期の集石遺構（2）

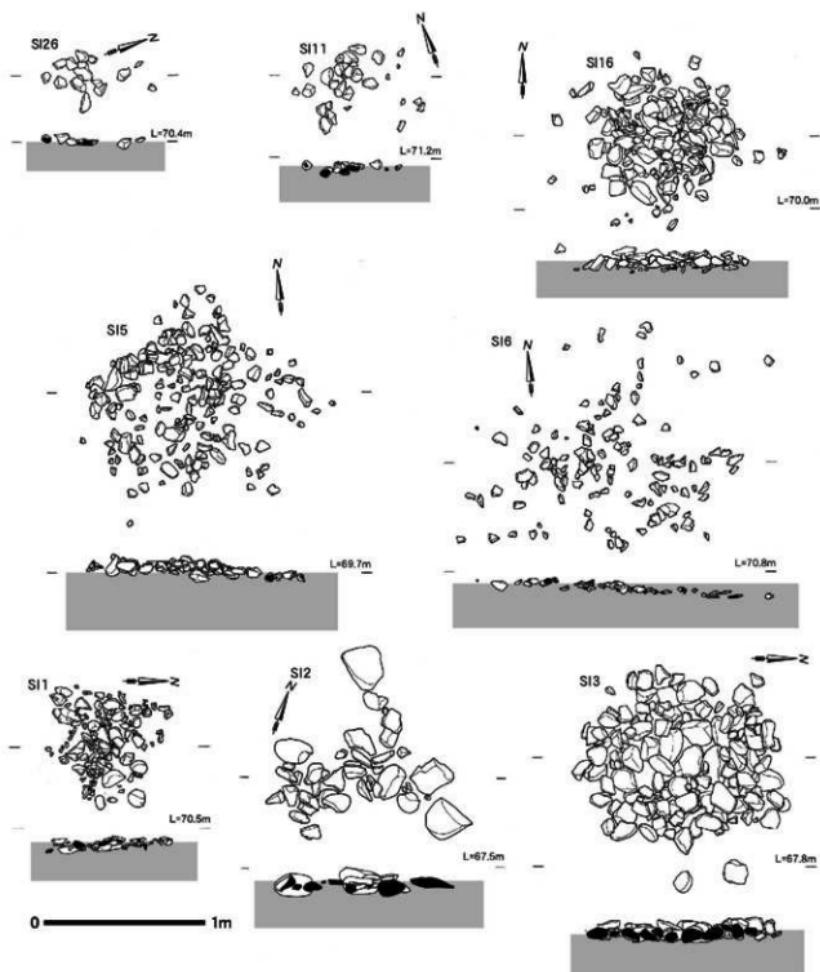
層の掘削にあたって、特に検出の困難な炉穴には注意を払っていたが、調査中には全くその存在に気付かなかつた。意識なき写真のみでの記録のため、この炉穴についての正確な属性は明らかにしえないので、およその位置関係についてはSI18そばである。

5. 縄文時代早期の丘陵上の遺物

土器は少量の出土である。剥片石器としてチャート（母岩Ch10～Ch17）・流紋岩（Rh）・サヌカイト（Sn）・ホルンフェルス（母岩HZ）・姫島産黒曜石・腰岳産黒曜石・桑ノ木津留産黒曜石・頁岩（Sh）が出土した。このほか炭化材も出土した。

【土 器】

遺構出土分として、SP50（第59図661～663・668）・SP61（第59図664・665）が、散疊と混在して出土した分として、E54Grを中心とする一群・G64/G53Grを中心とする一群・F34Gr・H82Gr出土がある（第59図666・667）。土器の接合関係は1m内外で収まるもののみであり、遺構出土分・包含層出土分の接合は1例（第59図664）のみみられた。土器は小片化・摩耗が進んでおり個体識別が困難ではあるものの、大半は貝殻条痕系のもので、胎土・器厚等の諸特徴から10個体未満の深鉢があったと推定される。なお、図化資料以外に尖底の底部片1点があり、貝殻条痕系の一群よりは古相のものであろう。

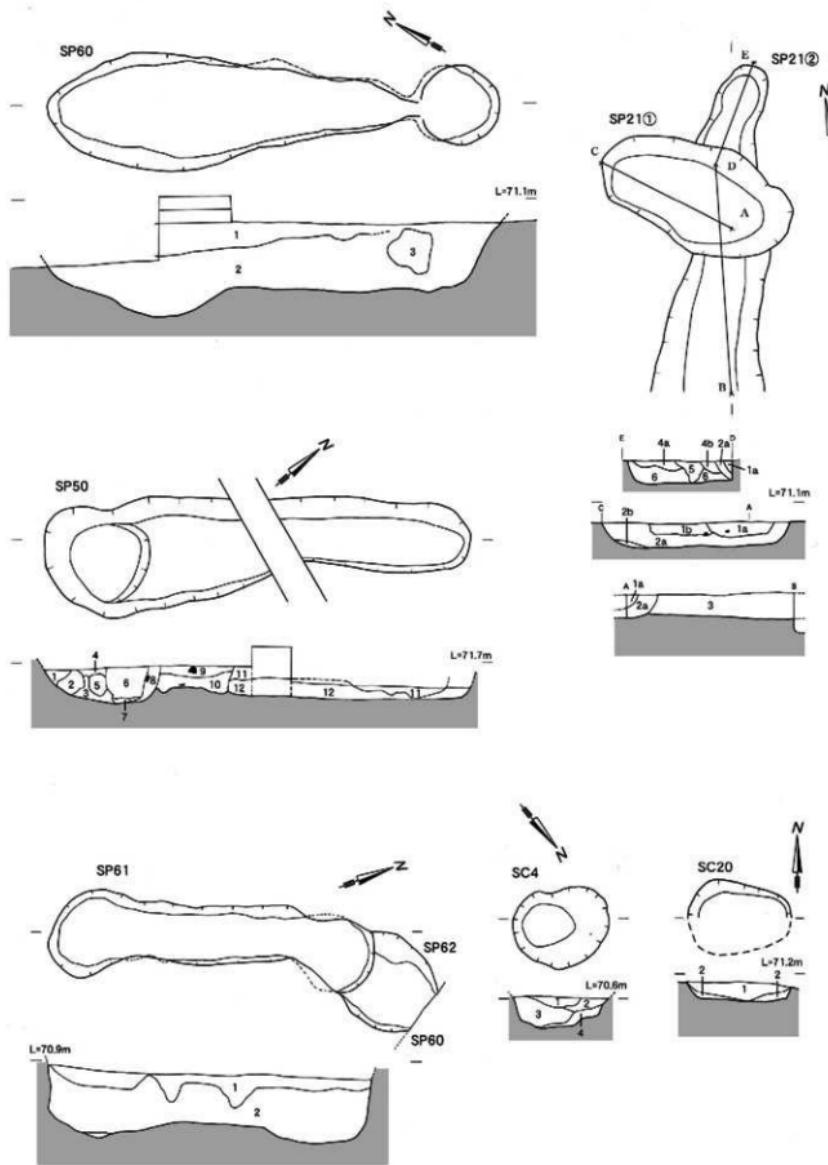


第57図 繩文時代早期の集石遺構（3）

【打製石錐】

チャートCh10～Ch14・Ch17は打製石錐の生産にあたったものである。打製石錐生産にともなう調整剥片が各母岩とも大量に出土し、主なもののみ固化対象とした。調整剥片の特徴は以下のとおり。打面は点状・線状のほか、打製石錐の表面が大きく打面に含まれる

ものがある。後者の打面と石器正面とのなす角度は、統計処理等は経ていないものの、打製石錐の側縁の角度と共通あるいはやや大きいものであり、ある程度整形の進んだ工程での調整剥片とわかる。剥片形状は細石刃様のもの、幅広不定形のもの（末端広がるもの・先細りのもの等各種あり）がある。調整剥片どうしの



第58図 繩文時代早期の炉穴・土坑

表12 繩文時代早期の集石遺構一覧

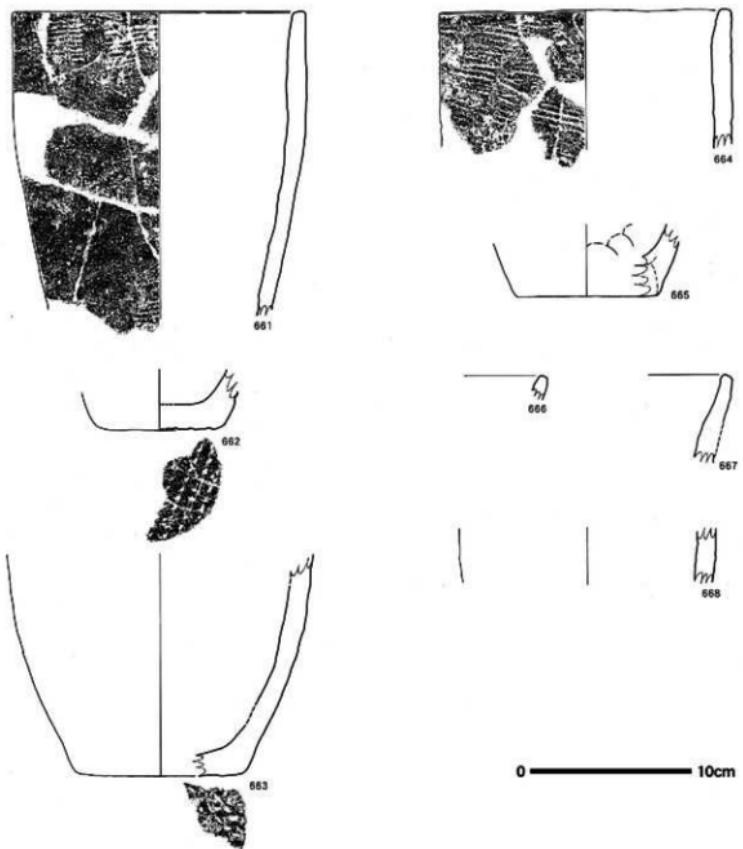
No	位置	遺構の特徴や様式状況・方法等	土坑規模・埋没深度(m)	礫の包含状況・種類割合の特徴	埋土	炭化物
1 SII3 VI	丘陵南斜面	範囲下で検出。	1.3×1.0×0.4	土坑上部に礫を密に包含。配石なし。	1層は黒色土・2層は褐色土。2層の暗褐色土。は黒色土と褐色土がまだに混在するもので、壁面の岩層との区別が明確であった。	1層に径5mm程度の炭化物を基盤に包含。1・2層に炭化物ほどんどなし。
2 SII5 VI	丘陵南斜面	範囲下で検出。	1.1×1.1×0.3	土坑上部に礫を密に包含。配石なし。	土坑上部に堆積する1層は黒色土・2層は褐色土。2層の暗褐色土。は黒色土と褐色土がまだに混在するもので、壁面の岩層との区別が明確であった。	1層中に径3~5mmの炭化物を基盤に包含。1・2層に炭化物ほどんどなし。
3 SII4 VI	丘陵南斜面	範囲下で検出。	1.1×1.1×0.3	土坑上部に礫を密に包含。配石なし。後出しは、集石遺構中心に向かって洗浄され、巻くような格好で砾が配される。	土坑上部に堆積する1層は黒色土・2層は褐色土。2層の暗褐色土。は黒色土と褐色土がまだに混在するもので、壁面の岩層との区別が明確であった。	1層に径5mm程度の炭化物を基盤に包含。1・2層に炭化物ほどんどなし。
4 SII8 VI	丘陵南斜面	上部の削平ではなく、ほぼ本來の形状を保つと思われる。	0.7×0.7×0.2	土坑上部に礫を密に包含。配石なし。	細粒褐色土。	径1~3mmの炭化物を、土坑内に包含。
5 SII2 VI	丘陵南斜面	範囲下で検出。	0.8×0.8×0.3	土坑上部に礫を密に包含。配石なし。	細粒褐色土。	径2mmの炭化物を基盤に包含。
6 SII3 VI	丘陵南斜面	範囲下で検出。	0.8×0.7×0.2	土坑上部に礫を密に包含。配石なし。	細粒褐色土。	径1mmの炭化物を基盤に包含。
7 SII1 VI	丘陵南斜面	範囲下で検出。	1.2×0.9×0.3	土坑上部に礫を密に包含。配石なし。	1層褐色土、2~3層のみ 黒褐色土。	1層にはみかん皮状の炭化物を基盤に包含。
8 SII2 VI	丘陵南斜面	範囲面で検出。	0.9×0.9×0.3	土坑上部に礫を密に包含。配石なし。	1層は黒色土・2層は褐色土。1層には1~3mmの砂利を含む。	1層に径5mmの炭化物を基盤に包含。2層は少量包含。
9 SII3 VI	丘陵東斜面	土坑の奥中央に大量的の赤化物が含まれていた。赤化物は、被覆された黒石遺構であることが想定され、赤化物の最深部に検出SII3が検出され	1.4×1.0×0.1	不詳。	1層は黒褐色土・2層は褐色土。	1層に径5mm程度の炭化物を基盤に、小さな赤化物を基盤に包含。
9 SII4 VI	丘陵東斜面	以上のようにSII3からSII4へとかけて、層厚が薄くなる傾向がある。SII4はSII3に切替る。	0.9×0.8×0.3	埋土中には丸餅状の赤化物が多く含む。褐色土。	細小な炭化物を基盤にわざわざに含んでいた。	
10 SII10 VI	丘陵東斜面	2層重なりの土壌。深さ10cmの浅い段状の状の土壌があり、その土壌中央に深さ15cm、幅25cmのビット状の掘り込みを持つ。	0.8×0.7×0.3	複数の上部の浅い段状の土壌中のみを1~2層ともに褐色土で含され、下部のビット状の掘り込みにあまり差がない。上部には包含されない。	小林粗石が良好に含まれる。	
11 SII17 VI	丘陵東斜面	上部は削平あり。土坑プランは削平で、土坑の入り方などによって判断した。	0.9×0.9×0.8	複数は土坑底まで達する。複数の大半は褐色土。	褐色土。	ごくわずかに炭化物を包含。
12 SII19 VI	丘陵東斜面	上部は削平を受けしており、土坑のプランは明確ではなく、炭化物の含有状況、砾の入り方などを判断した。	1.0×0.9×0.1	黒石遺構の中央には長径20cm程度の褐色土。大形粗石3点が出土されたが、規則的な配置ではない。	褐色土。	ごくわずかに炭化物を包含。
13 SB VI	丘陵東斜面	範囲面で検出。	1.0×1.0×0.2	複数は土坑底まで深くなく完現される。褐色土。	褐色土。	最大で径5mm程度の炭化物を包含。
14 SII7 VI	丘陵東斜面	土坑上部は削平されており、土坑の本來の形状は不明確であるが、かなり大形の赤石遺構であった可能性が高い。赤石遺構の側面一枚目すと、すでに配石が検出された。配石は土坑底部に直接置かれていた。	2.1×1.2×0.2	土坑中央に25cm×20cm×15cmの大きな平石が倒かれて、その周囲をまるうに10~30cm角の平石が配される。	褐色土。	土坑底面に径3~5mmの炭化物が壁に貼り付く。
15 SII26 VI	丘陵北東斜面	範囲面で検出。	0.4×0.4	礫总数15点の小規模なものである。	無	周囲には径2mm程度の炭化物が散在。
16 SII1 VI	丘陵東斜面	範囲面で検出。	0.8×0.6	無	無	
17 SII16 VI	丘陵北東斜面	包含層面で検出。	0.9×0.8×0.2	SII16周囲の状況がやや下がっており、複数は、その周囲にたまつたものと想定される。	褐色土。	周囲に少量炭化物散在。
18 SII5 VI	丘陵東斜面	複数は、折れ曲がりや直上直下がった箇所に密集する。	1.7×1.3	複数の一部。	褐色土。	周囲に径3~5mmの炭化物を含む。
19 SII6 VI	丘陵東斜面	範囲面で検出。	2.0×1.4	複数の一部か。SII5に比べて、複数密度は低い。	褐色物質や土塊は検出されなかった。	
20 SII1 VI	丘陵北斜面	赤土除去時点でR1層まで削平。土壌はすでに削平か。	0.7×0.8	無	無	周囲に径3mmの炭化物を、土壌あり。
21 SII2 VI	丘陵北斜面	砂礫層面上で検出。	1.3×1.2	複数は20cm前後・5~10cm前後が複数。複数の大半は赤色。	褐色物質の塊、土塊等は未検出。	
22 SII3 VI	丘陵北斜面	複数箇所には複数個体が露出し、複数はその個体が用いられる。	1.3×1.3	赤化した複数個体が中央に集中。その周囲には、赤化大形複数あり。	褐色物質の塊、土塊等は未検出。	周囲には若干の炭化物、赤土等は未検出。

表13 繩文時代早期の集石遺構の構成要素

No	埋数 (個)	石材 (点数) 尾輪 砂岩 ホルン	重量 (kg) 尾輪 砂岩 ホルン	石材 (重量%) 尾輪 砂岩 ホルン	備考
SI13	666	71 11 18	83.2	63 12 25	尾SI1, 尾SI2
SI15	294	72 10 18	42.0	74 13 13	尾SI1+517, 尾SI1+5115(G51)
SI54	439	70 11 19	136.7	70 11 19	尾SI1+5152, 尾SI1+5152+8026(G62)+3548(G53)+5271(G51)+5124(G51), 尾SI2
SI18	116	68 15 17	14.2	62 18 20	-
SI52	169	44 11 45	23.1	44 11 45	尾SI1+4322(G52)+5051(G51)+4804(G51)+20205(G41), 尾SI4+SI52+8026(G62)+3548(G53)+5271(G51)+5124(G51), 尾SI1, 尾SI1+5115(G51), 尾SI13, 尾SI4
SI53	122	40 21 39	11.4	40 21 39	-
SI51	177	66 10 24	30.7	66 10 24	尾SI2, 尾SI2+SI54, 尾SI15+517, 尾SI13, 尾SI4+SI52+8026(G62)+3548(G53)+5271(G51)+5124(G51)
SI12	-	- - -	- - -	- - -	-
SI33	-	- - -	- - -	- - -	-
SI34	85	23 50 27	17.1	11 54 35	尾SI6
SI10	-	- - -	- - -	- - -	-
SI17	204	80 6 14	50.3	75 15 10	尾SI2+4322(G52)+5051(G51)+4804(G51)+20205(G41)
SI19	189	74 7 19	45.0	66 4 30	尾SI6, 尾SI6+7156
SI8	343	12 27 61	49.3	11 30 59	-
SI7	615	33 22 45	198.4	23 19 58	尾SI15+SI51
SI26	-	- - -	- - -	- - -	-
SI11	34	65 9 26	4.6	59 6 35	-
SI16	212	55 13 32	47.5	43 16 41	-
SI5	202	39 5 56	31.2	33 5 62	尾SI6+2378, 尾SI6+7173
SI6	137	34 11 55	10.9	30 9 61	尾SI19, SI5+2378, 尾SI34, 尾SI19+7156, 尾SI5+7173
SI1	247	54 20 26	25.9	44 17 39	-
SI2	113	41 15 44	47.1	27 16 55	-
SI3	26	58 25 17	22.3	31 31 38	-

表14 繩文時代早期の炉穴・土坑一覧

No	層	位置	様出状況・調査方法	平面形・床面傾斜等	規模	埋土	炭化物
1 SP60	VI	丘陵南斜面で、長軸は南北から北東に向かう。	椎山遺跡。雨半をV字型で突出。北手を確認上面で横出。	平面は複雑な長方形部で、床面は北から南に向かって傾斜やかに上がり、所縁に土杭状の落込みが見られる。	長軸3.5m×短軸0.8m	SP62を切る。「層はVI層に相似することから、ドーナツ状の煙道矢穴の崩落に由る可能性がある。土坑の一端の床面はよく焼けていた。」	高塗なく含まれ。とにかく、土坑底面付近で観察。
2 SP21③	VI	丘陵南斜面で、長軸は南北から北東に向かう。	椎山遺跡。VI-層中で横出。	長軸円形	長軸1.5m×短軸0.9m×残深0.2m	2層に分かれ、培根土が焼成した後、青苔に覆まれた褐色土のブロックが埋土上部の中央に堆積する。後者には炭化物を含む。	埋土下部の焼成土色土中～土坑底面付近で観察。
3 SP21②	VI	丘陵南斜面で、長軸は南北から北東に向かう。	土坑底は土II(?)に切られる。	平面は先端の長い長方形で、床面は緩やかに傾斜し、南から北に向かってやや上がる。	長軸2.7m+o+短軸0.9m×残深0.2m	大半が褐色土であり、土坑本体に非常に黒青の褐赤色土ブロックや径3mm程度の灰化物を散在する。土坑口部に含む層が見られた。	高塗なく含まれ。とにかく、土坑底面付近で観察。
4 SP50	VI	丘陵南斜面で、長軸は南北から北東に向かう。	椎山遺跡。雨半をV字型で突出。北手を確認上面で横出。	平面は複雑な長方形部で、床面は北から南に向かって傾斜やかに上がり、所縁に土杭状の落込み。	長軸3.5m×短軸0.8m	複数。西端を柱穴(底穴)であったと想定するなら、「~5層は焼造層、9~10層はブリッジ部分の崩落か、11~12層は炭化口部にあたる可能性が高い。」	高塗なく含まれ。とにかく、土坑底面付近で観察。
5 SP61+62	VI	丘陵南斜面で、長軸は南北から北東に向かう。	椎山遺跡。VI-層中で横出。	平面は複雑な長方形部で、床面は南側・SP62と並ぶ位置で落込みが見込まれる。	長軸5.3m×短軸0.9m	SP62を切ってSP61が構築される。一場の円形土杭状に下がる部分の床面がよく焼けている。	高塗なく含まれ。とにかく、土坑底面付近で観察。
6 SC4	VI	F21		長軸1.6m×短軸約1.4m	4層に分かれ、埋込する。	各層中に2mm以下を越すに含む。	
7 SC20	VI	F21		長軸1.8m×短軸約1.2m	2層に分かれ、埋込する。	各層中に2mm以下を越すに含む。	
SPX	VI		写真複数中規則。				



第59図 繩文時代早期の土器

接合も複数例確認されている。石核は概して小形であり、下端が尖るような残核形状が特徴的とみられる。石核に残された剥離面や中・大型剥片からは、打製石器の素材剥片は縱長剥片から幅広剥片である。

桑ノ木津留産黒曜石は打製石器生産の有無が明確でない。同石材には打製石器のほか、尖頭器様の異形石器2点がある。異形石器はチャート打製石器の生産地点で出土し、あきらかに搬入品である。

腰岳産黒曜石・姫島産黒曜石等も器種生産の様相が明確でない。

【その他の石器】

打製石器のほか、少量ではあるがホルンフェルス製の削器等が出土した。

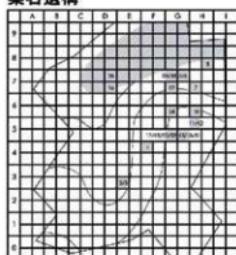
【炭化材】

E33Gr VI層中から炭化材が検出され、これについて年代測定と樹種同定を古環境研究所に依頼した。分析の結果、コナラ属アカガシ亜属（補正¹⁴C年代8210±40B.P.）の材と判明した。

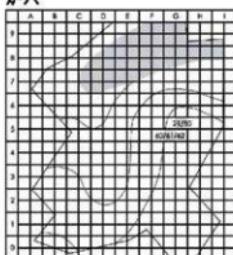
表15 繩文時代早期の石器石材と剥片剥離

母岩	原石・石質の特徴	図No	石器生産の様相	点	総重量 (g)
Ch10	剥離面は乳白色で、幅のある黒色筋が入る場合あり。透通性あり。	669~748	打製石器生産主体。	80	91.0
Ch11	剥離面はうすい黄褐色でザラザラする。剥離面はくすんだ白色~緑に近い灰色で露降り肉風。黒筋が走る。透通性なし。推定円盤。	749~763	打製石器生産主体。硬面残着率の高さから、原石が小振りであったか、原石あるいは分割研磨待ち込みの後、剥片剥離したものか。	15	21.1
Ch12	剥離面は油脂状光沢が顯著で、うすい小豆色~ワカメ・コンブといった海草類に近い濃い緑色。わずかに黒筋が入る。透通性あり。	764~791	打製石器生産主体。	28	28.6
チ ヤ ー ト	岩石学的には石英(玉髓)に属するものか。剥離面は桜色~白色~透明~銀色(昔からある金平糖の色に近い)で、場所によっては晶洞を持つ。透通性はないあるいは低い。	792~806	打製石器生産主体。	15	24.4
Ch14	剥離面の見た目は田舎耕風。乳白色に、濃い藍色の筋が縱横に走る。Ch10との境界が難しい。透通性あり。	807~826	打製石器生産主体。	20	37.1
Ch15	剥離面は濃い灰色。	838	打製石器1点のみ。	1	1.4
Ch16	剥離面は濃い小豆色。	839	打製石器1点のみ。	1	1.7
Ch17	黒緑。	-	打製石器調整片が大半。色調の類似から、Ch12と同一母岩の可能性あり		
R	夷奴岩。	840	打製石器1点のみ。	1	5.7
Sn	サスカイト。	653~834~837	打製石器5点のみ。	5	2.2
HZ	ホルンフェルス。	846~905		60	13894.9
そ の 他	姫島産黒曜石。 腰Ob 腰岳産黒曜石。 桑Ob 桑ノ木津産黒曜石。 Sh 真岩。 S 砂岩。	652~654~841 ~845 658 827~833 660 906	打製石器は単独出土。剥片類は打製石器調整片か明確でない。 打製石器1点のみ。 打製石器1点のみ。 打製石器1点のみ。 敲石1点のみ。	7 1 1 1 1	4.0 1.3 2.8 2.2 171.8

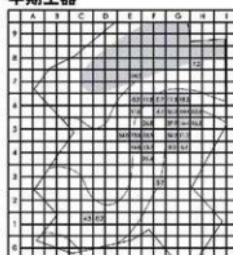
集石遺構



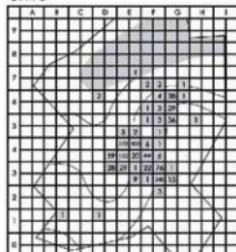
炉穴



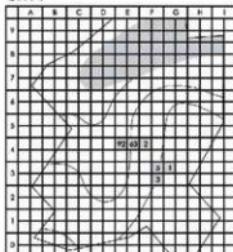
早期土器



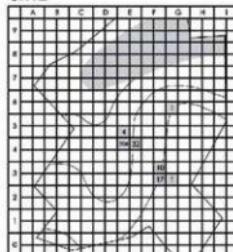
Ch10



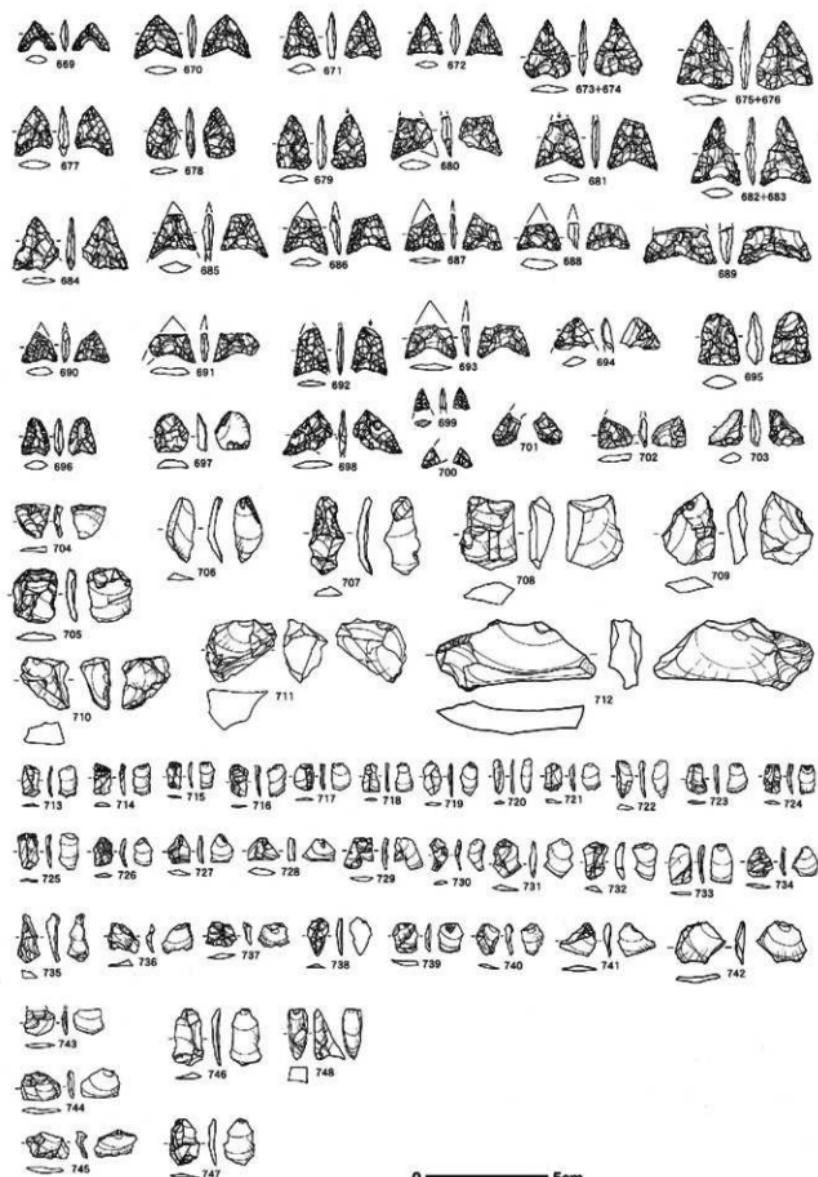
Ch11



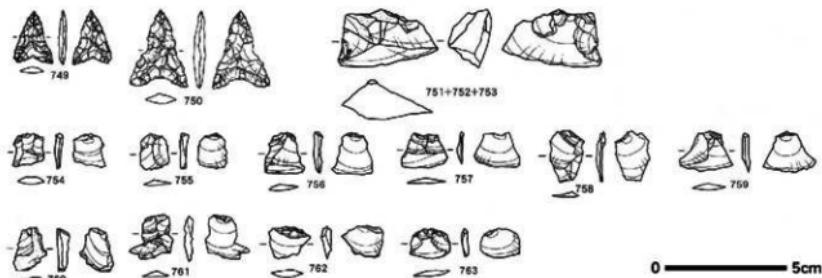
Ch12



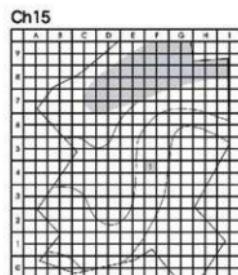
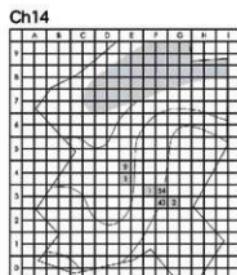
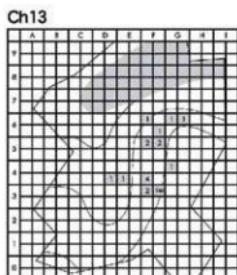
第60図 繩文時代早期の遺構分布・遺物分布（1）



第61図 繩文時代早期の石器（1）



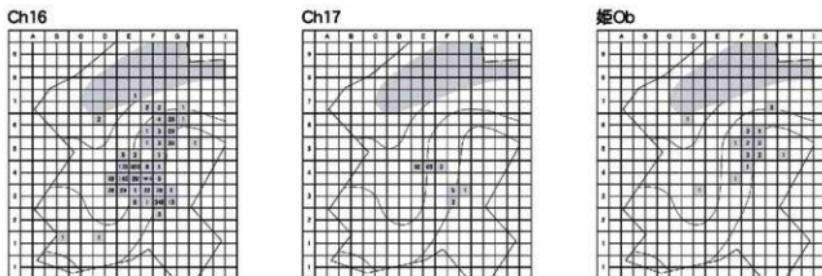
第62図 縄文時代早期の石器（2）



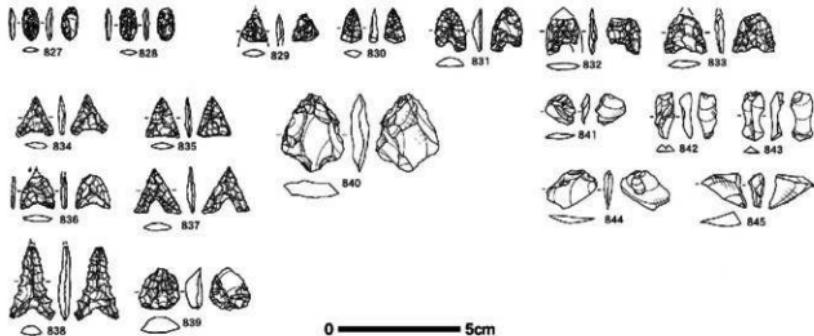
第63図 縄文時代早期の遺物分布（2）



第64図 縄文時代早期の石器（3）



第65図 縄文時代早期の遺物分布（2）



第66図 繩文時代早期の石器（4）

E33Gr 出土炭化材の放射性炭素年代測定・樹種同定結果

<年代測定>

1. 試料と方法

地点・層序	種類	前処理・調査	測定法	
E33Gr・VI	炭化材（アカガシ亜属）	酸-74%希釈洗浄、石墨調整	加速器質量分析（AMS）法	
2. 測定結果				
¹⁴C年代 δ¹³C 補正¹⁴C年代 層年代（西暦） 測定No.（Beta-）				
8250±40	-27.2	8210±40	交点：cal BC 7190 1σ：cal BC 7310～7140 2σ：cal BC 7340～7080	161170

1) ¹⁴C年代測定：試料の¹⁴C/¹³C比から、半減期現在（1950年AD）から現在までの放射性炭素を計算した。¹⁴Cの半減期は、国際的標準により Libby の 5,568 年を用いた。

2) δ¹³C測定：試料の測定¹⁴C/¹³C比を校正するための炭酸ガス濃度比（δ¹³C）は、この値が標準物質（PDB）の実際比から千分率差（‰）で表す。

3) 補正¹⁴C年代：δ¹³C測定から試料中の炭素の組成を算出し、¹⁴C/¹³Cの測定比に補正値を加え、¹⁴Cの濃度を校正した上で算出した年代。

4) 西暦年代：過去の半減期測定の実験による誤差±¹⁴C濃度の実験を校正することにより算出した年代（δ⁹⁰⁰）。現には、年代測定の根木や藤の¹⁴Cの複雑な樹輪、およびサンゴの U-Th 年代、¹⁴C年代と併せて校正曲線との交点の層年代を算出する。1σ（68%確率）、2σ（95%確率）は、補正¹⁴C年代の標準偏差を校正曲線上に投影した層年代の範囲を示す。したがって、複数の点が記された場合は、複数の層年代が記される場合もある。

3. 考察

加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定の結果、E33 グリッドから出土した炭化材（コナラ属アカガシ亜属）では、8,210±40 年 BP（2 σ の層年代で BC 7,340～7,080 年）の年代が算出された。なお、放射性炭素年代測定よりも層年代の年代が小さくなっているが、これは該当場所の層年代校正曲線が不安定なためである。

文献

Sakai, M. et al. (1998). INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, Radiocarbon, 40(3), 中村慶一 (1999) 放射性炭素法 考古学のための年代測定入門, 古今書院, p.1-36.

<培養同定>

1. 試料 図例は、E33 グリッドから出土した炭化材 1 点である。

2. 方法 試料を測定所で剖面的な小さな三面角（小村の剖面法、放射界面、核膜界面）を作製し、各剖面測定によって 75～750 倍で観察した。同様に解剖学的剖面および発生組織との対比によって行った。

3. 結果 分析の結果、E33 グリッドから出土した炭化材はコナラ属アカガシ亜属と同定された。以下に同定結果となった剖面を記し、各剖面の顕微鏡写真を示す。

コナラ属アカガシ亜属 *Quercus subgen. Cyclobalanopsis* ブナ科

横断面：中型から大型の道管が、1～数列隔てで年輪界に関係なく放射方向に配列する放射材である。道管は単独で複合しない。
放射材：道管の穿孔は單穿孔で、放射組織は平状網胞からなる。

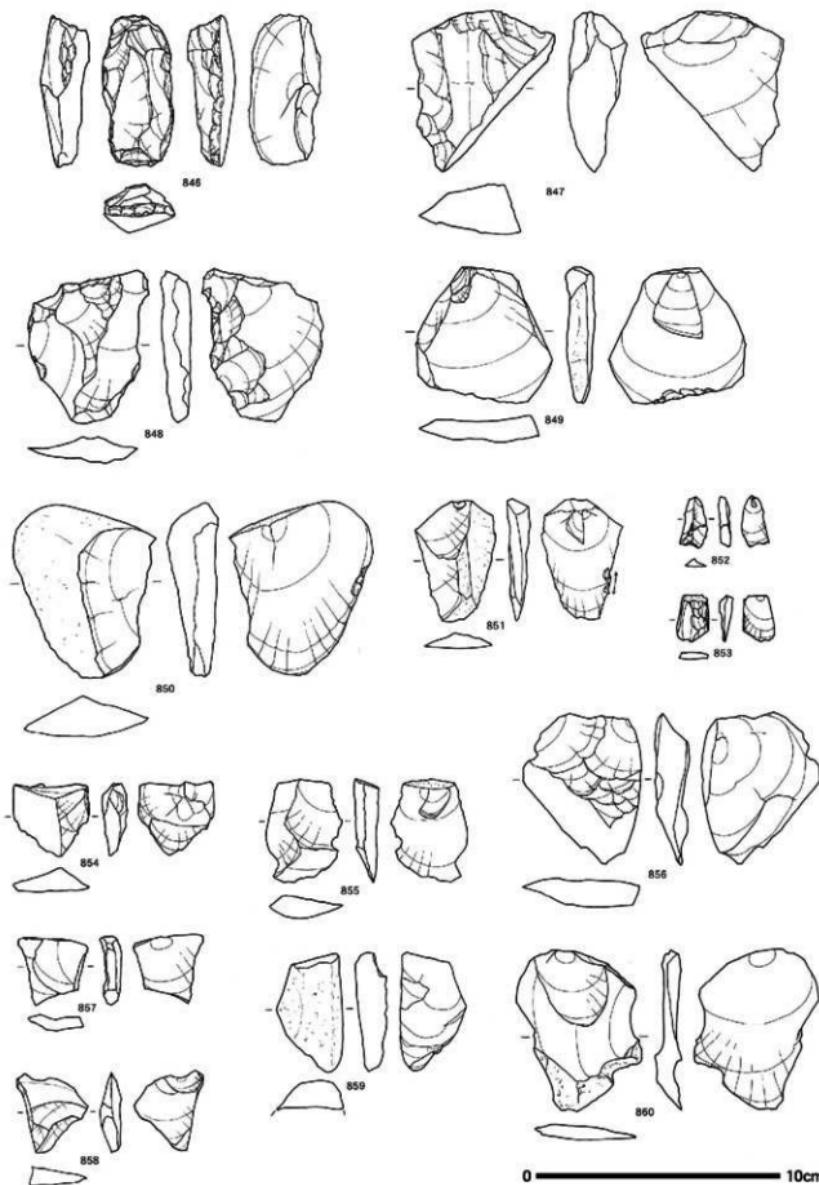
接続断面：放射組織は向性放射組織型で、單列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

4. 所在地 E33 グリッドから出土した炭化材は、コナラ属アカガシ亜属と同定された。コナラ属アカガシ亜属にはアカガシ、イチイガシ、アラカシ、シラカシなどがある。本州、四国、九州に分布する常緑高木で、高さ 30m 程 1.5m 以上に達する。材は堅硬で強靭で彈力性があり、耐久性も高い。

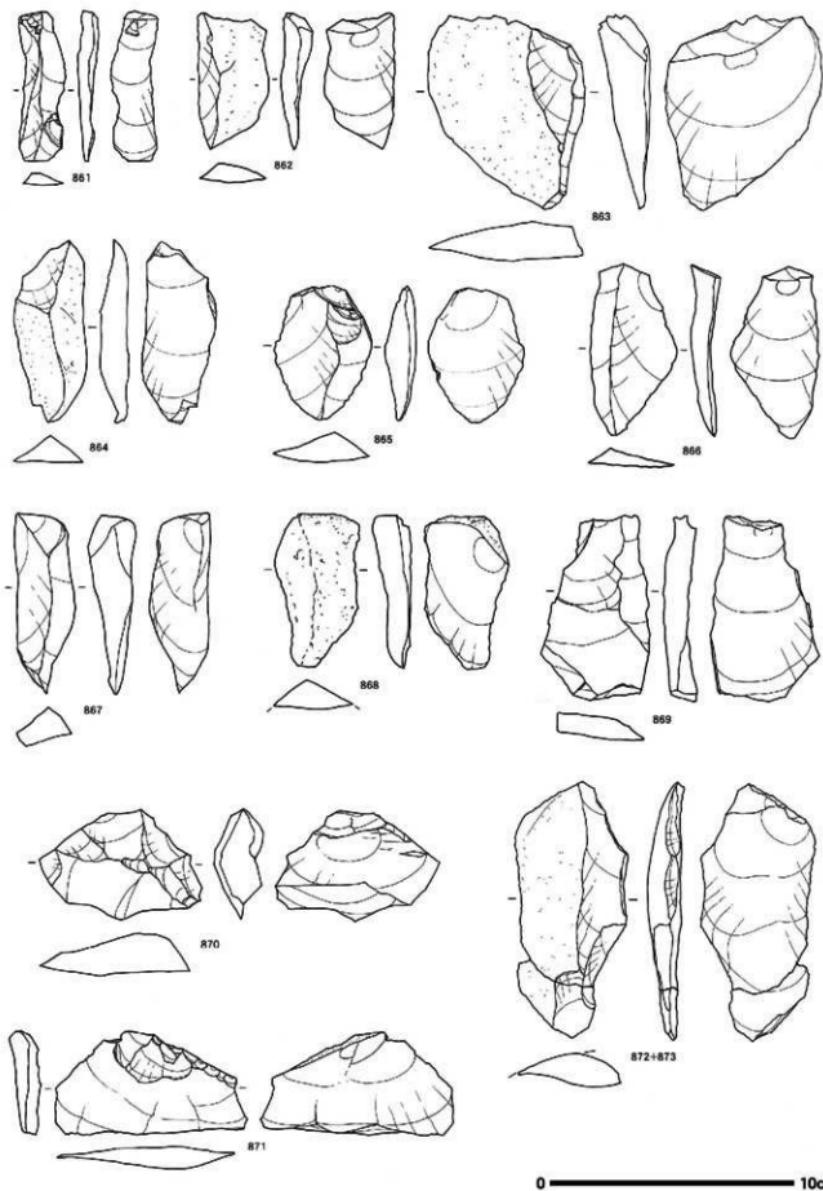
文献

佐野清・原田清 (1985) 針葉樹材の構造、木材の構造、文水堂出版, p.20-48.
佐野清・原田清 (1985) 広葉樹材の構造、木材の構造、文水堂出版, p.49-100.

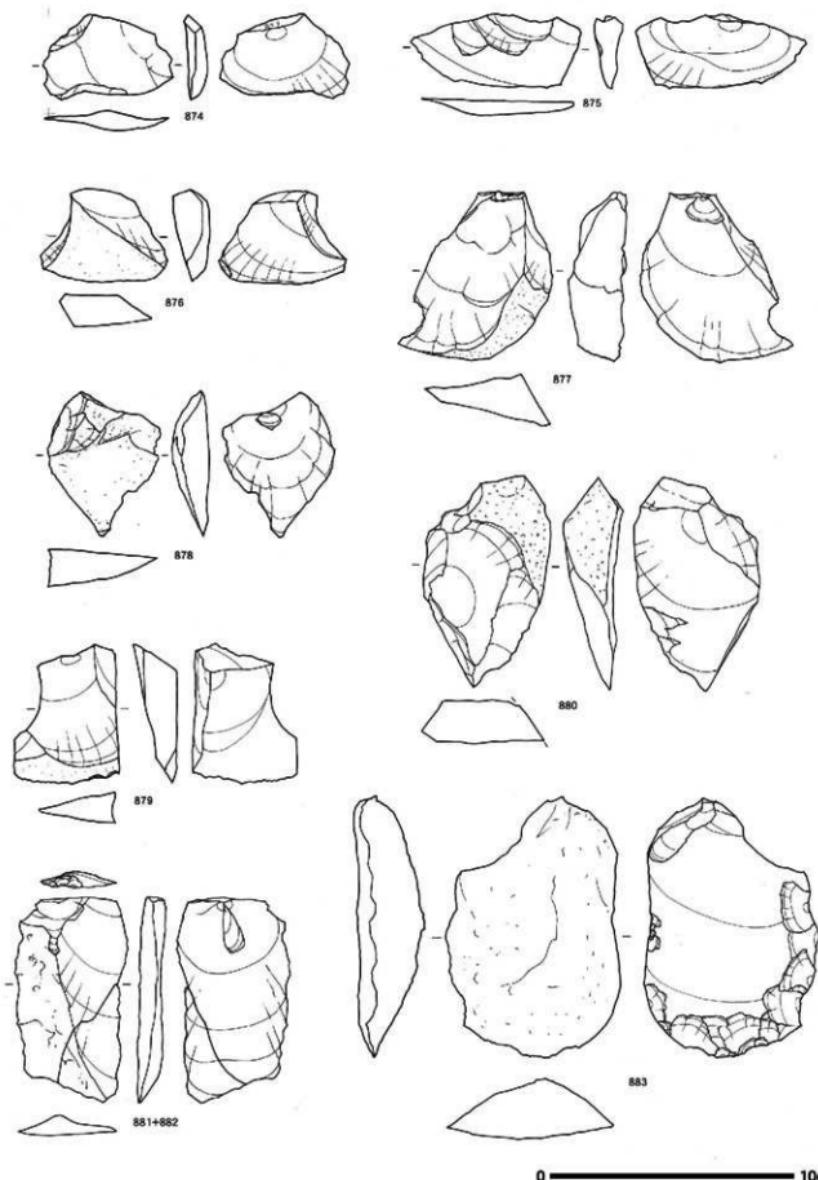
島地謙 (1988) 日本の造林と土木植物誌編集会, p.108, 296.



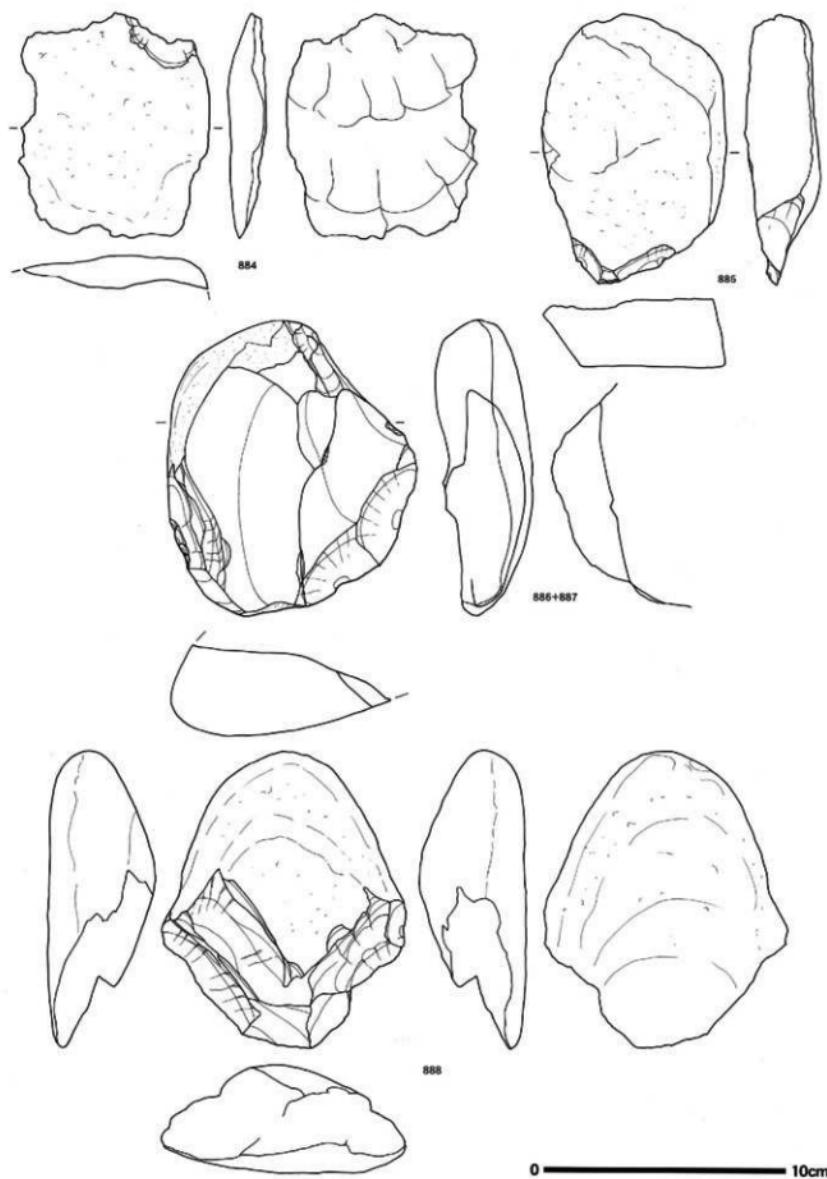
第67図 繩文時代早期の石器（5）



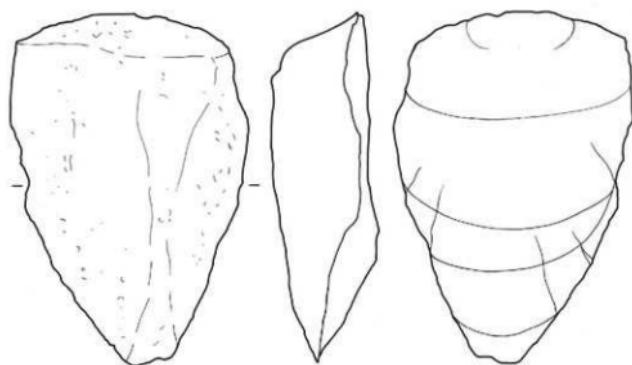
第68図 繩文時代早期の石器（6）



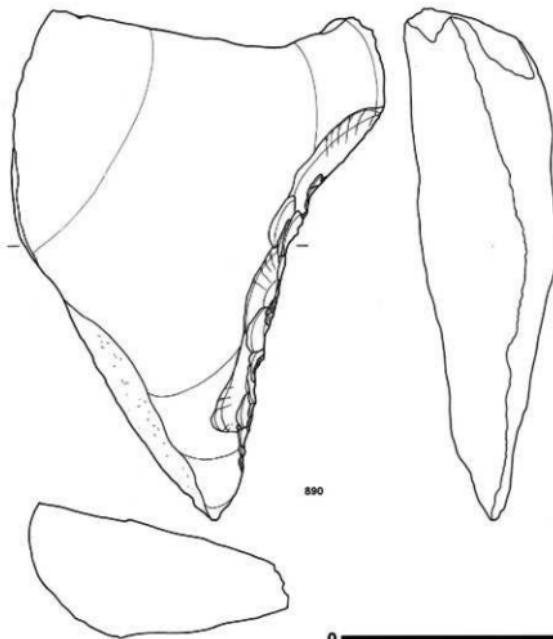
第69図 繩文時代早期の石器（7）



第70図 縄文時代早期の石器（8）



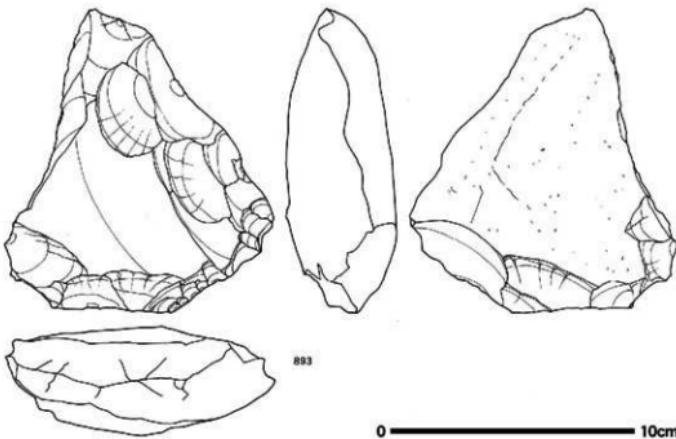
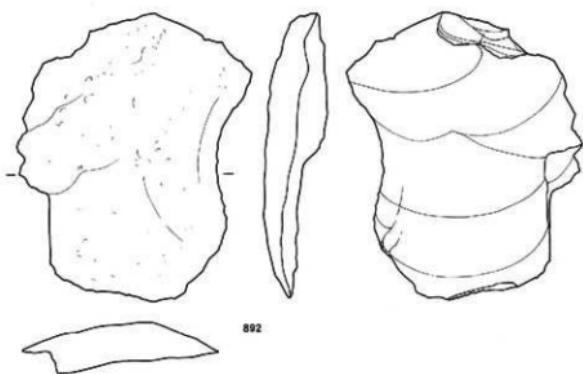
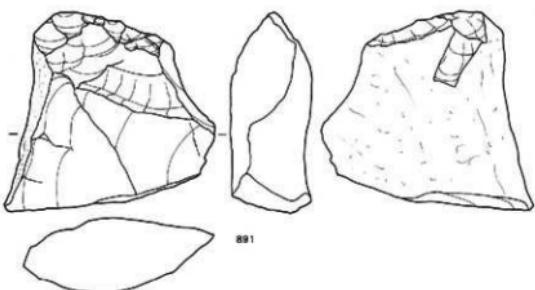
889



890

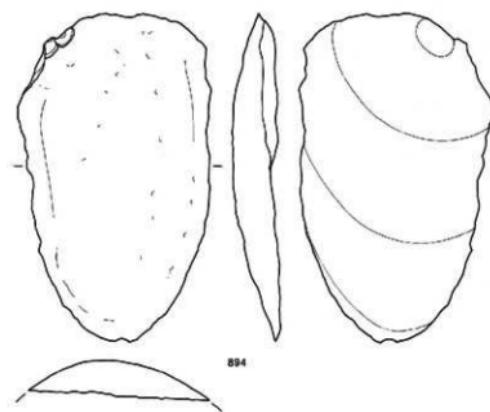
0 —————— 10cm

第71図 縄文時代早期の石器（9）

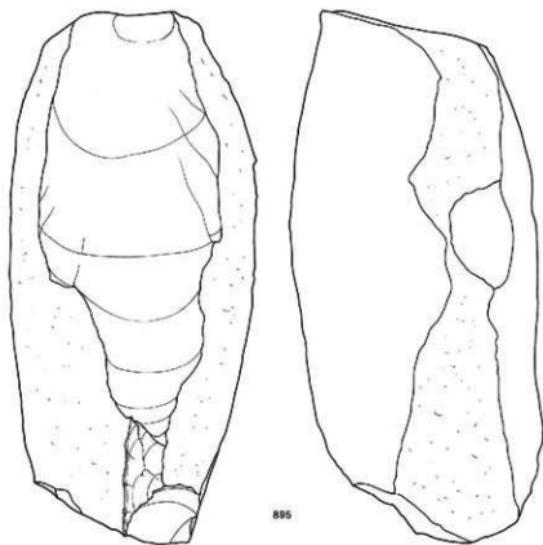


0 ————— 10cm

第72図 繩文時代早期の石器 (10)



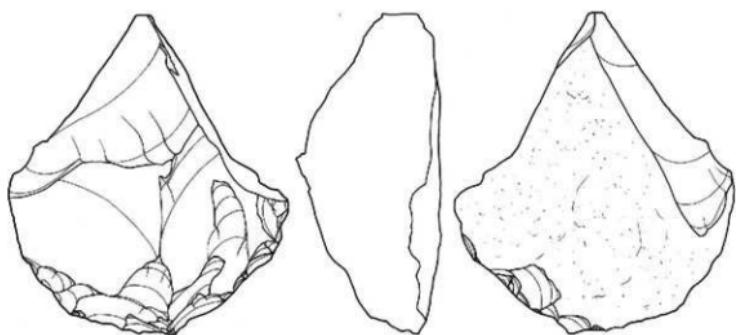
894



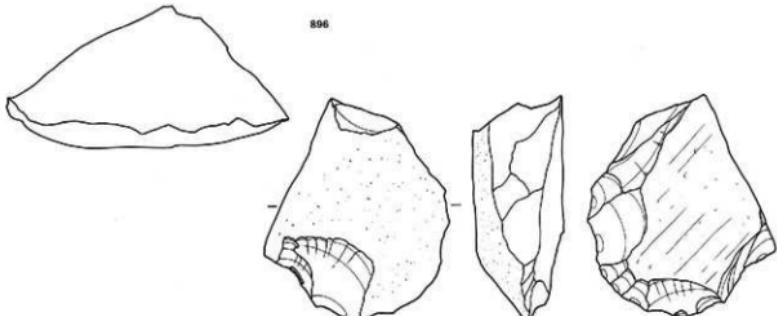
895

0 —————— 10cm

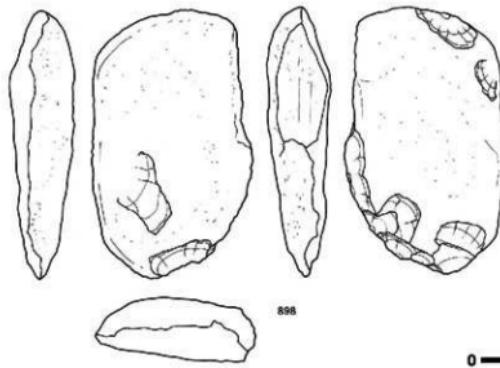
第73図 縄文時代早期の石器 (11)



896



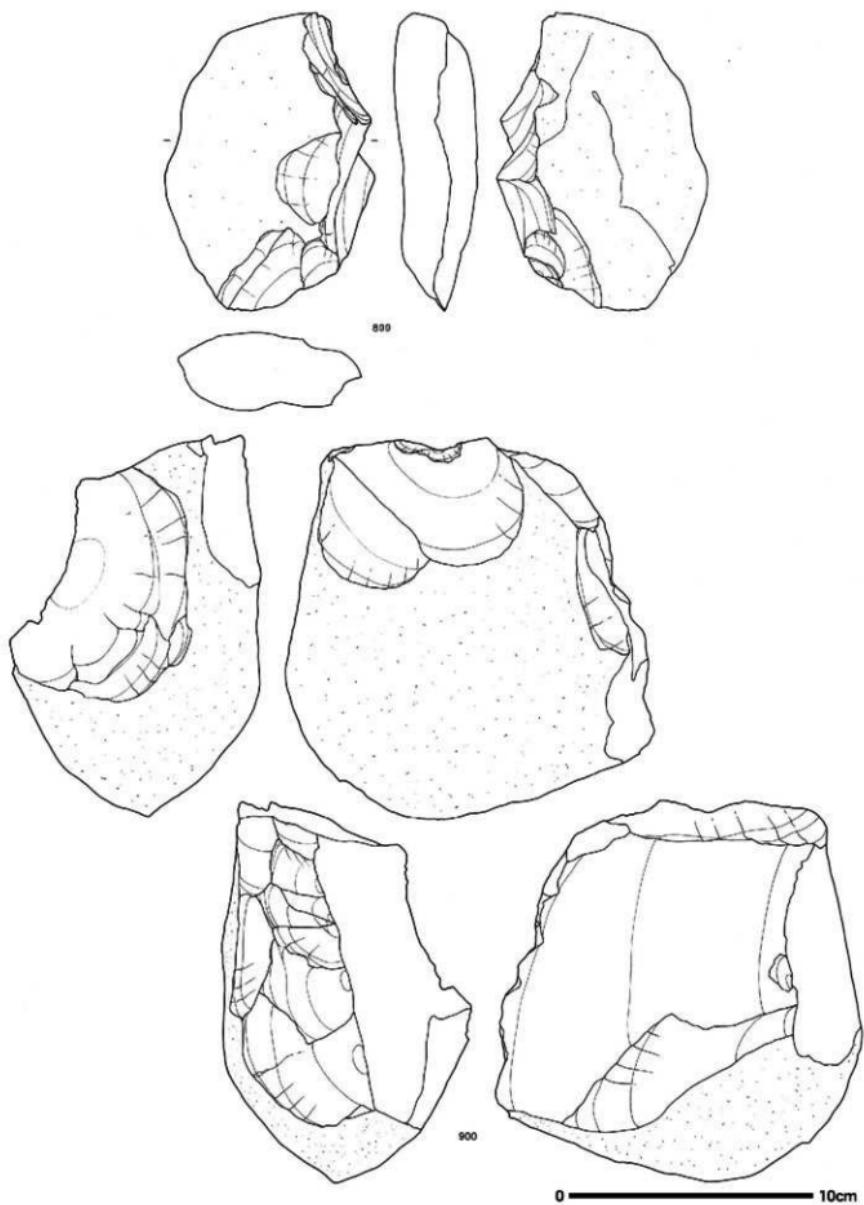
897



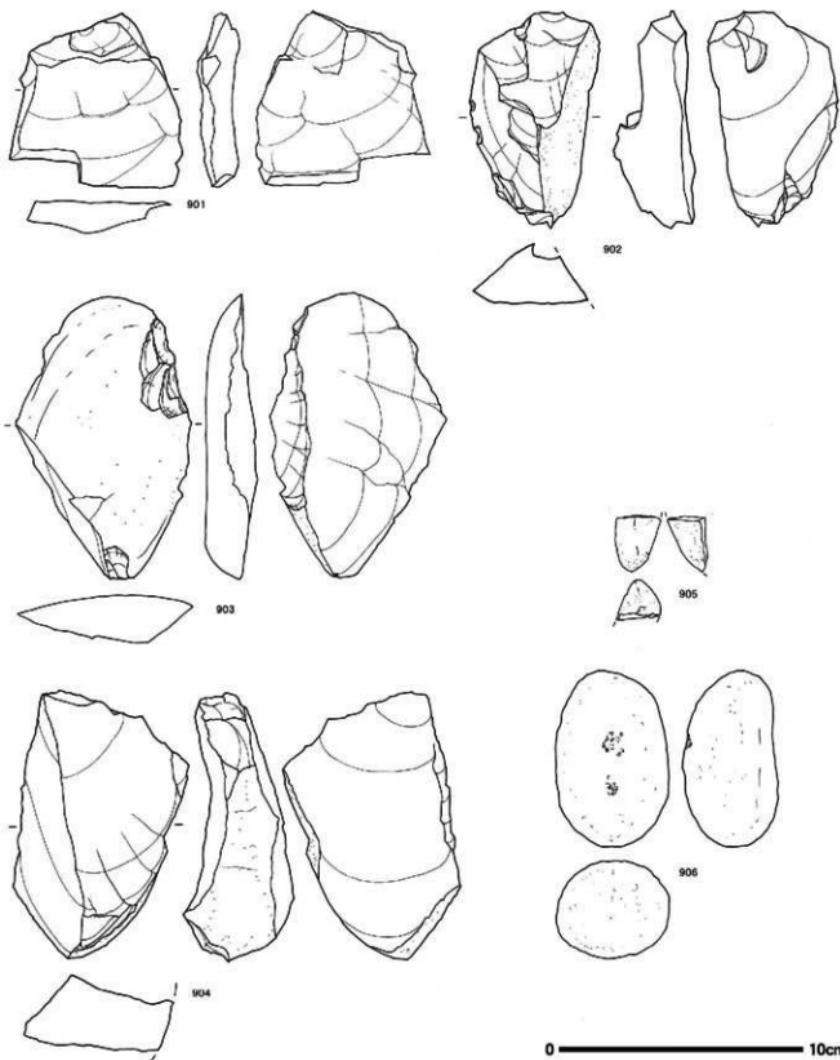
898

0 ————— 10cm

第74図 繩文時代早期の石器 (12)



第75図 繩文時代早期の石器 (13)



第76図 繩文時代早期の石器 (14)

第6節 繩文時代晚期の調査

縄文時代晚期の環境

花粉・植物珪酸体分析では、イネ科やヨモギ属を主体としてキク亜科なども生育する比較的乾燥した草原が成立し、周辺地域にはカシ林（コナラ属アカガシ亜属）やシイ林（シイ属マテバシイ属）などの照葉樹林、ナラ林やハンノキ林などの落葉樹林、およびスギやマツ類などの針葉樹林が分布し、そしてクリ林の増加がみとめられるという（第II章参照）。植生からは、旧石器時代以来みられた低地・湿地は埋没し、乾地に転換していたと言える。

縄文時代晚期の遺構・遺物の概要

III層のうち、御池ボラ上位10~15cmかつ高原スコリア下位より、深度幅15cm前後の中で総数100点ほどの土器小片・石器・礫が出土した。これらの分布はC6~C7・B7Grに集中する。C6~C7・B7Grは最低所からやや上がった低地に相当する。これらのはか、A区で勾玉が表採された。

なお、確認調査でピット状の遺構とみえたものは、精査の結果、樹痕等と判断した。

縄文時代晚期の遺構

礫はC6~C7・B7Grに散漫に広がっていた。分布範囲は石器の分布と重複している。礫は非常に風化が進んでおり、一見、剥片のようにみえるものもみられた。礫石材はホルンフェルス風のものである。

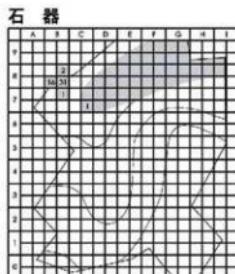
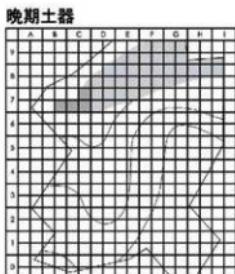
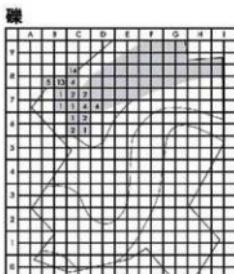
縄文時代晚期の遺物

土器は小片化が著しく、図化に耐えうるのは深鉢口縁（第78図907~909）、同底部（第78図910）のみである。口縁はやや外反し、909のように口唇に丁寧な横ナデのはいるものもある。土器の個体数等については、未図化資料もあわせいずれも粗製深鉢の小片であること、底部は図化した1点のみであること、出土位置が近接していたことから、おそらくは1~2個体分の深鉢であろう。晚期初頭のものか。

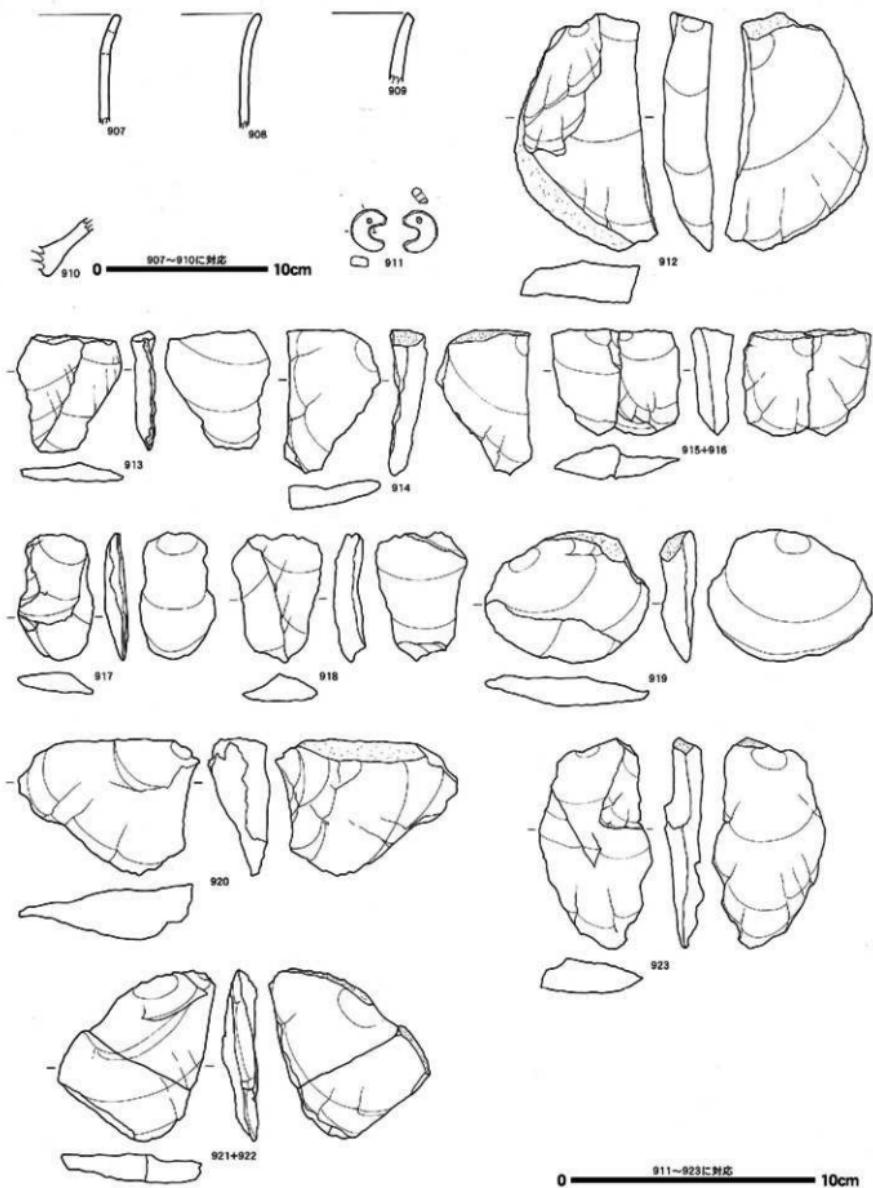
勾玉（第78図911）はC字勾玉である。蛇紋岩製。

石器はすべて尾鈴山酸性岩類製剥片である（第78図912~第82図962）。石核や明確な二次加工を持つ資料はみられない。当初、自然礫と認識していたものの、あきらかな人為的剥離を認めたため、石器群と判断した。

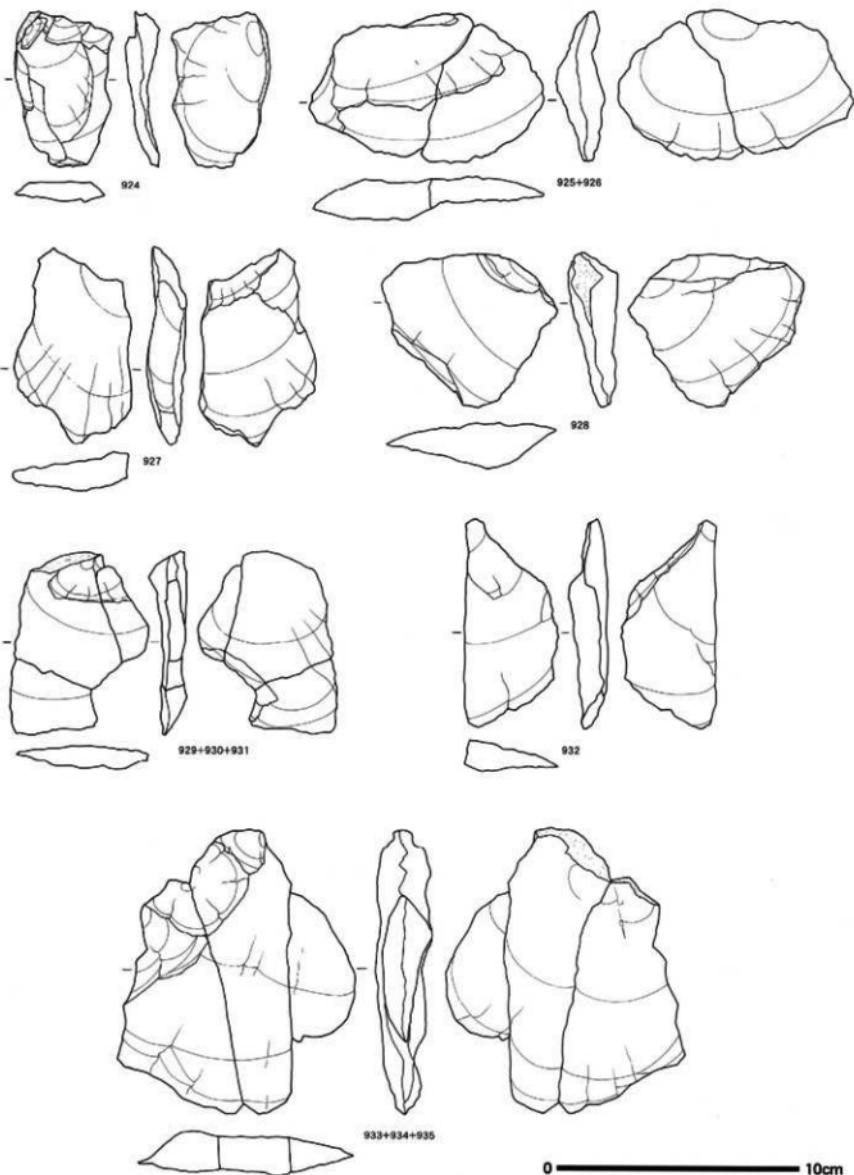
剥片は、縦長からやや幅のある不定形剥片が多い。打面は広くかつ無調整で、大半が蝶打面である。作業面調整はない。蝶面は赤化しているものが多いが、赤化は剥離面にはおよばないことから、剥片剥離以前に蝶面が赤化している。接合例は952+953+954のみ剥片剥離接合であり、他接合例はすべて剥片の折れ面どうしの接合である。石材が脆弱であるためか、剥片打点から縦裂けを起す、あるいは外形の変化点・剥離面の歪み部分から分割している。



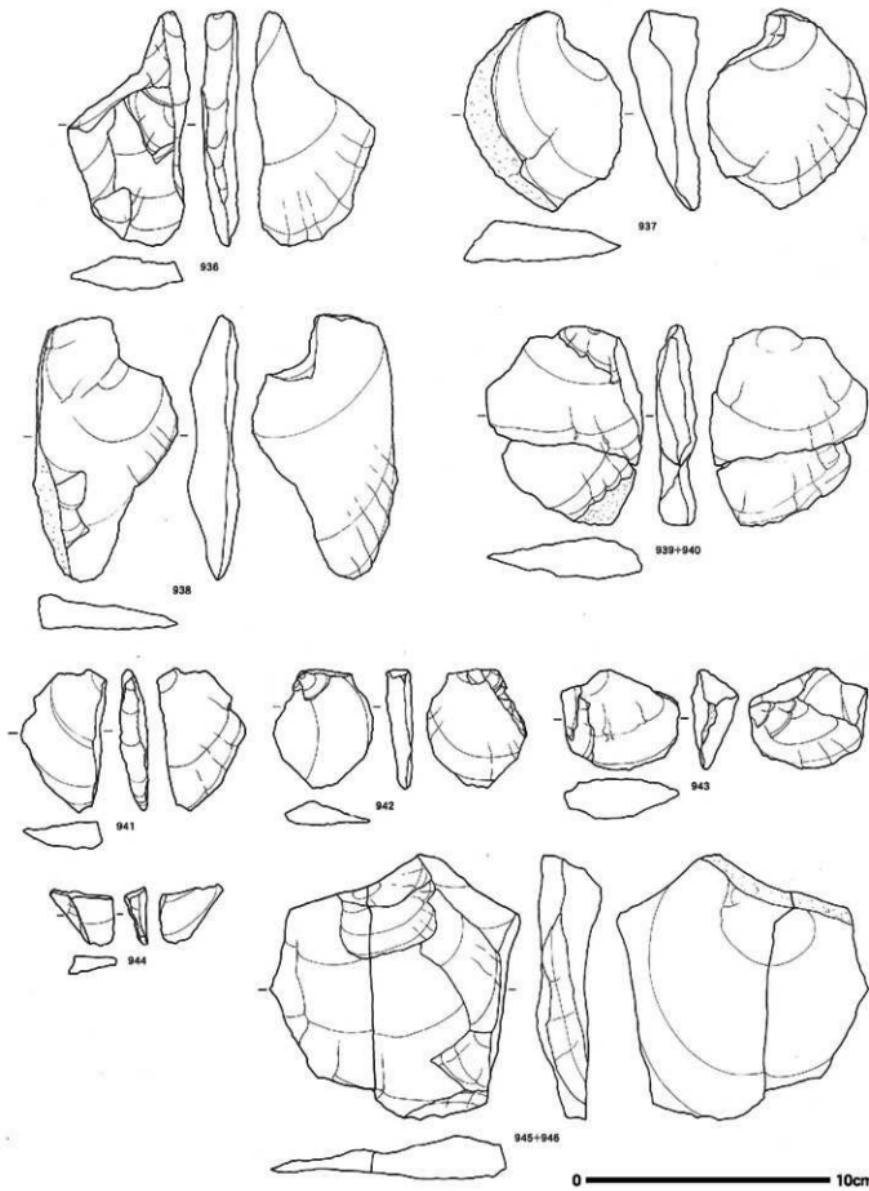
第77図 縄文時代晚期の礫・遺物分布



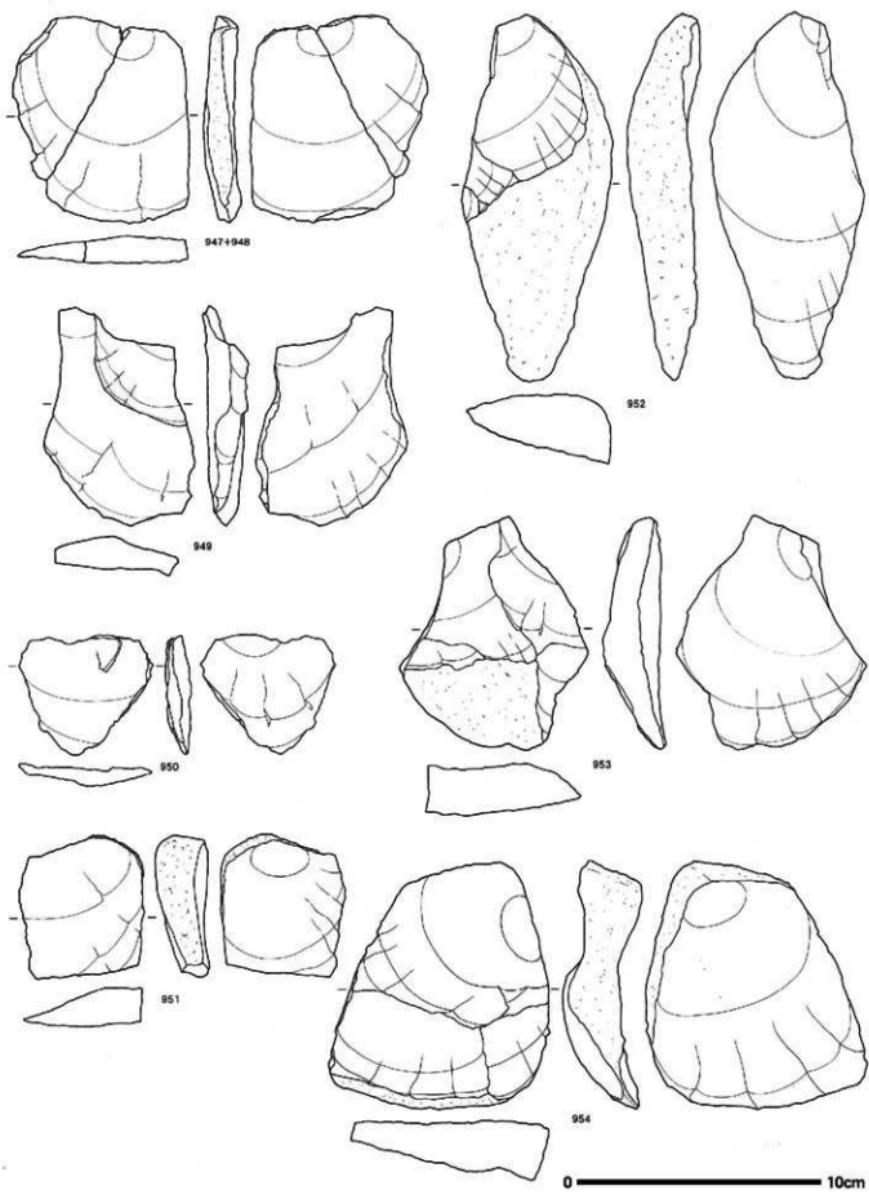
第78図 縄文時代晩期の土器・石器（1）



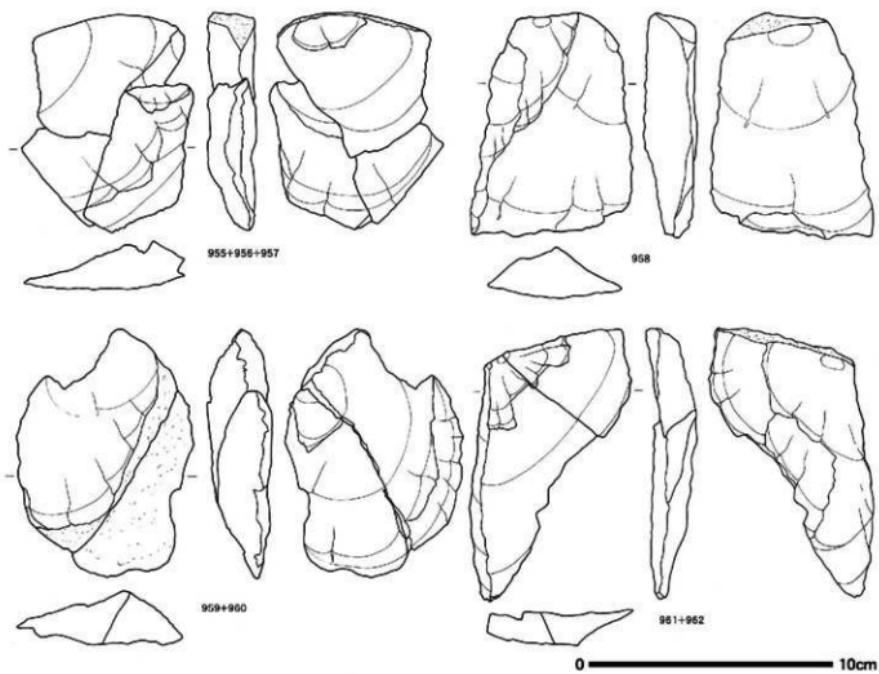
第79図 縄文時代晩期の石器（2）



第80図 繩文時代晩期の石器（3）



第81図 繩文時代晩期の石器（4）



第82図 繩文時代晩期の石器（5）

第7節 古代の調査

表土除去中に、F73・G73Gr表土より、須恵器坏の小片が出土した。出土地点周辺を中心に該期の遺構存在を想定し精査したが、何ら検出されなかった。

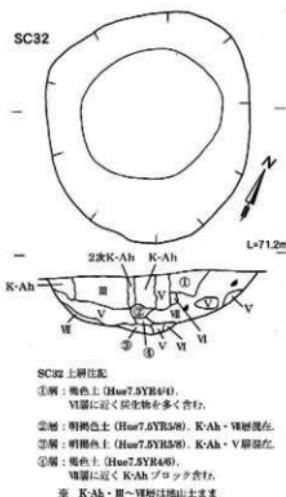
須恵器坏は身の口縁部から体部の一部である。高台付近の情報を欠くため不明瞭であるものの、9~10C頃のものか（未図化）。

第8節 層位横転箇所の調査

本遺跡では、A区に3基、B区に2基、合計5基の層位横転箇所が検出された。旧地形との関係でいくと、丘陵から低地、沢そばまでまんべんなく分布することとなる。全て埋土中にK-Ahを帶状に含むことからK-Ah降灰以降のものと判断される。

【SC32】（第83図）

B区丘陵北斜面で検出された。平面形は長径1.8m、短径1.4mの梢円形をし、深さは約40cmである。検出時点での平面観察や、半裁時の土層観察の結果、層位横転は西に向かって生じており、その時期はK-Ah上のⅢ層（クロボク）堆積中とわかった。埋土のうち、地山Ⅲ層ブロック中から炭化したイチイガシ（種実同定は肉眼観察による）が1点検出された。イチイガシについてはAMS法により年代測定をおこなった結果、補正¹⁴C年代は5,580±50年BPであった。



第83図 層位横転箇所

SC32 の地山Ⅲ層出土炭化物に関する放射性炭素年代測定結果

1. 試料と方法

地点・層準	種類	前処理・調整	測定法
層位横転、K-Ah 上黒ボク土	炭化種実	酸-アセト酸洗浄、石墨調整	加速器質量分析（AMS）法

2. 測定結果

¹⁴ C年代	$\delta^{13}\text{C}$ (年 BP)	補正 ¹⁴ C年代 (%)	層年代（西暦） (年 BP)	測定値 (Beta ⁻)
5610±50	-26.7	5580±50	交点 : cal BC 4380 1 σ : cal BC 4460~4350 2 σ : cal BC 4580~4340	164935

¹⁴C年代測定値：試料の¹⁴C/¹²C比から、単純に現在（1950年 AD）から何年前かを計算した値。¹⁴Cの半減期により Libby の 5,568 年を用いた。

2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値：試料の測定 ¹³C/¹²C比を補正するための炭素安定同位体比 (¹³C/¹²C)。この値は標準物質 (PDB) の同位体比からの千分率差 (%) を表す。

3) 補正¹⁴C年代値：¹³C測定値から試料の炭素の同位体分別を加り、¹⁴C/¹²Cの測定値に補正値を加えた上で算出した年代。

4) 層年代：過去の宇宙線強度の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動を校正することにより算出した年代（西暦）。較正には、年代既知の樹木年輪の¹⁴Cの群集年輪、およびサンプルの^{U-Th}年代と¹⁴C年代の比較により作成された較正曲線を使用。最新のデータベースでは、約 19,000 年 BP までの推算が可能となっている。ただし、10,000 年 BP 以前のデータはまだ不完全であり、今後も改善される可能性がある。層年代の交点とは、補正¹⁴C年代値と層年代校正曲線との交点の西暦表示を意味する。1 σ (68%確率)・2 σ (95%確率) は、補正¹⁴C年代値の偏差の範囲を較正曲線上に投影した層年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の 1 σ・2 σ 値が表記される場合もある。

3. 考察
加速器質量分析法 (AMS 法) による放射性炭素年代測定の結果、5,580±50 年 BP (2 σ の層年代で BC 4,500~4,340 年) の年代値が得られた。

文献　Stuiver, M., et al. (1998). INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, Radiocarbon, 40(3).
中村俊夫 (1999). 放射性炭素測定. 古生物学のための年代测定入門. 古今書院. p.136.

第V章 調査資料の通史的分析・検討

【旧石器の特質～特に石器生産について】

唐木戸第4-Ia期は、湿地を臨む丘陵上に遺構・遺物が確認された。特記される点として、SI56・58のように、砾群そのものが大きく傾く・もぐり込むものがみられたことが挙げられる。これについては、SI56・58そばには小規模な土石流が確認されたことから、大雨・地震等の自然災害が生じたことによる地滑りが原因として挙げられ、その背景には離水後間もない、不安定な環境が想定できる。

石器群からは、角錐状石器の頻繁な製作があったことが理解される。いずれの母岩も礫面除去等が遺跡外ですでに行なわれ、その後の素材剥片削離・角錐状石器生産が遺跡内でみられる。素材剥片ならびにその用い方に規則性はなく、臨機応変な石器生産となっている。完成目標は全長5cm前後の比較的小形の角錐状石器であり、單一母岩で搬入とみられる角錐状石器もまた同等のサイズである。遺跡内で製作された角錐状石器の多くは欠損しており、その最終剥離の位置等に注視すれば、製作途上で欠損、廃棄されたものが大半であることがわかる。

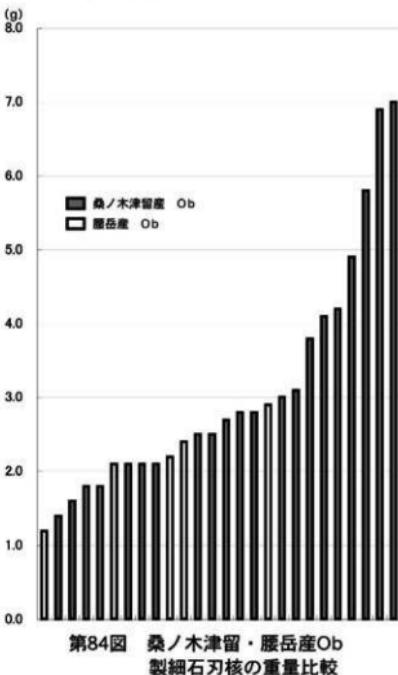
角錐状石器と対照的なのが縦長剥片素材のナイフ形石器である。いずれも遺跡内の生産が明確でなく、おそらくは別遺跡で製作されたものが製品、あるいは半製品・素材剥片の状態で持ち込まれたものであろう。各石器の特徴としては、全長5~6cm前後・重量5~10gで、縦長剥片の打面部を石器基部に設定し、バルブの厚み・歪みの除去を意図したような裏面平坦剥離が挙げられる。また、これらと共に整形方法・厚み（刃縁角が鈍くなる）の上で角錐状石器とナイフ形石器の中間的な様相を示す一群もみられる。

このように、角錐状石器と縦長剥片素材のナイフ形石器を比較すると、遺跡内製作の角錐状石器・製品持ち込み等のナイフ形石器に大別される。これらは縦年上、6段階（宮崎県旧石器文化談話会2005）に置いてよいだろう。

なお、小形の切出形ナイフ形石器（第39図407・408）は、角錐状石器・縦長剥片素材のナイフ形石器と大きく分布を違えており、層位的にもやや下位であったことから、角錐状石器と縦長剥片素材のナイフ形石器よりも古いものと考えられる。縦年上、5~6段階古に位置づけておきたい。

【細石刃石器群について】

細石刃石器群の石材は、後期旧石器時代最終末には桑ノ木津留系・日東系・腰岳・产地不詳の黒色黒曜石（おそらく西北九州系）が、縄文時代草創期には阿蘇手野産の黒曜石（手野Ob）、流紋岩（母岩R9~R11）、チャート（母岩Ch3）がみられ、時期によって石材利用が大きく変化する。



第84図 桑ノ木津留・腰岳産Ob
製細石刃核の重量比較

遺跡と石材产地との位置・距離関係からは、南九州～西北九州までより広域の石材がみられる後期旧石器時代最終末、阿蘇周辺の中九州の石材が多用される縄文時代草創期となり、集団の行動領域・石材獲得の変化等を示すものである。

また、後期旧石器時代最終末の細石刃核には石材別で大小差があり、桑ノ木津留産黒曜石以上に腰岳産黒曜石を使い込むという石材消費の違いを示している（第84図）。これは腰岳産黒曜石に最少5回以上の打面転移を繰り返すものがあることからも後押しされる。

【遺物からみた縄文時代早期の行動】

検出遺構・出土遺物の違いから、集石遺構や炉穴群の形成される丘陵と、打製石錐製作址である丘陵斜面、打製石錐使用の場（狩り場等）である湿地といった、遺物・遺構の展開と地形差に見られる相間から、場の機能の想定ができる。

また、遺跡全体での遺物組成は、打製石錐・少量の土器が主体となる。他遺跡の遺物組成と比較した場合、大きいもの・重量のあるもの一すなわち、大量の土器、石皿・磨石といった重量のある石器など一見当たらぬ点も注目される。可搬性に富む遺物が多く、遺物組成に偏りが見られる。遺物量や組成の偏りから考えると、大量の散疊や集石遺構、炉穴群は、短期間の居留（あるいは滞在）の積み重ねで生じたものと想定される。

【疊と人間行動の関わり】

本遺跡からは、疊を用いた遺構としてナイフ形石器群の疊群・細石刃石器群の疊群、縄文時代早期の散疊・集石遺構の大別3時期にわたってみられた。

ナイフ形石器群にともなう疊群は、他周辺遺跡で一般に検出される疊群と異なるものとして、疊径15～20cmと比較的大ぶりの赤化疊が密に集中するものや、隆起した疊層頂部の疊をそのまま用いるものがみられた。この特異な疊群については、当時の表土直下に疊層あるいは疊層頂部が存在するという共通点がある。第II章でみたように、I期宮田川あるいはその支流

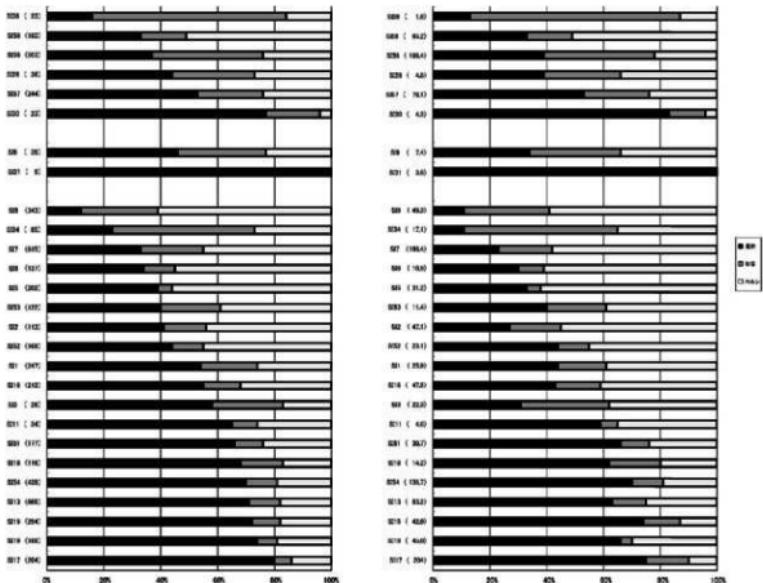
が三財原面と深年II面間の段丘崖下を流れおり、ナイフ形石器群は離水後間もない段階で残されている。したがって、疊径が大きい点の背景には、I期宮田川にともなう疊のふんだんな供給があったことを求めてよいと考えられる。

続く細石刃石器群にともなう疊群は、小兎頭大以下の小振りの疊が嵌入され、それが破碎された状態で検出されている。この特徴は、他周辺遺跡にみられる該期の疊群と同等である。

縄文時代早期になると、回収分のみでも2t強と膨大な疊量で構成される散疊・集石遺構が展開する。疊の遺跡搬入時のサイズは、接合結果から人頭（大人）大以上の比較的大形のものであり、これは、細石刃石器群にともなう疊群構成疊の元のサイズと比較し、かなり大形のものである。縄文時代早期になって、必要とする疊量が増大した可能性がある。

この膨大な疊をどこから供給したかが問題となるが、疊の供給は、おそらくは河原石あるいは段丘構成疊であったと推定される。疊量は2t強と膨大であることから、疊の供給元は第II章でみた遺跡脇を流れるII期宮田川やその氾濫原に求めてよさそうである。具体的には唐木戸第5遺跡の位置や埋没しつつあるI期宮田川周辺が相当しよう。一見、現在の宮田川がV字谷の底を流れることから、疊の供給にあたって膨大な作業量が投入されたよう錯覚しがちであるが、古環境を復元することにより遺跡すぐ脇にふんだんな疊の供給元があったと解釈できるのである。

本遺跡では、古環境の変遷と疊で構成される遺構（疊群・集石遺構）との間に一定の関係性をみることができた。そこからは、疊を駆使した生活の中で、与えられた環境に応じて臨機応変に疊を利用する人の姿を垣間見ることができ、人が資源とどう向き合っていたかを知る好例となつた。

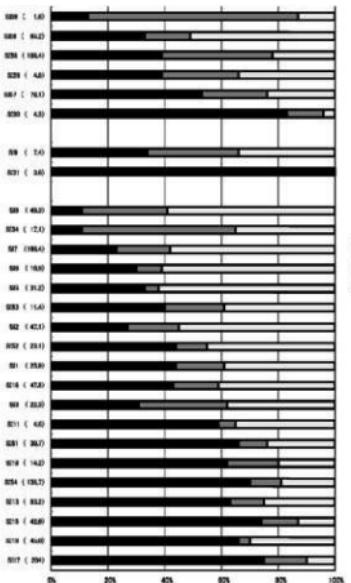


第85図 磨群・集石遺構の石材別重量比

【集石遺構の変遷について】

本遺跡からは、回収分ののみでも2t強と膨大な量で構成される散疊・集石遺構が展開する。遺構が構築された時期は、散疊に混じって多く出土した貝殻条痕系土器群の時期をあててよかろう。こういった大規模な散疊・集石遺構の展開は続く押型文土器の時期にも継続かつ規模増大をみせる。集石遺構には川南町尾花坂上・高鍋町野首第1・2遺跡等で確認されたような直径2m・掘り込み1m近い大規模なものもみられるようになり、集石遺構を用いた活動がもっともピークを迎える。層位的にはML1～MB0境に集中する傾向がある。

その後、K-Ah直下のMB0上部から中部にかけて、森I式等早期後半の資料が伴う散疊の存在が確認されている。本遺跡でみられた散疊・集石遺構と比較して、明確な掘り込みを持つ集石遺構を伴わず、かつ細かく破碎した赤化疊が小規模に散らばる散疊がみられる。新富町西畦原第2遺跡（2次調査）、東畦原第1遺跡（4次調査）が挙げられる。



第86図 磨群・集石遺構の石材別点数比

【打製石鐵の分類・生産の様相について】

本遺跡の縄文時代早期をもともと特徴付けるのが、打製石鐵の生産である。これまで、打製石鐵を形態・整形等の相違から単純に横並びに分類する傾向がみられるが、これについても打製石鐵の出土状況を優先させることで、横並びでない縦並びの分類になる。本遺跡の打製石鐵の出土状況は、以下のA・Bに分けられる。

A：単独出土例（本遺跡のばあい、低地等）。

B：打製石鐵製作にともなう調整剥片・碎片等がともに出土（本遺跡のばあい、丘陵上の生活空間）。

Aは、その状況証拠から実際に狩猟等に用いられた結果、回収されずに残された完成品とみてよい。Bは、打製石鐵未製品（失敗品）を含む可能性が高い。また、使用された打製石鐵がたとえば獲物とともに回収されたものや、使用による欠損を補うリダクション予定のもの等、一旦完成された製品も含まれる可能性があろう。

こうなると、Aのような単独出土例は確実な製品とみなすことができ、打製石器の種類を知るうえでもっとも重視されるべき資料群となる。縦並び分類の頂点に置かれるべきであろう。Bは完成品・未製品（失敗品）が混在する状況であり、まずはそれらの分離が肝心であるし、少なくとも分類にかける上では単独出土例よりも下位に置かれるべきであろう。

また、製作過程での欠損により廃棄された資料に接合関係が673+674、675+676、682+683、810+811の4例確認された。各資料とも、欠損品を用いて再び打製石器製作にかかるではなく、欠損直前までの製作過程の様子をダイレクトに残したものである。そこからいくつかの特徴を抽出できた。

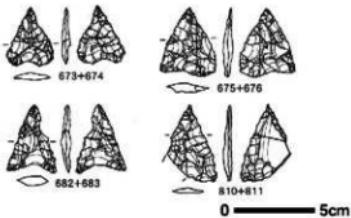
1つは、打製石器のおおまかな全形が決定したら、まず先端の最終整形から進められる点である（接合資料4例中3例がこの過程で欠損）。2つめは、先端完成後、左側縁を最終整形する点である（接合資料4例中1例／その後基部の抉り整形過程で欠損）。

特に先端から整形を開始する点については、単独出土の打製石器に先端のみ再加工し尖鋭化させたと推定される例と総合すると、打製石器使用者にとって尖鋭な先端がより重要であったことを示していよう。

【出土炭化材の意義】

今回の花粉分析ではK-Ahより下位において照葉樹林の存在が認められなかった。一方で、E33Grから出土したアカガシ亜属の炭化材では、放射性炭素年代測定によって補正¹⁴C年代8,210±40年BPが得られた。この時期には沿岸部等でアカガシ亜属を含む照葉樹林が成立していたとされ（杉山1999）、そこから本遺跡に何らかの形で材が持ち込まれたと推定される。

アカガシは、堅くまた弾力性に富み、さらに耐湿性にも優れたもので、福岡市拾六町ツイジ遺跡（山口・松村編1983）の鏨・鉤・杓子・しゃもし・くさび・釘状の材（弥生～平安）へカシが偏って利用されている。また、弥生時代から古墳時代にかけて、宮崎県内全域でカシ・クヌギ・コナラ・シイノキなどの広葉樹が建築材として使用されている（石川1991）。本遺跡で検出されたアカガシ亜属の炭化材は、上に見た例の



第87図 製作中に折れた打製石器

ように、堅くまた弾力性に富み、さらに耐湿性も期待された構築部材・木製品の可能性、あるいは燃料として持ち込まれた可能性も想定しておきたい。

今後、周辺地域で同様の分析・検討を行なうことにより、照葉樹林の存在や分布拡大の様相のみならず、その利用状況なども解明されてゆくことが期待される。

【縄文時代晩期の尾鈴山酸性岩類の利用】

尾鈴山酸性岩製石器群の剥片剥離の特徴は以下のとおりである。

まず、長さ15～20cmほどの剥片も獲得できるような大形の礫が選択されている。宮崎平野部で多用される尾鈴山酸性岩類製敲石・磨石等に使われる石材と比較し、あきらかに大形かつ粗質の礫が利用されている。剥片剥離は、石核調整や打面調整等がなされることなく、礫から直接、実施される。礫面の赤化する資料の存在から、剥離に先行した加熱処理も想起される。剥片は、縦長からやや幅のある不定形剥片が多く、また大振りであり、簡単な刃器等を生産したのである。原石の獲得はI・II期宮田川の氾濫原等が想定され、小規模な原産地遺跡の様相をもつと言える。

本遺跡における尾鈴山酸性岩類の剥片利用は、後期旧石器時代後半にまず少数みられ、もっとも多用されるのが縄文時代晩期初頭である。宮崎平野部では、尾鈴山酸性岩類を磨石等の礫塊石器に用いることはこれまでよく知られていた。一方、剥片を割り出して何らかの石器として利用する様相はあまり認識されていなかったため、本遺跡例のもつ意味は大きい。

表16 宮崎県内における尾鈴山酸性岩類の主な利用例

遺跡名	時期						概要
	AT下	AT上	縄草	縄早	縄後	縄晩	
川南町 市納上第4					■	■	推定原産地遺跡あるいはそれに準じる遺跡。
中ノ迫第1					■	■	K-Ah上位包含層出土。
赤坂						■	K-Ah上位包含層出土。
高鍋町 野首第1				■	■		包含層出土。礫片利用の刃器。
野首第2	■						MB1～K-Kb。少量の剥片剝離。
北牛牧第5					■	■	K-Ah上位包含層出土。
唐木戸第4		■					本報告。
"					■	■	本報告。
新富町 永牟田第1	■	■					MB3出土。礫器1点があり、風化著しい。
宮崎市 椎屋形第1		■	■				包含層出土。礫片利用の刃器。

尾鈴山酸性岩類の剥片石器への利用は、新富町永牟田第1遺跡例を最古とする。盛んに用いられるのは縄文時代後期から晩期であり、尾鈴山山麓一帯に位置する川南町市納上第4遺跡例等、大規模な原産地遺跡あるいはそれに準ずる遺跡もみられる。

縄文時代後期から晩期の大形剥片石器への石材利用は、おおむね一つ瀬川・小丸川を挟んで、北と南でゆるやかな排他関係となる。すなわち、南にあたる鶴塚山系以北の清武川・加江田川流域の遺跡群では、大形剥片石器に砂岩・頁岩といった堆積岩系石材が多くみられ、それは大淀川流域もほぼ同様のようである。一方、一つ瀬川・小丸川一帯あるいは以北の名貫川流域は、砂岩・頁岩といった堆積岩系石材以外に、尾鈴山酸性岩類を大形の剥片石器に用いる比率が高くなる。

【弥生時代以降の唐木戸第4遺跡】

なお、縄文時代晩期を最後に、本遺跡での活発な人間活動は追えていない。なお、調査開始直前まで宅地が1軒存在した。聞き取りや土地利用図等を参照すると、この1軒のほかかつては段丘崖下（崖上は唐木戸第3遺跡）にもう3軒あり、今回の調査区を全面畠地として利用する、谷間の小さな集落が形成されていたようである。表採品の陶磁器には中世まで遡るものではなく、近代以降のプリントもののみであることから、明治時代以降、第二次世界大戦前後の開拓とともにう入植地と推定される。

参考文献

- 石川悦雄1991「宮崎における弥生時代堅穴住居の展開」『宮崎県史研究』第5号
 杉山真二1999「植物珪藻体分析からみた九州南部の照葉樹林発達史」『第四紀研究』39号
 宮崎県旧石器文化講話会2005「宮崎県下の旧石器時代遺跡概観」『旧石器考古学』66号
 山口謙二・松村道博編 1983『拾六町ツイジ遺跡』福岡市埋蔵文化財調査報告書第92集

第VI章 調査方法等に関する検討

調査をふりかえると、炉穴・陥し穴・散疊ならびに集石遺構の調査・記録方法についていくつか問題点・着眼点が出てきた。今後の調査に資する部分も少なくないと考え、ここに整理することとした。

【炉穴・陥し穴の検出方法について】

炉穴・陥し穴の平面プラン検出に困難な場合が多く、より早くかつ正確に遺構確認できないもののかが問題となつた。そこで注意したのが硬質黒色土の小プロックの存在である。小プロックは小林軽石を含む灰褐色土に似て硬質であり、また色調はより黒いことから調査中は「黒コバ」というニックネームで呼び慣わした。「黒コバ」は遺構埋土に含まれる場合が多く、遺構検出の一方法となつた。

「黒コバ」は一般にKr-Kb上面で目視でき、「黒コバ」周囲には炭化物の混入もみられ、土色は暗くにごる（図版132頁参照）。「黒コバ」の密度は遺構検出面では散漫であり、削り込んで下げるほど密集中の状態になる。調査の中で、炉穴・陥し穴の存在に気づかず、大幅に削り込んでしまった段階で検出されることがままあるのも、この密度の違いが一因となっているのであろう。

「黒コバ」をはじめ、土壤の色調が黒色化する原因としては、黒色化作用のある硝化バクテリアの存在や二酸化珪素の多寡（少ないと黒色化）、植生差、冠水、風化の影響などが考えられ、遺構埋没のメカニズム等を知る上で役立つ可能性もある（永野高行氏御教示）。

【陥し穴に関する自然科学分析について】

陥し穴について、植物珪酸体分析・放射性炭素年代測定等、各種の自然科学分析が実施されてきた。本遺跡の調査においても、陥し穴埋土中出土の炭化物について放射性炭素年代測定を実施し、陥し穴構築年代を知る目安とした。その際注意したのは、炭化物の含まれる層の由来・成因である。すなわち陥し穴は、使用期間中から埋没するまでの間に、床面付近に土砂・

落ち葉等が積もることや壁の崩落等で埋まってゆくことが予想される。中には陥し穴を人為的に埋め戻したと考えられる例もあった。一口に陥し穴の埋土と言っても、さまざまな由来・成因があることは明白である。したがって、壁崩落土等の安定性に欠ける土中より試料を採取した場合、分析目的から逸脱する可能性がより高くなろう。

本遺跡の陥し穴からは、各層に炭化物が含まれていたが、上記の問題意識から、埋土最下部や壁崩落土、不自然に柔らかい部分等を避け、自然堆積であった陥し穴埋土最上部層で試料を採取することとした。結果、陥し穴が埋まりきる段階の年代を算出することとなった次第である。

他遺跡では、陥し穴埋土を対象とした植物珪酸体分析等も実施されている。これらについても、ここまで示したような考古学的脈絡の中に位置づけられる試料を提供しないかぎり、誤った解釈を生む一因となる。試料操作上の注意が必要である。

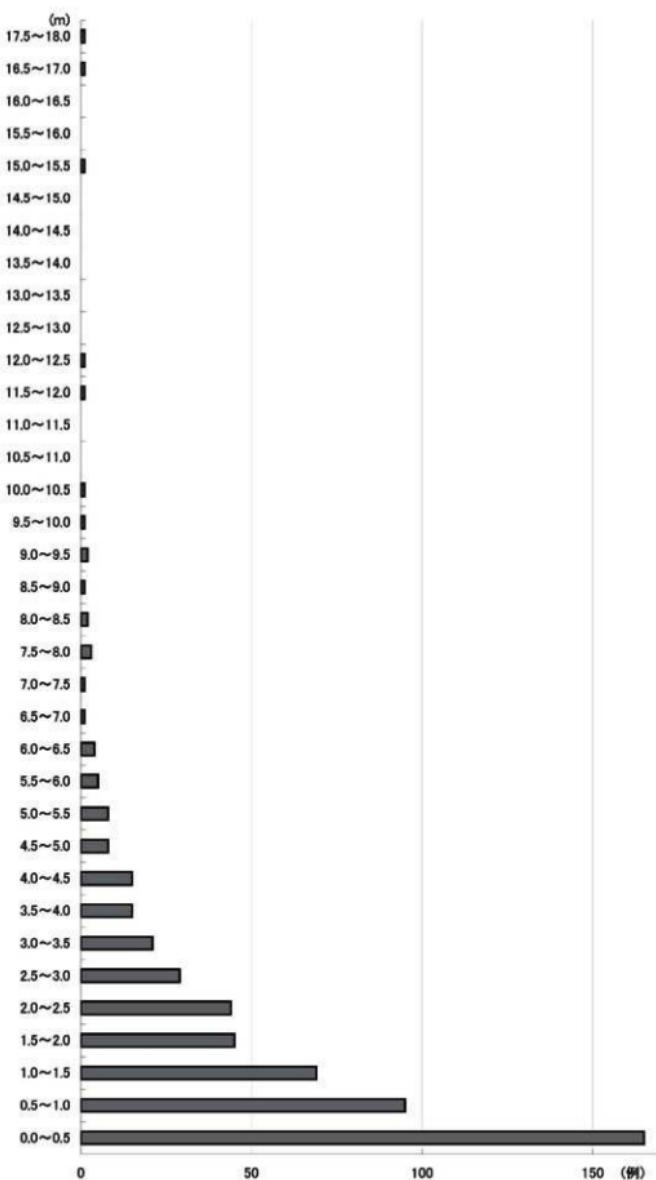
【散疊・集石遺構の記録方法について】

これまで宮崎県内では、縄文時代早期の集石遺構として173遺跡2763例（2003年2月の段階）が調査・記録され（日高・柳田2003）、さらに増加の一途を辿っている。散疊・集石遺構の調査では、1/10～1/20で図化するもの、範囲のみ平板図化するもの、写真のみの記録等があり、報告書への掲載方法には1/80前後で掲載するもの、ドット図、散疊範囲をトーン表示、文章記録のみのもの等、多様な記録方法が採用されてきた。また、疊の大半は現地図化後に現地廃棄され、水洗・接合等を経て検討されたものは以外に少ない。調査者・調査規模等の諸条件に左右され、多様な方法が採用されてきたと言える。

こういった経過の中で、これまで散疊・集石遺構ならびに遺物の分布、集石遺構の認定、疊そのもの等多くの点について重要な発言がなされてきた（表17）。本遺跡の散疊・集石遺構の調査で採用した記録方法は、

表17 散縫・集石遺構に関するこれまでの主な所見

遺跡名	発言等
備山第1-A地区 備山第1-B地区	散縫・集石遺構の重なり方として、①散縫と集石遺構が並ならず、集石遺構の南に散縫存在、②集石遺構と重なるものの散縫数は少ない、③集石遺構・散縫の分布は一致、がある。また、2,000g越える礫（総数20点）は集石遺構の配石や台石として使用された可能性が想定され、それらの多くは集石遺構・土器等の分布と正逆にあたる散縫・集石遺構の空白部分に分布する。
久木野	散縫・集石遺構間での接合について、1・2区で実施した散縫・集石遺構間での接合から、散縫の形成が集石遺構に起因すると主張した。ただし、接合部はほんの数個体に過ぎず、接合上の技術的欠陥を考慮しても非接合部の方が多い。それは、特に集石遺構の周辺以外で礫分布の頻度が高いところにおいては、集石遺構の放棄・崩落（土坑や配石を作わないもの）の存在を含めて何らかの意味を考えねばならない。宮崎においては、礫群除去後集石確認・遺構本体が礫群下位にあるもの・土坑配石を持つものは出し切れて、土坑や配石を作わないものは検出困難。
天ヶ城	集石遺構の認定基準について、散縫除去後、底石のみ確認される場合があり、そのほとんどで振り込みは確認できない。仮に振り込みが存在しても、それは非常に浅いものと推測する。これを集石遺構に含めるなら、底石が安定して検出された場合には、そのレベルが遺構床面か。通常はその上に礫が集積した状態となり散縫を形成する。
橋上	規範と非規範あり。非規範で構成される集石遺構については、準備段の残りと理解する。
中原	欠損面の赤化から複数回にわたる礫使用を主張した点は注目される。礫数は底遺跡と比較し少ない。礫の大きさは、完形礫のデータから200~500gが主体と推定する。欠損面が赤化している礫は、複数回使用の可能性が高く、全集石遺構でみとめられる。
橋上第4地点	層位的に分かれて集石検出。集石間接合あり。
坂元E区	振り込みを持たないタイプの集石遺構として取り扱ったが、集石遺構の周辺に散在する旋渦がやや密集している範囲である可能性も残されている。
須田木	集石検出状況（包含層掘削中に、礫の集まりが検出される。単体で集石遺構として認められる場合と広範囲に成縫が検出されこれを精査した結果、単体あるいは複数の集石遺構が認められる場合とがある）。埋土は山地との違いが明確でなく、振り込み内に礫のスタンプが消えるまで平滑にして作図。V字状の大形礫が密に充填されるものと疎らなものあり、後者は密に詰まつた内部縫の上層において中央が詰み、その部分及び上層の縫は疎らかつ小振りな状態。
芳ヶ迫第1等	結語：アカホヤ層を除去了した地面で小縫が一面に散在していた。この縫にまとまりはない、振り下げるまとまりを有するいわゆる礫群が數ヶ所検出される。この礫群には厚さ10cm前後の堆積をなすものもあり、また振り込みを有する集石遺構を数基含むものもある。この礫群内には遺物は出土するものの、上面を生活面としては考え難く、近傍または中に含まれる集石遺構の底面縫である可能性が高い。
田野高野原F区	礫群：礫は中央部に密に周辺埋土 矽群中にSI12・13 構成礫は赤礫はほとんど シラス層の下位に構成する矽層縫と酷似 矽層にある時点では既に赤化しているものが多く、遺跡内で赤変したとは言い切れない。
藏山村	矽群内には早期遺物。矽群を外してゆく過程で、矽群の中から集石確認。これより、矽群と集石は同時期もしくは若干矽群が新しい。石材構成尾鉈山風景岩類主体である点で近い。矽群は、集石遺構の準備段及び廃棄縫の「集縫」であり、その「集縫」が斜面に沿って散逸したものと考えられる。
野尻町高山	V層下部からVI層にかけて検出。
野尻町東城原第2	遺物・礫石の分布は傾斜地の最も高い部分を中心見られた。集石遺構2基と膨大な量の散石、及び散石下の2箇所に径3~4mの広がりでいわゆる集石遺構とは異なる礫石の集中が認められた。集石遺構を構成する礫は、10cm以上の比較的大振りの礫を用いているに對して、散石及び散石下の集中した礫は、10cm以下の小振りないしは疎けた疎で構成されるという違いあり。
坂坂第3	①礫の供給源の特徴②礫石材の大半を占める砂岩の耐久性③集石遺構等の使用頻度④集石遺構が疎ならば、燃料の材質・量⑤集石遺構に礫が充填された状態で、その上部に何故30cm以上もの厚さを持つ赤化矽層（成縫）が土器片・石礫等遺物を含んで載るのか⑥散縫構成礫の供給源①については、山下第3遺跡の西縫に礫の覗頭あり（比較的近場で採取可能？）⑤については、使用の終了した集石遺構がそのまま遺されたものと解釈⑥については、隣接調査区にうすい散縫の載った集石遺構のあること、散縫上面で集石遺構が確認できないことから、別地点での使用縫を察知した・集石遺構が使用後破壊・廢棄された等が混在するものと解釈⑤⑥を合わせると、集石麻痺には2つの形が考えられ、さらに、古地の利用に集石を設置する段階（生活・居住空間）と、古い集石を埋めて散縫を形成する段階（隣接地に居住空間があり旧集石部を廃棄物処理所とする）があると思われる。



第88図 散疎の接合距離

上記発言の発展・課題解決を主目的としており、さらには礫の徹底的な接合を実施することで、接合結果に対する評価の現時点での限界を知ることも考慮し、下記のとおり決定した。

散 磨

- ①礫を露出させる（最大で10cmの土柱に載せる）。
- ②散礫構成礫について、1/20で図化し、礫1点ずつにNoを与える持ち帰る。
- ③以降は、接合等、第Ⅲ章第2節参照。

集石造構

- ①散礫中で視認できるものを1/10で図化。
- ②散礫を外した状態で検出し、1/10で図化。
- ③集石造構ごとに礫はすべて持ち帰り。
- ④以降は、接合等、第Ⅲ章第2節参照。

まず問題となりそうなのが、散礫をどう記録するかである。方法上で大きな分かれ道となりそうなのが、まず、礫の点情報を残すか否か、そして礫を持ち帰って接合作業を試みるか否か、の2点であろう。

今回のように、整理過程でとくに礫の接合作業を実施し、何らかの情報を引き出しを目指す場合は、図化・非図化を問わず礫を点挙げしておかなければ成果が半減してしまうであろう。少なくともドットデータは必要である。一方、礫の接合作業を試みない場合は、ドット等の点情報を記録する意味は低いと考えられる。点情報の集積は現場から整理過程に至るまで、作業量が大きくなりがちである。この場合、写真記録等を併用したグリッド一括挙げや平板での範囲記録が有効であろう。

いずれの方法を採用するにしても、重要なのは、礫の石材・重量の情報である。なぜなら、一つには当時の環境との関わりや作業投下量等を引き出すことができるからである。礫の石材・重量構成の記録は、礫の集合から見いだした一定の単位や機械的に割り振ったグリッド単位等を利用して実施可能である。この記録に集石造構・炉穴等の分布、遺物分布を重ね合わせることで、散礫の状態や成因の背景を推すことが可能になるであろう。石材・重量の記録が不可能な場合は、せめて文章記述等で概要を補い、遺物・造構との関連

を説明する工夫が必要であろう。

もう一つの大きな問題として、集石造構を構成する礫についてどう記録するかが挙げられる。これまでの3000例近い集石造構に対しては、一般に、検出面での平面図・1あるいは2方向からの断面図あるいは見通し断面図作成という記録方法が採用されている。本報告でもこの方法を踏襲している。

しかし、礫を図化する意味やその実測図からどういった情報が読みとれたか、についてはあまり説明されていない現状がある。これまでの膨大な作業・記録の蓄積を受け、より効率的な新しい記録方法を模索する時期が来ているのかもしれない。

私見では、人が意図して「配置した」礫は断面とともに図化されるべきと考えている。たとえば配石がそれに相当する。一方「配置したと考えられない」礫については、土層断面と同様、より記号化が進んでよいと考えている。すなわち、「配置したと考えられない」礫の平面分布は範囲のみを示すことにして、断面については混土礫層といった表記で、一般の土層断面図と同様に記載してもよいのではなかろうか。その場合、「配置したと考えられない」礫の密度について一定のルールを作り、それに沿って表記されるべきであろう。また、「配置したと考えられない」礫の平面写真・断面写真は、これまでの図化作業に相当するものとして必要と考える。これまで、集石造構等を分類し、分類別の代表的例を記録する手法が採用されることもあった。しかし、この記録は後で二次利用する上で扱いにくさがある。作業の簡略化と記録精度を保つことは両輪であるべきであり、先に示したような新たな記録方法を採用しても良いように感じている。礫であるから図化するのではなく、礫の構成はどうであるのか、他事象とどう関連しているのかを示すことが調査では求められている。採用すべき方法は自由であり、また議論を重ねる必要があるが、その目的に応じて方法を的確に選択することが大事である。

遺物觀察表

No	Gr	树	No	木材	长	幅	厚	重量	锯理	概略所见
1	G 54	Ma	6710	R1	2.2	1.7	0.8	2.5	剥片	1~19+接合(剥離面接合)。小剥片。
2	H 62	Ma	6746	R1	3.1	1.9	1.2	3.6	剥片	1~19+接合(剥離面接合)。不定形剥片。
3	H 52	Ma	6733	R1	4.3	1.8	1.1	4.4	剥片	1~19+接合(剥離面接合)。不定形剥片。
4	G 53	Vi	6705	R1	3.9	2.6	1.1	8.3	剥片	1~19+接合(剥離面接合)。幅広剥片。
5	H 52	Ma	6744	R1	4.2	2.6	1.2	8.9	剥片	1~19+接合(剥離面接合)。木綿りの細長剥片。作業面調整あり。
6	H 52	Ma	6827	R1	2.1	1.7	0.6	2.1	剥片	1~19+接合(剥離面接合)。小剥片。
7	H 52	Ma	6379	R1	1.7	2.8	0.8	3.3	剥片	1~19+接合(剥離面接合)。幅広剥片。
8	G 74	Vi	6756	R1	2.5	3.7	1.3	6.1	剥片	1~19+接合(剥離面接合)。幅広剥片。
9	H 52	Ma	6825	R1	3.3	3.7	1.3	9.9	剥片	1~19+接合(剥離面接合)。幅広剥片。
10	G 54	Ma	6735	R1	3.4	3.4	1.3	10.4	剥片	1~19+接合(剥離面接合)。幅広剥片。
11	H 52	Ma	6790	R1	2.6	3.4	0.8	3.8	剥片	1~19+接合(剥離面接合)。幅広剥片。
12	G 54	Ma	7356	R1	4.0	4.1	1.7	23.7	剥片	1~19+接合(剥離面接合)。幅広剥片。
13	H 52	Ma	6791	R1	3.8	4.6	2.4	25.5	剥片	1~19+接合(剥離面接合)。木綿の広がる幅広剥片。
14	H 52	Ma	6745	R1	3.1	3.3	1.3	8.1	剥片	1~19+接合(剥離面接合)。幅広剥片。
15	G 53	Vi	5761	R1	2.5	3.7	1.7	7.9	剥片	1~19+接合(剥離面接合)。幅広剥片。
16	H 52	Ma	6796	R1	5.6	4.6	2.3	44.5	剥片	1~19+接合(剥離面接合)。幅広剥片。
17	G 54	Ma	7406	R1	(4.1)	9.1	1.4	8.3	角部状石墨木製品	1~19+接合(剥離面接合)。幅広剥片素材。先端欠損。
18	H 52	Ma	6794	R1	1.1	3.5	0.9	3.6	剥片	1~19+接合(剥離面接合)。幅広剥片。作業面調整あり。
19	H 52	Ma	6731	R1	4.4	7.4	0.4	89.4	石块	1~19+接合(剥離面接合)。一枚块。
20	G 54	Ma	6781	R1	4.3	2.1	1.6	11.6	角部状石墨木製品	20+21(剥片剥離接合)。
21	G 54	Ma	6709	R1	1.6	1.6	0.6	1.3	剥片	20+21, 21(各首状石墨)の調修剥片。
22	H 52	Ma	6734	R1	1.4	1.8	0.3	0.8	剥片	22+23(剥片剥離接合)。調整剥片どうしの接合。
23	H 52	Ma	6826	R1	1.1	2.3	0.4	0.6	剥片	22+23(剥片剥離接合)。
24	H 52	Ma	6739	R1	2.2	1.3	0.2	0.8	剥片	24+25(剥片剥離接合)。調整剥片どうし。
25	H 52	Ma	6834	R1	1.7	1.5	0.3	0.6	剥片	24+25(剥片剥離接合)。
26	G 54	Ma	7554	R1	5.5	3.2	1.0	12.2	剥片	26+27+28(剥片面接合)。剥離の衝撃等で分割されたか。
27	G 54	Ma	7557	R1	-	-	-	-	剥片	26+27+28(剥片面接合)。
28	G 54	Ma	7604	R1	-	-	-	-	剥片	幅広剥片。作業面調整あり。
29	G 54	Ma	7405	R1	3.0	3.1	1.0	3.6	剥片	幅広剥片。作業面調整あり。
30	G 53	Ma	7445	R1	2.2	2.5	0.8	3.2	剥片	幅広剥片。作業面調整あり。
31	H 52	Ma	6965	R1	2.4	1.6	0.4	1.1	剥片	長剥片。打面調整。作業面調整なし。
32	H 52	Ma	6832	R1	3.1	4.1	1.1	10.0	剥片	幅広剥片。打面調整。作業面調整なし。
33	G 54	Ma	6780	R1	2.7	2.9	1.0	5.6	剥片	幅広剥片。打面調整。作業面調整なし。
34	H 52	Ma	6833	R1	2.4	2.6	0.6	2.7	剥片	幅広剥片。打面調整。作業面調整なし。
35	H 52	Ma	6701	R1	3.3	2.8	1.3	5.7	剥片	斜棘剥片。打面調整なし。作業面調整とせずにある。
36	H 52	Ma	6803	R1	2.8	4.7	1.8	9.3	剥片	斜棘剥片。打面調整なし。
37	G 54	Ma	7556	R1	0.7	2.2	0.4	0.3	剥片	調整剥片。
38	H 52	Ma	6789	R1	1.1	2.3	0.5	0.8	剥片	調整剥片。
39	H 52	Ma	6836	R1	1.1	2.2	0.3	0.4	剥片	調整剥片。
40	H 52	Ma	6831	R1	1.2	2.0	0.5	1.0	剥片	調整剥片。
41	G 54	Ma	7376	R1	1.2	1.5	0.4	0.3	剥片	小剥片。
42	H 52	Ma	6830	R1	0.9	1.9	0.4	0.6	剥片	調整剥片。
43	H 52	Ma	6964	R1	1.4	2.0	0.6	1.0	剥片	調整剥片。
44	H 52	Ma	6797	R1	1.7	2.1	0.9	1.9	剥片	幅広剥片。
45	H 52	Ma	6804	R1	1.6	1.9	0.5	0.9	剥片	調整剥片か。
46	H 52	Ma	6793	R1	2.2	2.0	0.6	1.1	剥片	調整剥片か。
47	G 54	Ma	7375	R1	2.3	0.7	0.4	0.4	剥片	幅広剥片が二分。
48	H 52	Ma	6835	R1	1.7	1.0	0.4	0.4	剥片	調整剥片か。
49	H 52	Ma	6732	R1	2.1	1.2	0.5	0.8	剥片	小剥片。
50	G 53	Vi	6692	R1	1.6	1.6	0.3	0.6	剥片	調整剥片か。
51	H 52	Ma	6788	R1	2.6	1.6	0.4	0.8	剥片	小剥片。
52	H 52	Ma	6807	R1	1.0	1.3	0.3	0.2	剥片	小形の成長剥片。調整剥片。
53	H 52	Ma	6792	R1	1.7	1.4	0.3	0.3	剥片	調整剥片か。
54	H 52	Ma	6838	R1	1.6	1.4	0.3	0.4	剥片	調整剥片。
55	H 52	Ma	6802	R1	1.3	1.6	0.4	0.8	剥片	小剥片。
56	H 52	Ma	6829	R1	1.6	1.5	0.5	0.6	剥片	調整剥片。
57	H 52	Ma	6801	R1	1.3	1.5	0.3	0.5	剥片	調整剥片。
58	H 52	Ma	6737	R1	2.4	1.5	0.8	1.3	剥片	幅広剥片。
59	H 52	Ma	6925	R1	1.7	1.5	0.4	0.5	剥片	小剥片。
60	G 54	Ma	7633	R1	2.5	1.8	0.7	2.1	剥片	寸詰の成長剥片。打正欠損。
61	G 54	Ma	7618	R1	2.4	2.0	0.8	2.6	剥片	幅広剥片。作業面調整・打面調整なし。
62	G 51	Vi	6806	R1	2.6	3.3	1.0	7.2	剥片	幅広剥片。
63	H 52	Ma	6828	R1	1.9	2.0	0.7	2.2	剥片	幅広剥片。
64	H 52	Ma	6700	R1	3.1	2.3	1.0	4.7	剥片	打面を欠損。幅広剥片。
65	H 52	Ma	6730	R1	2.1	3.3	1.2	3.6	剥片	幅広剥片。作業面調整・打面調整なし。

No	Gr	形	No	石材	長	幅	厚	重量	端種	概要所見
66	G 54	Vla	6779	R1	1.9	2.7	0.8	2.2	剥片	幅広剥片、打面調整・作業面調整なし。
67	G 54	W	7553	R1	2.9	2.3	1.1	2.6	剥片	不定形剥片。
68	G 54	W	7592	R1	2.4	2.5	0.7	3.1	剥片	幅広剥片、作業面調整あり。
69	F 54	Vla	7632	R1	3.5	2.2	1.3	6.1	剥片	幅広剥片。
70	H 52	W	6735	R1	1.6	4.8	0.8	1.9	剥片	幅広剥片、打面調整・作業面調整なし。
71	G 53	W	7421	R1	4.1	5.3	1.4	20.3	剥片	幅広剥片、打面調整・作業面調整なし。
72	G 51	VI	6713	R1	2.8	6.1	1.0	14.0	剥片	狭長剥片、作業面調整あり。
73	G 54	W	7555	R1	1.1	1.3	1.0	1.0	二次加工ある剥片	ナイフ石器類。欠損部不詳。
74	G 53	VI	6708	R1	6.0	1.7	1.5	8.6	角形状石器	基部欠損。
75	G 51	VI	6712	R1	3.7	1.5	1.3	5.6	角形状石器	狭長剥片素材。ゴロゴロした形態。先端の小さな欠損は使用によるものか。
76	G 53	Wb	7655	R2	3.8	1.7	1.3	6.1	角形状石器木製品	狭長剥片素材。加工は一面のみ。
77	H 62	W	7365	R6	4.0	1.6	1.1	6.0	角形状石器	狭長剥片素材。枝上調査あり。先端を欠損。
78	G 53	Vla	7422	R2	4.5	2.0	1.5	11.1	角形状石器木製品	厚手の角形状石器素材。
79	G 54	W	7381	R5	7.5	3.6	2.7	40.8	石核	79+80(剥片)が接合。幅広剥片をランダムに剥離する。
80	G 54	W	7529	R5	2.1	3.2	1.1	5.5	剥片	幅広剥片。80-81(剥片)は79(石核)に接合。
81	G 54	W	7535	R5	2.4	1.1	0.4	0.8	剥片	幅広剥片。80-81(剥片)は79(石核)に接合。
82	G 54	W	7588	R2	(1.0)	1.0	0.5	0.5	ナイフ形石器	先端・基部ともに欠損。不定形剥片素材か。
83	G 54	W	7644	R2	0.9	1.7	0.3	0.3	剥片	調整剥片。
84	G 54	W	7537	R2	1.0	1.8	0.7	0.7	剥片	調整剥片。
85	G 54	W	7454	R2	1.3	1.9	0.3	0.5	剥片	調整剥片。
86	G 53	W	7651	R2	1.2	2.0	0.6	0.8	剥片	調整剥片。
87	G 54	W	7493	R2	1.2	1.5	0.5	0.5	剥片	調整剥片。
88	G 54	W	7636	R2	1.5	1.9	0.5	1.0	剥片	調整剥片。
89	G 61	VI	6831	R2	1.5	1.5	0.4	0.7	剥片	削留溝あり。調整剥片か。
90	G 62	Wb	7266	R2	1.4	1.6	0.3	0.4	剥片	作業面調整あり。調整剥片か。
91	G 54	W	6819	R2	1.4	1.8	4.3	0.9	剥片	調整剥片。
92	G 54	W	7527	R2	1.7	1.8	0.5	1.2	剥片	調整剥片。
93	G 54	W	7403	R2	1.4	1.7	0.4	1.0	剥片	調整剥片。
94	G 54	W	7609	R2	(1.0)	2.0	0.3	0.5	剥片	狭長剥片か。末尾部のみ残存。
95	G 54	W	7362	R2	1.5	1.3	0.4	0.3	剥片	調整剥片。
96	G 54	W	7606	R2	2.1	1.3	0.5	0.7	剥片	先端の剥片。作業面調整なし。
97	G 54	W	7536	R6	2.6	1.1	0.6	1.0	剥片	剥離の跡跡で傾いて幅広剥片。
98	G 62	VI	6864	R2	2.4	1.3	0.6	1.1	剥片	先端の底長剥片。
99	G 54	W	7538	R2	2.0	0.8	0.5	0.9	剥片	調整剥片。
100	G 64	Vla	7083	R2	2.3	1.9	0.7	1.9	剥片	本端の伝がる狭長剥片。
101	G 54	W	7467	R2	2.1	1.5	0.4	0.7	剥片	狭長剥片。
102	G 53	Vla	7425	R2	2.6	1.9	0.7	1.7	剥片	作業面調整なし。
103	G 54	W	7463	R2	1.4	2.4	0.6	0.7	剥片	調整剥片。
104	G 54	W	7591	R2	1.7	2.3	0.6	1.1	二次加工ある剥片	剥片末端に二次加工あり。
105	G 54	W	7635	R2	1.8	2.3	0.7	1.4	剥片	調整剥片か。
106	G 54	W	7526	R2	1.6	2.0	0.5	0.8	剥片	調整剥片か。
107	G 54	W	7523	R2	1.7	2.1	0.4	0.9	剥片	調整剥片。
108	G 54	W	7460	R2	1.9	2.4	1.3	2.5	剥片	非形剥片。作業面調整なし。
109	G 54	W	7457	R2	0.9	2.2	0.6	0.5	剥片	調整剥片。
110	G 54	W	7401	R2	1.6	2.3	0.7	1.8	剥片	調整剥片。
111	G 54	W	7532	R2	2.4	2.1	0.6	1.5	剥片	狭長剥片。作業面調整なし。
112	G 53	W	7424	R2	1.5	3.2	1.2	3.7	剥片	厚手。
113	F 41		8840	R2	2.4	3.0	0.8	4.0	剥片	調整剥片か。
114	G 54	W	7533	R2	1.7	3.4	0.9	4.4	剥片	調整剥片。
115	G 54	W	7547	R2	2.2	1.7	1.5	4.3	石核	打面非固定で不定形剥片剥離。
116	G 54	W	7461	R2	1.8	2.8	0.9	2.7	剥片	縦面洗拭。
117	G 54	W	7550	R7	2.1	3.2	0.6	3.1	剥片	117+118(剥片剥離接合)、調整剥片よりの接合。
118	H 52	W	6769	R7	1.8	2.1	0.4	1.0	剥片	117+118(剥片剥離接合)。
119	G 53	W	7442	R2	2.9	3.0	1.0	5.5	剥片	打点欠損。
120	G 53	Wb	7447	R2	2.7	3.1	1.0	6.4	剥片	縦面洗拭、幅広剥片。
121	G 54	W	7473	R2	2.1	3.1	1.2	5.9	剥片	本端の伝がる不定形剥片。作業面調整あり。
122	G 54	W	7380	R2	2.4	6.4	2.8	32.8	石核	剥片葉石核。狭長剥片を連続して剥離。新薦室内技術。123-124(剥片)が接合(剥片剥離接合)。
123	G 54	W	7471	R2	2.0	1.7	1.1	3.0	剥片	狭長剥片。122(石核)に接合。
124	G 54	W	7534	R2	2.1	2.9	0.7	3.5	剥片	122(石核)に接合。
125	G 54	W	7515	R2	4.5	2.0	1.6	8.9	剥片	123+126(折れ面接合)。距離により不自然な割れを起す。
126	G 54	W	7522	R2	-	-	-	-	剥片	125+126(折れ面接合)。
127	G 55	W	7169	R2	4.7	3.1	1.3	14.7	剥片	狭長剥片。
128	G 62	Wb	7248	R8	6.5	3.6	1.3	22.9	剥片	狭長剥片。作業面調整なし。
129	H 51	VI	6880	R2	4.0	2.4	0.5	6.4	剥片	狭長剥片。

No	Gr	規	No	石材	長	幅	厚	重量	邊	規格所見
130	G 54	規	7544	R2	7.1	5.4	3.1	93.3	鋸片	規長鋸片。側面の衝撃で鋸片は二分される。
131	E 71	規	6312	R3	2.9	1.9	0.7	2.9	鋸片	規長鋸片。打面欠損。
132		試用	B1Tr	R3	5.4	2.4	1.3	13.5	ナフ形砂留	規良鋸片素材。入念な作業面調整のものも素材剥離。鋸片は石核分割面を末端に取り込んでおり、規長鋸片との規差が想起される。
133	E 71	規	6311	R4	(4.0)	2.5	1.4	11.4	ナフ形砂留	規長鋸片。規面に意い軽度剥片素材。
134	F 61	規	6096	R5	4.1	3.3	1.5	15.5	鋸片	134+135(折れ面接合)。寸詰めの規長鋸片。打面調整・作業面調整あり。
135	F 62	規	7144	R5	-	-	-	-	-	134+135(折れ面接合)。
136	F 62	規	7628	R5	5.1	8.1	3.4	124.4	石核	薄い物の規面材。打面作出の後、軽度剥片を数枚剥離。打面固定。134+135(鋸片)円合。
137	G 54	規	7507	H1	5.0	1.9	0.9	7.3	角錐状石器	規化新く明度でないが、外錐状石器の可能性あり。軽度剥片素材。
138	G 54	規	7479	H1	2.7	2.2	1.1	4.7	鋸片	規長鋸片。
139	G 54	規	7450	H1	2.8	2.1	1.0	4.3	鋸片	規長鋸片。規面調整なし。
140	G 54	規	7449	H1	1.8	1.2	0.6	0.7	鋸片	調整鋸片。
141	G 54	規	7615	H1	4.6	2.4	0.9	6.4	鋸片	規長鋸片が二分される。
142	G 54	規	7404	H1	5.3	2.6	0.6	8.8	鋸片	規長に意い軽度剥片。作業面調整なし。
143	H 52	規	6729	H1	4.2	2.3	1.2	10.3	鋸片	規長鋸片。作業面調整なし。
144	G 54	規	7615	H1	4.3	3.0	1.2	14.7	鋸片	打点より継に剥ける。
145	G 53	規	7564	H1	3.3	3.2	0.9	8.5	鋸片	軽度剥片。
146	G 54	規	7364	H1	4.2	1.7	1.0	6.1	鋸片	剥離の衝撃等で一分。
147	G 64	規	7345	H1	4.4	2.2	1.0	5.6	鋸片	打点より継に剥ける。
148	G 54	規	7486	H1	5.9	2.6	1.2	17.3	鋸片	規長鋸片。作業面調整なし。
149	G 54	規	7551	H1	4.8	2.4	1.2	10.1	鋸片	打面側面丸机。
150	G 54	規	7512	H1	4.3	3.2	0.8	6.9	鋸片	軽度剥片。作業面調整なし。
151	G 54	規	7702	H1	3.6	3.4	0.8	7.1	鋸片	軽度剥片。作業面調整なし。
152	G 53	規	7416	H1	3.3	4.6	0.9	9.4	鋸片	軽度剥片。作業面調整なし。
153	G 54	規	7483	H1	3.4	4.2	1.1	8.2	鋸片	軽度剥片。作業面調整なし。
154	G 54	規	7481	H1	3.9	3.6	1.5	16.1	鋸片	軽度剥片。作業面調整なし。
155	G 54	規	7528	H1	4.6	3.4	1.1	13.4	鋸片	規長鋸片。作業面調整なし。
156	G 64	規	7286	H1	4.9	3.5	1.4	17.9	鋸片	斜錐剥片。作業面調整なし。
157	G 54	規	7518	H1	5.6	4.0	1.6	22.1	鋸片	末広四向の鋸片。作業面調整なし。
158	G 54	規	7510	H1	5.3	3.9	1.0	18.0	鋸片	剥離の衝撃等で剥ける。軽度剥片。
159	G 54	規	7596	H1	5.2	3.4	1.6	26.0	鋸片	規長鋸片。次段行面印。作業面調整なし。
160	G 54	規	7500	H1	3.4	4.8	1.3	16.9	鋸片	軽度剥片。作業面調整なし。
161	G 41	規	7395	H1	4.8	6.0	1.9	48.5	鋸片	規長鋸片。作業面調整なし。
162	G 54	規	7499	H1	6.5	6.0	1.4	36.5	鋸片	本端に規面複数有。
163	G 54	規	7508	H1	3.4	4.5	0.8	8.2	鋸片	規長鋸片。
164	G 54	規	7587	H1	4.9	5.5	1.8	31.5	鋸片	軽度剥片。作業面調整なし。
165	G 54	規	7474	H1	4.7	3.7	2.2	28.7	石核	ランダムに規長に追い不定形剥片剥離。
166	G 54	規	7482	H1	5.4	7.4	3.7	95.2	鋸片	軽度剥片。作業面調整なし。
167	G 64	規	7320	H1	5.7	7.1	2.9	57.1	鋸片	不定形心軽度剥片。作業面調整なし。
168	G 54	規	7700	H1	4.5	4.8	1.5	31.1	鋸片	軽度剥片。作業面調整なし。
169	G 54	規	7480	H1	6.6	7.7	3.1	177.2	鋸片	169+170(折れ面接合)。軽度剥片。作業面調整なし。表面複数。
170	G 54	規	7487	H1	-	-	-	-	-	169+170(折れ面接合)。
171	G 54	規	7492	H1	7.8	5.2	2.2	80.8	鋸片	剥離の衝撃等で剥ける。作業面調整なし。
172	G 54	規	7491	H1	6.5	8.0	3.2	140.1	鋸片	規長鋸片。
173	G 54	規	7496	H1	6.4	6.6	1.8	81.1	鋸片	規長鋸片。作業面調整なし。
174	G 54	規	7478	H1	9.6	4.9	3.0	120.5	石核	剥片素材。極度剥片等を剥離。打面調整・作業面調整なし。
175	H 52	規	6736	H1	7.9	3.1	1.9	34.0	鋸片	規長鋸片。作業面調整なし。端正。
176	G 54	規	7544	H1	9.5	5.3	3.1	92.8	鋸片	軽度の規長鋸片。剥離の衝撃等で端に剥けたもの。
177	G 54	規	7589	H1	12.1	12.2	6.3	1018.7	石核	分厚い軽度剥片。規様に刃手の軽度剥片を剥離する。打面調整・作業面調整なし。
178	G 73	規	6021	H2	6.1	4.3	1.6	27.2	鋸片	規長鋸片。作業面調整あり。
179	G 64	規	6055	H2	5.1	6.0	1.2	34.7	鋸片	軽度剥片。作業面調整なし。
180	G 64	規	6053	H2	4.6	3.9	1.5	28.1	鋸片	規長鋸片。本端に規面複数有。
181	H 71	規	6242	H2	7.3	6.2	1.0	40.7	鋸片	181+182(鋸片剥離接合)。軽度剥片。作業面調整なし。
182	G 73	規	7072	H2	4.5	6.0	1.2	28.4	鋸片	181+182(鋸片剥離接合)。軽度剥片。作業面調整なし。
183	G 63	規	7139	H2	7.5	5.2	1.5	54.0	鋸片	規面打刃。軽度剥片。
184	G 64	規	6580	H2	1.6	3.8	0.8	3.2	鋸片	規長鋸片。作業面調整なし。
185	G 63	規	7311	H2	15.2	8.8	2.9	278.3	鋸片	大形規面剥片。表面複数。
186	G 74	規	6967	H2	12.0	9.5	2.7	296.7	微細剥離ある鋸片	厚手大形鋸片剥片。
187	H 52	規	6742	H2	7.5	11.6	2.5	193.1	鋸片	面面除去にとまらない剥片。
188	G 61	規	6669	H2	5.2	4.5	1.7	26.9	鋸片	188+189+190(鋸片剥離接合)。軽度剥片。作業面調整なし。
189	G 61	規	7040	H2	9.0	10.7	2.1	50.4	鋸片	188+189+190(鋸片剥離接合)。軽度剥片。作業面調整なし。
190	G 61	規	7327	H2	8.0	7.3	1.2	142.1	鋸片	188+189+190(鋸片剥離接合)。軽度剥片。作業面調整なし。
191	G 64	規	6660	H3	2.3	3.3	0.7	4.8	鋸片	191+192+193(鋸片剥離接合)。軽度剥片。作業面調整なし。
192	G 64	規	6661	H3	2.7	3.2	0.6	3.3	鋸片	191+192+193(鋸片剥離接合)。軽度剥片。作業面調整なし。

No.	Gr	树	No.	石材	长	幅	厚	重量	锯種	概要所見
183	G 63	Vi	6321	HIX	3.7	4.8	0.8	13.5	剥片	191+192+193(剥片接合). 剥広削片. 作業面調整なし。
194	H 61	Vla	7031	HIX	5.3	6.7	1.4	34.0	剥片	偏広削片. 末端に繊維残る。
185	H 61	Vla	7066	HIX	6.4	5.4	2.1	63.4	剥片	偏広削片. 複数削打面. 作業面調整あり。
190	G 63	Vla	7073	HIX	6.9	9.1	2.6	125.5	剥片	偏広削片. 作業面調整あり. 厚手。
197	H 61	Vla	7045	HIX	67.0	2.5	1.9	33.2	角離状石墨未製品	分厚い偏広削片素材か. 素材剥片表面が複数の整形中途で底度。
186	H 61	Vla	7067	HIX	4.5	11.0	2.0	67.5	剥片	偏打面. 繊長削片。
199	H 62	Vi	7295	HIX	6.6	4.3	2.3	49.6	剥片	偏長削片. 作業面調整なし。
200	H 62	Vi	7382	HIX	8.0	7.8	2.2	121.5	剥片	繊維残す. 厚手。
201	H 61	Vla	7064	HIX	3.7	2.5	1.2	10.8	剥片	偏長削片. 作業面調整なし。
202	H 72	Vla	7134	HIX	7.3	3.1	1.5	24.7	剥片	繊維除去にどうなり削片。
203	H 72	Vla	7185	HIX	6.5	6.3	1.8	48.6	剥片	繊維除去にどうなり削片。
204	H 72	Vi	6747	HIX	60.5	6.8	1.8	49.4	剥片	偏広削片. 繊維残す. 作業面調整なし。
205	H 62	Vb	7296	HIX	11.3	5.2	1.6	95.9	剥片	偏長削片. 作業面調整なし。
206	H 72	Vb	7232	HIX	7.9	5.5	1.9	94.5	剥片	繊維除去にどうなり削片。
207	G 53	Vb	7620	HIX	3.8	1.9	0.5	2.8	剥片	偏長削片. 繊維残す。
208	G 53	Vla	7414	HIX	3.2	4.8	0.5	8.4	剥片	偏長削片. 作業面調整なし。
209	G 51	Vb	7624	HIX	8.9	4.9	1.9	66.5	剥片	未練りの継長削片. 繼打面で作業面調整なし。
210	G 51	Vb	6895	HIX	4.4	4.7	1.0	22.9	剥片	繊維除去にどうなり削片. 繼伝。
211	G 51	Vb	7664	HIX	4.5	4.3	0.7	13.9	剥片	偏長削片. 打凸削を大きく欠損。
212	G 51	Vb	7566	HIX	7.6	3.7	2.8	45.1	剥片	木立が切る繊維削片. 作業面調整なし。木端にかけて分がくなる。
213	G 52	Vb	7715	HIX	6.7	4.1	2.0	41.8	剥片	偏長削片. 作業面調整なし。
214	G 51	Vb	7673	HIX	4.8	4.1	1.4	21.0	剥片	偏広削片。
215	G 54	Vi	7450	HIX	6.1	4.1	2.2	36.6	剥片	表面面の可能性あり。
216	G 51	Vi	7666	HIX	8.3	4.6	2.1	70.8	剥片	偏長削片. 繊維残す. 作業面調整なし。
217	G 53	Vla	7270	HIX	8.7	6.8	1.6	73.0	剥片	偏広削片. 作業面調整なし。
218	G 54	Vi	7488	HIX	8.6	8.6	3.2	259.9	剥片	繊維除去にどうなり削片。
219	G 73	Vla	7081	HIX	7.9	7.0	2.1	72.6	剥片	偏長削片. 末端に繊維残す. 作業面調整なし。
220	G 74	Vla	6968	HIX	8.5	6.9	1.9	88.1	二次加工ある削片	偏長志向の偏広削片. 作業面調整あり. 斜面側にわずかな二次加工あり。
221	G 73	Vi	6524	HIX	7.3	6.9	1.6	77.0	剥片	偏広削片. 繊維残す。
222	G 74	Vi	7014	HIX	4.0	7.9	1.2	26.8	剥片	偏長削片. 作業面調整なし. 適経測定か。
223	G 73	Vla	7070	HIX	7.3	7.2	1.7	65.9	剥片	偏広削片. 繊維面。
224	G 73	Vla	7068	HIX	10.3	6.9	1.9	120.5	剥片	繊維除去にどうなり削片。
225	G 72	Vi	7062	HIX	6.2	5.2	1.1	27.8	剥片	偏長削片.
226	G 72	Vi	7094	HIX	5.9	4.0	1.1	30.1	剥片	繊維除去にどうなり削片。
227	G 74	Vla	7223	HIX	5.6	2.9	1.4	18.2	剥片	繊維残す。
228	G 73	Vb	7069	HIX	6.8	5.4	1.4	35.3	剥片	未広がりの繊維削片. 末端に繊維残す. 作業面調整なし。
229	G 73	Vla	7076	HIX	2.6	2.8	0.7	4.2	剥片	打凸削を大きく欠損。
230	H 61	Vb	7105	HIX	11.2	10.2	6.7	622.9	石核	231-232(削片)と接合. 繼打面等から打面調整・作業面調整なく直接に偏長に近い削片削除. 打面・作業面非固定的な接合。
231	G 74	Vb	7013	HIX	7.2	5.1	1.3	45.0	剥片	230(石核)と接合. 繼打面等から打面調整・作業面調整なく直接に偏長に近い削片削除. 打面・作業面非固定的な接合。
232	F 74	Vi	7578	HIX	6.1	4.3	1.2	35.0	剥片	大形かつ分厚い。
233	G 73	Vla	7386	HIX	13.1	8.8	3.1	373.5	剥片	繊維素材. 二次加工は無い。
234	G 72	Vla	7179	HIX	13.3	10.6	3.6	458.4	二次加工ある削片	偏長削片. 繊維残す. 作業面調整なし. 適経測定。
235	G 74	Vla	7206	HIX	7.7	4.4	2.0	70.4	剥片	236+237(折れ線接合). 偏広削片。
236	G 72	Vla	7332	HIX	7.3	9.4	2.3	66.4	剥片	236+237(折れ線接合). 偏広削片。
237	G 72	Vla	7373	HIX	-	-	-	-	斜削削片. 作業面調整なし。	
238	G 73	Vla	7075	HIX	7.1	5.5	1.0	22.5	剥片	繊維残す. 不定形削片。
239	G 72	Vla	7333	HIX	7.7	4.8	1.5	36.6	剥片	大削削除を打面に. 無な削除等がない主翼面剥片削除. 削除角は90度前後.
240	G 71	Vla	8.3	8.2	7.4	78.7	石核	偏長削削片. 偏長削削片を規定する。		
241	G 64	Vi	7317	HIX	67.0	2.6	1.8	38.3	角離状石墨	偏広削片素材. 余端・基部とともに欠損。
242	G 62	Vi	7324	HIX	3.6	7.7	3.9	102.7	石核	分割應素材. 単剥削打面から寸詰まりの縦長削片削除。
243	G 64	Vi	6421	HIX	6.3	5.8	2.2	62.6	微削削除ある削片	偏広削片. 作業面調整あり。
244	G 74	Vla	7189	HIX	9.6	7.1	22.5	154.1	二次加工ある心削片	厚手不定形削片削片. 削片裏面に複数の二次加工。
245	G 73	Vla	7061	HIX	10.9	6.7	1.7	125.1	石核	245+246(折れ線接合). 繊維除去にどうなり不定形削片の一辺に刃部を設定. 万能削。
246	H 71	Vi	6245	HIX	-	-	-	-	245+246(折れ線接合)。	
247	G 72	Vla	7388	HIX	7.9	3.0	1.1	20.0	二次加工ある削片	偏反削片素材. 単剥削打面で作業面調整むずかしくあり。
248	G 73	Vi	7071	HIX	10.1	8.5	2.0	216.2	離骨筋石墨	厚さ2mmの大削片の外縁に複数の二次加工を入れる。
249	G 61	Vb	7568	HIX	6.4	2.7	1.8	18.5	剥片	偏長削片. 作業面調整なし。
250	G 61	Vb	7627	HIX	6.2	4.4	1.6	36.6	剥片	繊維除去にどうなり削片. 縦長。
251	G 64	Vi	7314	HIX	6.7	3.6	1.5	29.8	剥片	剥離の剥片に約二分。
252	G 62	Vi	7229	HIX	5.1	3.1	1.6	19.8	剥片	先剥りの削片. 作業面調整なし。
253	G 64	Vi	7318	HIX	5.2	4.2	1.9	17.4	剥片	

No.	Gr	材	No.	石材	長	幅	厚	重量	端様	概要所見
254	G 63	VI	6855	HIX	6.6	4.8	2.1	36.1	劇片	綫長劇片。綫面残存。
255	G 63	Wh	7154	HIX	6.5	3.7	1.6	34.8	劇片	綫長劇片。背面右側は綫面残存。
256	G 64	Wh	7318	HIX	6.9	3.8	2.1	56.1	劇片	綫長劇片。作業面調整なし。
257	G 61	Wh	7431	HIX	8.2	4.7	1.8	48.3	劇片	綫長劇片。綫面残存。作業面調整なし。
258	G 62	Wh	7293	HIX	6.9	4.5	2.0	36.0	劇片	幅広の綫長劇片。
259	G 63	Wh	7140	HIX	5.4	5.8	1.9	48.2	劇片	綫面除去にいたなう劇片。
260	G 61	Wh	7432	HIX	7.1	5.0	1.9	42.8	劇片	不定形劇片。作業面調整なし。
261	G 63	Wh	7152	HIX	5.9	7.1	2.5	99.7	劇片	幅広劇片。綫面残存。
262	G 61	Wh	7050	HIX	6.9	5.3	1.4	35.9	劇片	末広がりの綫長劇片。背面除毛にともなう劇片。
263	G 62	Wh	7250	HIX	6.1	5.9	1.7	53.8	劇片	背面に綫面残存。
264	G 62	Wh	7226	HIX	5.6	5.3	1.8	44.9	劇片	作業面調整なし。
265	G 64	Wh	7171	HIX	6.1	6.0	1.5	46.7	劇片	作業面調整なし。
266	G 61	VI	7328	HIX	6.2	6.8	0.9	35.8	劇片	幅広劇片。作業面調整あり。
267	G 62	Wh	7249	HIX	8.3	3.8	2.5	38.1	劇片	綫長劇片。作業面調整なし。
268	G 61	Wh	7180	HIX	9.5	4.6	1.8	69.7	劇片	先端の綫長劇片。作業面調整なし。矯正。
269	G 61	Wh	7437	HIX	9.8	5.6	1.9	46.6	劇片	不整形の綫長劇片。綫面残存。
270	G 63	Wh	7153	HIX	8.3	5.7	2.1	75.1	劇片	幅広劇片。
271	E 71	Wh	6309	HIX	3.7	2.7	1.2	9.5	劇片	271(右筋)と摩打接合。摩打面。
272	E 74	Wh	7124	HIX	9.7	10.7	5.5	488.1	石核	綫面より綫長に近い不定形劇片の摩打。打面調整・作業面調整なし。271(右筋)と接合。
273	E 74	Wh	7128	HIX	6.6	4.8	1.4	46.7	劇片	綫長走行の幅広劇片。作業面調整あり。
274	E 74	Wh	6921	HIX	6.2	5.3	1.0	47.9	劇片	綫長走行の幅広劇片。綫面残存。
275	E 74	Wh	7129	HIX	14.0	9.6	10.6	2000.0	石核	273-274(劇片)と接合。14×10×11cmの亜角椎素材で、一塊成でのみ劇片剥離。打面・中葉面は表面に分かれて30度、最下点の剥片が剥離されるのみで、剥離は止まる。
276	E 74	Wh	7123	HIX	2.4	3.9	0.9	6.9	劇片	幅広劇片。
277	E 74	Wh	6920	HIX	4.6	5.9	1.7	39.9	劇片	幅広劇片。
278	E 74	Wh	7127	HIX	7.2	6.7	1.7	85.9	劇片	幅広劇片。摩打面。
279	E 74	Wh	7018	HIX	4.5	5.2	2.0	39.8	劇片	打面部大穴鉄机。
280	E 74	Wh	6923	HIX	8.2	3.2	1.0	18.0	劇片	綫面除去にいたなう劇片。綫長。
281	E 74	Wh	6922	HIX	6.4	2.6	1.2	12.2	劇片	綫長劇片。作業面調整なし。
282	E 54	Wh	4000	HIX	4.6	6.3	1.5	23.7	劇片	綫面残存。
283	E 74	Wh	7028	HIX	6.2	6.3	2.8	103.5	劇片	分厚い。
284	F 73	Wh	7713	HIX	9.7	5.6	2.0	81.0	劇片	綫長劇片。作業面調整なし。綫面残存。
285	F 71	Wh	7657	HIX	9.8	5.9	2.3	109.4	劇片	綫面除去にいたなう劇片。綫長。
286	F 71	Wh	6298	HIX	8.9	3.1	2.0	89.3	劇片	綫長劇片。作業面調整・打面調整なし。摩打。
287	F 51	Wh	7118	HIX	7.6	5.9	1.8	45.1	劇片	幅広劇片。未だに摩打面残存。作業面調整なし。
288	F 54	Wh	7343	HIX	12.8	11.5	5.7	803.2	磨器	磨片素材で、おおまかな成形後、刃部を中心に細かな整形。
289	F 61	Wh	6129	HIX	6.1	5.1	1.6	45.6	劇片	幅広劇片。作業面調整なし。
290	F 61	Wh	6993	HIX	3.9	7.4	1.6	33.7	劇片	横長劇片。施用打面。
291	F 62	Wh	7630	HIX	3.8	2.9	1.0	7.7	劇片	先端の劇片。
292	F 62	Wh	7142	HIX	8.0	5.3	1.2	43.1	劇片	292+293(折れ面接合)。横面削掌で二分。幅広劇片。作業面調整あり。
293	F 62	Wh	7143	HIX	-	-	-	-	-	292+293(折れ面接合)。
294	F 63	VI	7439	HIX	7.8	6.5	1.6	54.0	劇片	幅広劇片。作業面調整なし。
295	F 62	Wh	7629	HIX	11.8	5.6	1.9	101.0	二次加工あら削片	大型幅広劇片。おそらく削離の衝撃等で二分される。右側面にわずかな二次加工。
296	F 64	Wh	7391	HIX	3.9	4.1	1.5	15.3	劇片	横面削打面。綫面残存。
297	F 64	Wh	7337	HIX	6.1	5.3	1.8	67.0	劇片	幅広劇片。
298	F 64	VI	7121	HIX	8.7	5.9	1.3	42.5	劇片	298+299(折れ面接合)。幅広の複員劇片。作業面調整なし。
299				HIX	-	-	-	-	-	298+299(折れ面接合)。
300	F 64	Wh	7342	HIX	6.2	4.6	2.1	56.0	劇片	綫面残存。
301	F 64	Wh	7390	HIX	6.5	6.5	3.0	164.5	石核	剝片素材。不定形剝片剥離。
302	F 64	Wh	7338	HIX	7.3	5.3	3.7	133.8	石核	半剝片削打面かの綫長剝片剥離。剥離枚数は少ない。
303	F 64	Wh	7341	HIX	7.3	6.6	2.9	83.5	剝片	剝剝削打面。末端に綫面残存。
304	G 51	Wh	7674	H4	(4.6)	1.7	0.8	5.3	ナイフ形石器	剝剝剝打面素材か。素材剝片打面をカットし、右端基部すると、先端欠損。
305	G 64	Wh	7282	H4	4.7	1.7	0.9	6.1	ナイフ形石器	綫長に走る幅広剝片素材。剝片剝片打面を右端基部に残す。
306	G 64	Wh	7323	H4	5.1	2.4	0.9	8.6	ナイフ形石器	剝剝剝片素材。剝片打面部を右端基部に残す。
307	G 64	Wh	7106	H4	5.8	2.3	1.1	10.9	ナイフ形石器	綫長剝片素材。素材剝片打面部を右端基部に残す。
308	G 64	Wh	7344	H4	6.8	1.9	0.7	8.1	ナイフ形石器	308+309(折れ面接合)。基部削離。複員剝片素材。剝片打面側を基部に残す。
309	G 51	Wh	7671	H4	-	-	-	-	-	308+309(折れ面接合)。先端削離。
310	G 64	Wh	7283	H4	(3.7)	2.1	0.8	5.6	リップ形石器	綫長剝片素材。素材剝片打面を右端基部に残す。剝離基部に1平頂削離。両側端に二次加工。
311	G 54	Wh	7597	H4	4.0	1.9	1.0	5.7	ナイフ形石器	綫長剝片素材。素材剝片打面を右端基部に残す。二次加工は比較的細い。
312	G 64	Wh	7120	H4	(5.1)	1.6	1.6	9.4	ナイフ形石器	綫長剝片素材。塑形は入念。先端を大根。
313	G 51	Wh	7709	H4	3.6	2.6	0.9	5.3	ナイフ形石器	綫長剝片素材。先端・基部ともに欠損。

No.	Gr.	形	No.	石材	長	幅	厚	重量	邊種	概要所見
214	G 62	Vb	7265	H4	6.0	2.0	1.3	12.1	ナイフ形石製	刃部・板長削片素材。素材削片面部を基部側に近く、断面三角形に整形される。先端・基部ともに欠損。
215	G 64	W	7366	H4	1.0	1.4	0.4	0.4	剥片	調整削片。
216	G 64	W	7316	H4	0.9	1.7	0.4	0.5	剥片	調整削片か。
217	G 64	Vb	7240	H4	2.0	1.9	0.7	1.9	剥片	調整削片か。
218	G 64	W	7319	H4	2.7	2.2	0.7	5.4	剥片	壁面剥片。打面・木端ともに欠損。
219	G 51	Vb	7141	H4	8.2	4.3	12.2	54.3	剥片	板長剥片。側面粗朶。作業面調整なし。端正。
220	H 61	Vb	7104	H4	9.9	3.3	2.3	45.0	剥片	打面再加工片。
221	G 53	Va	7413	H4	5.1	3.2	0.8	13.0	剥片	壁面に近い板長削片。作業面調整むずかしいあり。
222	H 52	W	6823	H4	1.5	2.2	0.5	0.9	剥片	調整削片。
223	H 52	W	6824	H4	2.1	2.8	0.4	1.3	剥片	調整削片。
224	G 52	W	7697	H4	9.4	7.2	3.4	197.1	石抜	剥片素材。不定形剥片剥削。
225	G 64	Vb	7137	H5	6.0	3.3	1.1	19.7	剥片	325~326~327~328の順に連続して板長削片剥削。作業面調整なし。端正。
226	G 64	Vb	7290	H5	6.2	3.5	1.5	28.9	剥片	325~326~327~328の順に連続して板長削片剥削。作業面調整むずかしいあり。端正。
227	G 64	W	7346	H5	5.4	3.0	1.1	13.2	剥片	325~326~327~328の順に連続して板長削片剥削。板長削片を意識したもの。削離削除で側面に設けた。
228	G 64	W	7367	H5	5.4	3.0	1.1	13.2	剥片	327~328(折れ面接合)。
229	G 64	Vb	7287	H5	2.8	2.0	0.7	3.7	剥片	329~332~333~339+331の順に連続して板長削片剥削。作業面調整むずかしいあり。端正。
330	G 64	Vb	7170	H5	6.3	2.1	0.7	5.8	二次加工あわ剥片	329~332~333~339+331の順に連続して板長削片剥削。330+331(折れ面接合)。剥片右側面に細かな一次加工あり。
331	G 64	Vb	7289	H5	6.3	2.1	0.7	5.8	二次加工あわ剥片	330+331(折れ面接合)。
332	G 64	Vb	7284	H5	5.9	1.6	0.7	5.2	剥片	329~332~333~339+331の順に連続して板長削片剥削。
333	H 61	Va	7030	H5	3.4	1.9	0.9	4.4	剥片	329~332~333~339+331の順に連続して板長削片剥削。打面・木端ともに欠損。
334	G 64	Vb	7226	H5	2.5	2.2	1.1	5.5	剥片	板長削片。打面調整なし。作業面調整あり。端正。
335	G 64	W	7321	H5	2.4	1.6	0.5	2.0	剥片	板長削片。作業面調整あり。端正。
336	G 64	Vb	7247	H5	2.0	2.1	0.6	2.8	剥片	板長削片。打面側大きく欠損。
337	G 64	Vb	7227	H5	2.1	3.5	0.5	6.2	剥片	板長削片。打面側・基部側ともに大きく欠損。
338	G 64	W	7315	H5	5.3	2.7	1.0	10.9	剥片	板長削片。右側入人大きく欠損。端正。
339	G 64	W	7348	H5	5.7	2.5	1.3	19.3	剥片	板長削片。作業面調整あり。端正。
340	G 64	Vb	7285	H5	6.5	3.2	1.0	15.0	剥片	板長削片。作業面調整あり。打面調整なし。
341	G 54	Va	7361	H6	3.2	2.4	1.4	13.2	角部状石器木製品	341~342(折れ面接合)。板長に近い軸底削片素材。整形の早い段階で角部状木製品が折れてしまつたものか。
342	G 53	Va	7168	H6	-	-	-	-	-	341~342(折れ面接合)。
343	G 54	W	7494	H6	1.9	2.4	0.5	2.3	剥片	341~342(角部状石器)の調節削片。
344	G 54	W	7458	H6	1.4	2.2	0.6	1.6	剥片	341~342(角部状石器)の調節削片。
345	G 54	W	7607	H6	1.8	1.9	1.0	2.2	剥片	341~342(角部状石器)の調節削片。
346	G 53	Vb	7411	H6	0.2	2.3	1.2	8.3	角部状石器	厚手の石材素材。先端側欠損。小形角部状石器の未精品か。
347	G 54	W	7311	H6	4.0	2.1	1.0	6.7	ナット形木器	斜面削片材。剥片の変度は弱く、バルブの輪らみを残して基部側作出し。また削片木端を残して削磨する。先端側欠損する。
348	H 51	W	6805	H6	4.0	3.5	1.5	16.9	二次加工あわ剥片	厚手の軸底削片素材で、一端を尖らすうな二次加工。筆か。
349	G 54	Vb	7409	H6	3.8	1.9	0.8	3.4	二次加工あわ剥片	斜面削片材。作業面調整あり。
350	G 54	W	7530	H6	1.4	1.3	0.4	0.4	剥片	調整削片。
351	G 54	W	7602	H6	1.7	1.4	0.5	0.8	剥片	調整削片か。
352	G 54	W	7542	H6	2.0	1.6	0.4	0.9	剥片	小剥片。
353	G 54	W	7608	H6	1.7	1.7	0.4	0.9	剥片	調整削片か。
354	G 54	W	7645	H6	1.4	1.8	0.4	0.8	剥片	調整削片。
355	G 54	W	7517	H6	1.4	1.9	0.5	0.7	剥片	調整削片か。
356	G 54	W	7640	H6	1.0	1.6	0.4	0.4	剥片	調整削片。
357	G 54	W	7645	H6	1.5	1.7	0.5	0.8	剥片	調整削片。
358	G 54	W	7610	H6	1.7	1.7	0.5	0.8	剥片	調整削片か。
359	G 51	W	7660	H6	1.7	1.4	0.5	0.4	剥片	調整削片か。
360	G 54	W	7637	H6	1.4	2.6	0.5	0.9	剥片	調整削片。
361	G 54	W	7599	H6	1.3	2.3	0.6	0.2	剥片	調整削片。
362	G 54	Va	7292	H6	1.6	2.3	0.6	1.2	剥片	調整削片。
363	G 54	W	7515	H6	2.2	1.6	0.5	1.2	剥片	調整削片。
364	G 53	Va	7423	H6	1.8	2.7	0.8	3.3	剥片	軸底削片。調整削片か。
365	G 54	Va	7426	H6	1.8	2.9	0.8	1.9	剥片	調整削片か。
366	G 54	Vb	7448	H6	1.5	1.5	0.5	0.8	剥片	調整削片。
367	G 53	Va	7413	H6	1.7	0.8	0.2	0.3	剥片	調整削片か。作業面調整なし。板長。
368	G 54	Va	6805	H6	1.6	1.8	0.5	0.9	剥片	調整削片か。
369	G 54	W	7598	H6	1.8	2.2	0.7	1.8	剥片	調整削片か。
370	G 54	W	7469	H6	3.2	2.4	0.3	3.2	剥片	板長削片。調整削片か。
371	G 54	W	7451	H6	2.9	2.3	0.5	4.2	剥片	小形軸底削片。作業面調整なし。
372	G 53	Vb	7656	H6	3.3	2.5	1.2	6.9	剥片	整理されておる。

No.	Gr	規	No.	石材	長	幅	厚	重量	記録	概要所見
273	G 54	Ⅷ	7459	H6	2.7	2.2	0.6	3.0	剥片	規長剥片、作業面調整なし。
374	G 53	Ⅷb	7563	H6	2.0	3.8	0.8	4.4	剥片	374+375(剥片剥離接合)。
375	G 54	Ⅷ	7665	H6	2.3	2.3	1.0	3.3	剥片	374+375(剥片剥離接合)。
376	G 54	Ⅷb	7407	H6	5.4	3.4	1.2	116.0	剥片	規長剥片、作業面調整なし。
377	G 54	Ⅷ	7519	H6	5.1	5.5	1.9	35.8	剥片	幅広の不定形剥片。打面調整・作業面調整あり。
378	G 54	Ⅷ	7516	H6	1.3	2.6	0.5	1.5	剥片	378+379+380(剥片剥離接合)。
379	G 54	Ⅷ	7543	H6	3.6	4.1	1.3	17.7	剥片	378+379+380(剥片剥離接合)。
380	G 54	Ⅷ	7641	H6	1.8	2.5	0.9	3.5	剥片	378+379+380(剥片剥離接合)。
381	G 53	Ⅷb	7369	H6	3.4	5.4	0.7	14.2	剥片	381+382(折れ面接合)、剥離衝突で二分。
382	G 54	Ⅷ	7509	H6	-	-	-	-	-	381+382(折れ面接合)。
383	G 54	Ⅷ	7531	H6	6.4	5.3	2.2	62.8	剥片	383+384(剥片剥離接合)、幅広剥片、作業面調整あり。
384	G 54	Ⅷ	7601	H6	1.8	2.7	0.8	2.5	剥片	383+384(剥片剥離接合)、小形規長剥片。
385	H 72	Ⅷ	6702	H7	4.6	2.0	0.7	4.7	二次加工ある剥片	規長に近い不定形剥片剥材。一次加工は細かい。
386	F 61	VI	6031	H7	6.0	3.7	1.2	23.9	二次加工ある剥片	規長剥片素材。作業面調整なし。
387	G 71	VI	7571	H7	4.5	3.6	2.2	35.0	石粉砂	厚手の剥片素材。剥片表面より小剥片剥離。
388	F 61	VI	6130	H7	1.5	1.9	0.5	1.0	剥片	調整剥片。
389	G 64	Ⅷ	6148	H7	2.3	2.8	0.9	2.8	剥片	不定形剥片。作業面調整あり。
390	G 82	Ⅷ	7677	H7	3.2	4.0	0.9	10.0	微細剥離ある剥片	幅広剥片。作業面調整なし。
391	G 71	Ⅷ	7572	H7	2.3	2.1	0.6	2.2	剥片	幅広剥片。作業面調整がすこしにあり。
392	H 74	Ⅷb	6822	H7	3.4	3.0	1.0	7.5	剥片	幅広剥片。作業面調整がむづかしくあり。
393	G 74	Ⅷb	7203	H7	7.3	5.8	2.1	84.0	二次加工ある剥片	羅面残着、右側縫に二次加工。
394	G 74	Ⅷb	7278	H7	3.3	2.1	1.0	5.2	剥片	打面部大孔。
395	G 71	Ⅷ	7569	H7	3.6	2.6	0.8	6.2	剥片	幅広剥片、打面鏡欠損。
396	F 73	VI	6018	H7	3.0	4.7	0.9	12.4	剥片	打面部に大きな欠損。隣面除去にむじらう剥片か。
397	G 72	VI	7046	H7	6.6	3.2	1.1	16.7	剥片	本端に羅面残着、規長剥片、作業面調整なし。
398	G 64	Ⅷb	7155	H7	5.7	3.8	2.4	40.2	剥片	斜傾剥片。隕面残着、作業面調整なし。
399	G 71	VI	7570	H7	6.9	4.2	1.1	28.0	剥片	羅面残着、右側縫に二次加工。
400	F 71	Ⅷb	7661	H7	7.7	5.2	1.2	40.3	剥片	作業面調整なし。幅広の規長剥片。
401	G 71	VI	6525	H7	6.6	5.3	2.0	58.8	剥片	羅面残着。
402	G 72	Ⅷb	7178	H7	6.2	4.6	1.6	45.1	剥片	羅面除去にむじらう剥片。
403	F 72	Ⅷ	7131	H7	6.3	6.9	1.8	62.1	剥片	幅広剥片。作業面調整あり。
404	F 74	VI	7334	H7	4.8	3.5	1.6	20.9	剥片	404+405(剥片剥離接合)、半定形剥片。
405	F 71	VI	6299	H7	5.5	3.5	4.0	25.2	剥片	404+405(剥片剥離接合)、不定形剥片。
406	G 72	Ⅷa	7427	H7	5.9	5.2	1.4	48.5	剥片	幅広剥片。羅面残着。
407	G 82	Ⅷ	7678	HY	2.3	1.1	0.5	1.0	ナイフ形石器	規長剥片を削除したものの、ベン先形。
408	G 82	Ⅷ	7680	HY	2.7	1.2	0.6	1.1	ナイフ形石器	規長剥片を削除したものの、ベン先形。
409	G 82	Ⅷ	7682	HY	6.0	1.9	0.4	1.2	ナイフ形石器	薄手の観長に近い剥片剥材。基部を欠く。
410	E 43	V	671	HY	6.3	2.0	1.4	6.2	ナイフ形石器	規長に近い幅広剥片素材。先端・基部ともに欠損。
411	G 62	Ⅷb	7371	HY	4.8	3.5	1.4	14.3	剥片	打面再び剥片。幅広。作業面調整なし。
412	E 84	VI	6305	HY	4.2	2.6	0.9	5.1	二次加工あ心剥片	規長剥片。打面部を大きく欠損。
413	F 53	Ⅷ	6638	HY	4.0	2.5	10.5	7.8	剥片	規長剥片。作業面調整あり。羅面接着。塗装。
414	E 63	Ⅷ	7714	HY	7.5	3.0	1.2	22.3	剥片	先端の羅面長片。作業面調整なし。
415	H 72	Ⅷb	6748	HY	6.7	3.5	2.1	48.3	石器	規長剥片素材。刃部の形状は八角。
416	F 61	Ⅷ	7583	HY	5.7	3.7	1.5	36.6	剥片	規長に近い不定形剥片。作業面調整あり。
417	H 61	VI	7090	HY	7.4	3.9	1.2	26.5	剥片	規長剥片。作業面調整なし。
418	F 71	Ⅷb	7683	HY	9.4	5.9	2.5	106.6	剥片	打面再び剥片。打面鏡あり。
419	G 61	Ⅷb	7567	HY	5.2	2.8	1.1	13.6	剥片	規長剥片。作業面調整あり。先端り。
420	F 72	Ⅷ	6515	HY	6.1	4.7	1.2	30.5	剥片	規長剥片。作業面調整・打面調整なし。
421	G 53	VI	6727	HY	6.2	4.5	1.8	28.2	剥片	規長剥片。
422	E 74	VI	7019	HY	7.8	6.9	2.5	132.1	石核	打面再び剥片。打面鏡あり。
423	G 43	VI	7396	HY	5.6	6.4	5.8	216.5	石核	規長剥片後、打面・作業面を一定の割合の後駆次駆移、打面調整・作業面調整。
424	H 82	Ⅷb	7132	HY	6.0	5.9	4.9	234.1	石核	規長剥片。剥離石核。
425	F 64	Ⅷb	7268	HY	7.8	7.9	1.9	102.9	剥片	幅広剥片。羅面接着。作業面調整なし。
426	F 64	Ⅷb	7252	HY	7.8	5.2	1.7	110.9	剥片	幅広剥片。羅面接着。作業面調整なし。
427	F 64	Ⅷb	7269	HY	9.1	6.5	2.3	144.7	剥片	幅広剥片。作業面調整なし。
428	F 64	Ⅷb	7251	HY	9.5	6.2	2.1	100.4	剥片	未端の広がる幅広剥片。羅面接着。作業面調整なし。
429	F 64	Ⅷb	7253	HY	9.8	8.0	3.4	174.3	二次加工ある剥片	羅面接着。両側面に複数の二次加工。
430	F 72	VI	7132	HY	12.2	6.6	2.9	217.8	剥片	分厚・幅広剥片素材。
431	G 73	Ⅷb	7091	Ch1	3.7	4.2	1.2	18.5	剥片	未端に羅面接着。
432	F 64	Ⅷb	7340	Ch2	7.0	7.0	2.1	110.8	剥片	432+433(折れ面接合)、幅広剥片。
433	F 64	Ⅷb	7339	Ch2	-	-	-	-	-	432+433(折れ面接合)、幅広剥片。
434	G 74	VI	6966	Os	6.1	3.7	1.9	30.1	剥片	規長剥片。
435	G 61	Ⅷa	7325	Os	5.6	3.9	1.2	22.4	剥片	規長剥片。
436	G 74	Ⅷb	6853	Os	4.8	7.2	1.5	43.4	剥片	幅広剥片。未端に羅面。

No	Gr	机	No	石材	長	幅	厚	重量	器種	概要所見
437	F 53	VI	6187	HY	3.2	1.1	0.7	1.4	ナイフ形石製	いわゆる鉄木細ナイフ。先細の延長剣片を素材に、基部のみわかかな調整を施す。
438	G 41		20270	S	11.4	4.1	3.7	251.5	磁石	棒状態。上下端に鋸刃痕。
439	G 73	Wh	19167	S	9.9	4.0	4.1	233.5	磁石	棒状態。下端に鋸刃痕。
440	H 52	Wh	6741	Ch4	7.6	5.2	4.1	241.3	磁石	手斧状の鋸末材。端面に2箇所顯著な鋸刃痕。
441	H 52	Wh	6743	HY	4.7	3.4	3.0	68.0	磁石か	鋸刃痕が明確でない。
442	G 61	Wh	7023	柔Ob	1.1	0.3	0.1	<0.1	磁石刃	小形面。頭部調整なし。
443	G 74	Wh	7271	柔Ob	0.8	0.4	0.1	<0.1	磁石刃	打面調整あり。頭部調整あり。尾部欠損。
444	H 71	VI	6201	Ob	0.9	0.3	0.1	<0.1	磁石刃	打面調整あり。頭部調整なし。背面右は鋸面残存。
445	H 72	Wh	6771	柔Ob	1.4	0.5	0.1	<0.1	磁石刃	打面調整あり。頭部調整あり。背面右は鋸面残存。
446	H 72	Wh	7151	柔Ob	1.1	0.4	0.1	<0.1	磁石刃	扇形凹。頭部調整あり。尾部欠損。
447	F 34	VI	1833	柔Ob	1.2	0.5	0.1	<0.1	磁石刃	頭部調整なし。尾部欠損。
448	G 72	Wh	7331	柔Ob	1.4	0.6	0.2	0.1	磁石刃	小形の面。頭部調整なし。
449	F 34	VI	657	柔Ob	2.2	0.4	0.2	0.2	磁石刃	頭部調整なし。
450	G 74	Wh	7257	柔Ob	1.5	0.5	0.1	<0.1	磁石刃	打面調整あり。頭部調整なし。背面右は鋸面残存。
451	G 61	VI	7048	柔Ob	1.7	0.6	0.2	0.1	磁石刃	小形の面。打面調整なし。頭部調整なし。
452	G 74	VI	6290	柔Ob	1.2	0.5	0.2	<0.1	磁石刃	小形の打面調整。
453	F 63	VI	6607	Ob	1.8	0.5	0.1	0.1	磁石刃	打面調整あり。頭部調整なし。
454	G 74	Wh	7190	柔Ob	1.4	0.6	0.1	0.1	磁石刃	直打面。頭部調整なし。尾部欠損。
455	G 74	Wh	7304	柔Ob	0.9	0.3	0.1	<0.1	磁石刃	頭部・尾部を欠損。
456	H 72	VI	7135	Ob	1.1	0.4	0.2	<0.1	磁石刃	小形の面。背面は鋸面か？
457	G 74	Wh	6549	柔Ob	1.4	0.5	0.2	0.1	磁石刃	頭部・尾部に欠損。
458	G 61	Wh	7433	柔Ob	1.4	0.5	0.2	0.1	磁石刃	頭部・尾部を欠損。
459	G 61	VI	6832	Ob	1.3	0.4	0.2	0.1	磁石刃	頭部欠損。
460	G 72	VI	7045	柔Ob	1.5	0.4	0.3	0.1	磁石刃	頭部・尾部を欠損。
461	D 24	VI	309	柔Ob	1.5	0.6	0.2	<0.1	磁石刃	頭部・尾部を欠損。
462	E 48	V	677	Ob	1.6	0.5	0.2	0.2	磁石刃	頭部調整あり。尾部欠損。
463	G 74	Wh	6845	柔Ob	1.8	0.5	0.3	0.1	磁石刃	頭部・尾部ともに欠損。背面左は鋸面残存。右側面に鋸面削離あり。
464	F 31	V	343	柔Ob	0.8	0.5	0.1	<0.1	磁石刃	頭部欠損。
465	G 63	Wh	7173	Ob	1.1	0.7	0.1	<0.1	磁石刃	頭部欠損。
466	H 71	VI	6202	柔Ob	1.0	0.4	0.1	<0.1	磁石刃	頭部欠損。
467	G 63	Wh	7137	柔Ob	1.1	0.6	0.3	0.2	磁石刃	頭部・尾部を欠損。背面左は鋸面残存。
468	H 72	VI	7187	Ob	1.7	0.8	0.1	0.2	磁石刃	直打面。頭部調整なし。堅正でない。
469	H 72	Wh	7234	柔Ob	1.4	0.7	0.2	0.1	磁石刃	頭部・尾部を欠損。堅正でない。
470	H 72	Wh	7149	柔Ob	1.3	0.8	0.2	0.1	磁石刃	頭部欠損。末端に鋸面残存。堅正でない。
471	F 64	Wh	7230	Ob	1.2	0.7	0.1	0.1	磁石刃	頭部・尾部を欠損。堅正でない。
472	G 73	Wh	6523	柔Ob	1.5	0.7	0.1	0.2	磁石刃	頭部欠損。
473	H 71	VI	7384	柔Ob	1.5	0.9	0.7	0.4	磁石刃	背面は鋸面か。形状より磁石刃と判断した。
474	G 74	Wh	7259	Ob	2.1	0.8	0.5	0.3	磁石刃	背面は鋸面。
475	F 72	VI	6499	柔Ob	1.9	1.4	1.1	2.5	無石刃替	打面固定。側面前面で、側かたに打面調整あり。
476	G 74	Wh	7068	柔Ob	2.1	1.3	0.9	1.8	無石刃替	打面固定。打面調整あり。付け系状の原石。
477	H 72	Wh	7297	Ob	2.1	1.0	0.9	2.1	無石刃替	打面固定。打面調整あり。
478	F 84	VI	6364	柔Ob	1.4	1.5	1.1	1.8	無石刃替	製作業面を打面に最終作業面を設定。
479	F 82	VI	7574	柔Ob	1.6	1.1	0.9	1.6	無石刃替	打面固定。打面調整無。
480	F 72	VI	7354	Ob	1.8	1.4	1.0	2.1	無石刃替	打面固定。打面調整無。
481	G 74	Wh	7201	柔Ob	2.1	1.5	0.9	2.8	無石刃替	分割削面。打面裏面を打面とし最終作業面を設定。
482	G 74	Wh	6848	柔Ob	2.2	1.3	1.2	2.7	無石刃替	打面固定。側面打面で細かい打面調整あり。
483	F 51	VI	7055	柔Ob	2.8	1.2	1.5	4.2	無石刃替	打面固定。打面調整あり。
484	H 61	Wh	7133	柔Ob	2.6	1.4	1.9	5.8	無石刃替	打面固定。打面調整あり。
485	D 73	VI	6924	柔Ob	1.6	1.0	1.3	1.8	無石刃替	製作業面を打面に最終作業面を設定。
486	G 72	VI	7093	柔Ob	1.9	1.5	1.2	3.1	無石刃替	製作業面を打面に最終作業面を設定。
487	G 74	Wh	6293	柔Ob	1.7	1.8	1.4	3.8	無石刃替	打面固定。打面調整あり。
488	F 62	VI	6697	柔Ob	2.5	1.9	1.8	6.9	無石刃替	石核成形が入念にされ、打面固定。打面調整あり。
489	G 74	Wh	7037	柔Ob	2.1	1.5	0.9	2.1	無石刃替	打面固定。側面打面で打面調整あり。
490	G 61	VI	6231	柔Ob	1.7	1.8	1.5	2.8	無石刃替	打面固定。石核成形なし。
491	G 72	Wh	7088	柔Ob	1.7	2.8	1.8	7.0	無石刃替	打面固定。側面打面で打面調整なし。
492	F 64	VI	6405	柔Ob	2.1	1.7	2.0	4.9	無石刃替	作業面は3面あり。
493	G 72	VI	6113	柔Ob	1.8	1.5	1.1	2.5	無石刃替	作業面は2面。分割底面材。
494	H 72	Wh	7176	柔Ob	2.0	1.5	1.2	2.6	石核	無石刃替がブランク。
495	H 71	VI	6203	柔Ob	1.6	1.0	0.8	0.9	石核	打面転換あり。
496	F 64	VI	6459	柔Ob	2.1	2.4	1.1	4.1	無石刃替	分割面より枚板の無石刃調査。
497	G 74	VI	6287	柔Ob	3.0	2.0	0.8	5.6	原石	板状。
498	G 74	Wh	6786	柔Ob	2.7	2.3	1.1	5.7	石核	原石小口を測定。無石刃状況か。
499	G 74	Wh	7193	柔Ob	2.4	1.8	0.9	2.9	石核	原石後より小削片測定。
500	G 74	Wh	6787	柔Ob	2.6	1.8	0.9	5.1	石核	原石後より小削片測定。

No.	Gr	机	No.	石材	長	幅	厚	重量	锯種	概略所見
501	F 64	VI	7122	セOb	3.0	1.5	1.1	3.6	石抜	原石を分割したもの。
502	G 74	Vla	7276	セOb	1.9	1.8	1.2	3.2	原石	
503	G 64	VI	7316	セOb	1.0	1.3	0.5	0.8	ナフ形砂器	打面段段の瓶瓦剝片素材。先端を大きく欠損。
504	G 72	VI	7095	セOb	1.5	0.9	0.3	0.6	剥片	縦打面、表面既着。
505	G 61	VI	6860	セOb	1.9	1.1	0.4	0.7	剥片	作業面調整なし。表面既着。
506	H 72	VI	6749	セOb	1.9	1.1	0.7	0.9	幾何剥片ある剝片	左側斜面に擦痕有り。
507	G 61	VI	7002	セOb	1.4	1.9	0.9	1.0	剥片	作業面調整あり。
508	F 72	VI	6519	セOb	1.9	1.6	0.8	1.6	剥片	縦面除衣による剝片。背面は全面粗面。
509	E 22	VI	183	セOb	2.5	1.6	0.7	1.5	剥片	細石刃で削面に限定するものか。
510	G 74	Vla	7194	セOb	1.4	1.2	0.4	0.5	剥片	縦面既着。
511	G 61	Vla	7429	セOb	1.7	0.8	0.3	0.5	剥片	縦面既着。
512	G 74	Vla	7202	セOb	1.6	1.4	0.5	1.0	剥片	縦面除衣にどらう剝片。
513	G 72	Vla	7387	セOb	2.0	1.3	0.8	0.9	剥片	縦面打面。
514	G 72	VI	7428	セOb	1.7	1.3	0.7	1.1	剥片	背面は全面綺麗。
515	G 72	VI	7372	セOb	1.8	1.3	0.8	1.7	剥片	背面は全面綺麗。
516	G 74	Vla	7191	セOb	2.0	1.4	0.7	1.4	剥片	作業面調整なし。
517	G 74	Vla	7196	セOb	2.1	0.9	0.6	0.5	剥片	作業面調整あり。
518	G 74	Vla	7275	セOb	1.9	1.4	0.4	1.4	二次加工ある剝片	縦面既着、左側斜面に二次加工か、内観見ては數段底Ob。
519	E 54	V	1652	セOb	1.6	1.5	0.5	0.5	剥片	作業面調整あり、長い長剝片で木端欠損。
520	H 71	VI	6205	セOb	1.9	1.4	0.8	1.5	剥片	縦面除衣にどらう剝片。
521	H 72	Vla	7150	セOb	2.2	1.2	1.0	1.5	剥片	作業面調整あり。
522	G 74	Vla	7032	セOb	2.1	1.5	0.7	0.9	剥片	打点欠損。
523	G 63	VI	6604	セOb	1.4	1.1	0.5	0.5	剥片	作業面調整なし。
524	G 74	Vla	6846	セOb	2.3	1.1	0.5	0.8	剥片	作業面調整あり。
525	F 62	Vla	7167	セOb	2.7	1.3	0.5	0.7	剥片	作業面調整なし。
526	G 74	Vla	7207	セOb	2.3	1.5	0.6	1.3	剥片	左側斜面はガザリ。
527	G 74	VI	6758	セOb	2.1	1.2	0.4	0.9	剥片	打面底欠損、縦面除衣にどらう剝片。
528	G 63	Vla	7221	セOb	2.0	1.5	0.6	1.4	剥片	作業面調整あり。
529	G 74	Vla	7200	セOb	2.6	1.2	0.9	1.3	剥片	縦面除衣にどらう剝片。
530	F 63	Vla	7579	セOb	1.3	1.5	0.5	0.7	石抜	完盤まで剥離状態打し、石抜はたゞへん滑くなっている。
531	G 74	VI	6294	セOb	1.9	1.5	0.8	1.6	剥片	縦面除衣にどらう剝片。
532	F 61	VI	7581	セOb	1.5	1.8	0.6	1.0	剥片	背面は全面綺麗。
533	F 64	VI	7112	セOb	1.7	1.7	0.5	0.6	剥片	背面は全面綺麗。分厚い。
534	G 74	Vla	7204	セOb	2.6	1.5	1.1	3.3	剥片	縦面除衣にどらう剝片。
535	F 63	Vla	7580	セOb	2.2	1.9	0.9	2.7	剥片	縦面打面にどらう剝片。
536	F 51	VI	6632	セOb	1.8	1.6	0.5	0.8	剥片	縦面除衣にどらう剝片。
537	F 63	Vla	7389	セOb	1.7	1.8	1.2	2.2	剥片	縦面除衣にどらう剝片。
538	H 72	Vla	7148	セOb	2.1	1.9	0.9	2.3	剥片	縦面除衣にどらう剝片。
539	G 74	VI	6296	セOb	2.4	2.1	0.6	2.9	剥片	縦面除衣にどらう剝片。
540	G 74	Vla	7208	セOb	2.1	2.5	0.9	3.6	剥片	縦面除衣にどらう剝片。作業面調整あり。
541	G 74	Vla	7011	セOb	1.8	2.3	0.7	2.0	剥片	縦面除衣にどらう剝片。
542	F 64	VI	6427	セOb	1.4	2.2	0.5	0.9	剥片	作業面調整なし。
543	E 54	VI	3410	セOb	1.5	2.0	0.9	1.3	剥片	作業面調整なし。
544	G 74	Vla	7035	セOb	2.1	1.7	0.9	2.5	剥片	縦面除衣にどらう剝片。
545	G 74	Vla	7198	セOb	2.0	2.0	0.7	2.0	剥片	打面欠損。縦面除衣にどらう剝片。
546	G 74	Vla	6851	セOb	1.0	1.8	0.5	0.9	剥片	剥片末端のみ残存。
547	F 63	VI	6624	セOb	1.8	2.3	0.8	1.4	剥片	斜傾剥片。
548	F 62	Vla	6714	セOb	3.1	1.8	0.9	3.4	剥片	作業面生れ剝片。
549	F 51	VI	6532	セOb	2.9	2.3	0.8	3.0	剥片	540+550(折れ面接合)。作業面調整なし。
550	F 51	VI	6662	セOb	-	-	-	-	-	540+550(折れ面接合)。
551	F 64	VI	7111	セOb	2.8	3.7	1.3	8.3	剥片	縦面除衣にどらう剝片。作業面調整あり。
552	F 31	Vla	344	セOb	1.9	0.5	0.1	0.2	錐石刃	錐打面。作業面調整なし。
553	G 72	VI	7044	セOb	1.1	0.4	0.1	-0.1	錐石刃	点打面。打面調整なし。端部調整なし。
554	F 42	VI	5402	セOb	1.0	0.5	0.1	-0.1	錐石刃	錐打面・錐刃部分に欠損。
555	E 52	V	2226	セOb	1.0	0.6	0.1	-0.1	錐石刃	錐打面・錐刃部分に欠損。
556	H 72	Vla	7177	セOb	0.9	0.6	0.1	-0.1	錐石刃	錐打面・錐刃を欠損。
557	H 72	Vla	6810	セOb	1.0	0.6	0.1	-0.1	錐石刃	錐打面・錐刃を欠損。
558	F 72	VI	6498	セOb	1.4	1.5	0.8	1.4	錐石刃	作業面軸移を繰り返し、かなり小形化したもの。
559	G 74	VI	6750	セOb	1.8	1.6	0.8	2.3	原石	
560	G 72	Vla	7097	セOb	2.3	1.2	1.2	3.0	錐石刃	錐打面。錐石刃削削数は22~3枚程度で成功していない。
561	F 64	VI	7355	セOb	1.2	1.4	0.5	0.6	剥片	作業面調整あり。
562	F 62	VI	6695	セOb	1.8	1.6	0.5	0.8	剥片	作業面調整あり。
563	F 74	VI	7350	セOb	1.5	1.2	0.6	0.9	剥片	作業面調整なし。
564	F 31	Vla	5528	セOb	1.4	1.5	0.5	0.8	剥片	作業面調整なし。
565	F 64	Vla	7159	セOb	2.0	1.7	0.9	1.6	剥片	

No.	Gr	柄	No.	石材	長	幅	厚	重量	器種	概略所見
566	G 74	VI	6759	黑色Ob	1.6	0.8	0.2	0.1	練石刀	直打面。頭部調整あり。他練石刀と比較しやや短い。
567	F 72	VI	6500	黑色Ob	1.8	1.5	0.9	1.7	練石刀核	分割削材。
568	G 73	VI	6521	黑色Ob	1.2	1.2	2.1	0.2	剝片	調整削片。
569	G 84	VI	6151	黑色Ob	1.1	1.4	0.6	0.5	剝片	作業面調整あり。
570	G 73	VI	6522	黑色Ob	3.6	2.0	1.1	2.4	剝片	練石刀核形成にともなうものか。
571	E 63	VI	6817	黑色Ob	1.5	3.1	0.8	5.3	剝片	調整削片。
572	H 82	VI	6127	日東Ob2	2.0	1.3	0.7	1.1	剝片	作業面調整なし。
573	G 74	VII	7021	日東Ob2	2.6	1.4	0.6	1.4	剝片	
574	G 73	VII	7078	日東Ob2	4.1	2.1	0.8	3.8	剝片	574+575+576+577(折れ面接合)。幅広の長版剝片。表面の衝撃で分かれ。
575	G 73	VII	6520	日東Ob2	-	-	-	-		574+575+576+577(折れ面接合)。
576	G 84	VII	6121	日東Ob2	-	-	-	-		574+575+576+577(折れ面接合)。
577	G 84	VII	6117	日東Ob2	-	-	-	-		574+575+576+577(折れ面接合)。
578	H 71	VII	6241	日東Ob2	4.0	3.8	1.5	2.2	剝片	分厚い。削落材の裏材か。
579	G 74	VI	6762	日東Ob2	3.4	3.6	1.4	14.3	前器	複長剝片素材。刃脚部に刃部。
580	G 74	VI	6298	日東Ob2	3.9	3.2	1.9	19.8	石核	不定規則片削離。打面非固定。
581	G 74	VII	7010	日東Ob2	3.3	3.3	1.5	14.9	前器	複長削材。左側端に刃部。
582	F 72	VII	6553	日東Ob1	1.8	1.0	1.1	1.4	練石刀核	分割削材。作業面を反対三角形にするよう入念な石核整形あり。打面調整あり。
583	F 72	VII	6512	練Ob	0.8	0.3	0.1	<0.1	練石刀	頭部欠損。
584	G 32	VII	3621	練Ob	1.3	0.3	0.2	<0.1	練石刀	打面は細小い。階形調整あり。
585	F 63	VII	6606	練Ob	1.0	0.4	0.1	<0.1	練石刀	打面調整あり。頭部調整なし。
586	F 42	VII	5516	練Ob	1.4	0.4	0.2	<0.1	練石刀	
587	D 73	VI	7360	練Ob	1.7	0.8	0.6	0.4	練石刀	頭部欠損。剝ぎ痕ない。
588	D 74	VI	6726	練Ob	1.5	1.3	0.6	0.6	剝片	
589	G 72	VI	6112	練Ob	1.6	1.8	0.9	1.5	石核	完結まで剥離進行。打面非固定。
590	G 61	VI	6237	練Ob	2.7	1.2	0.8	1.8	剝片	練石刀核の形成にともなう剝片か。
591	F 72	VI	6501	練Ob	1.0	0.9	1.2	1.2	練石刀核	剥片素材。小刻化している。
592	F 71	VI	7575	練Ob	1.6	1.5	1.5	2.1	練石刀核	分割削材。打面固定。打面調整あり。
593	F 83	VI	?	練Ob	1.7	1.3	1.0	2.4	練石刀核	最小5回の作業面転移あり。
594	F 82	VII	6145	練Ob	2.2	1.0	1.5	2.9	練石刀核	打面横行。下側調整あり。
595	F 72	VII	6514	練Ob	1.8	1.5	0.5	2.2	練石刀核	打面固定。側面まで、細かい打面調整あり。
596	F 34	VII	2661	手削Ob	0.8	0.3	0.1	<0.1	練石刀	頭部・尾部欠損。
597	F 34	VII	1628	手削Ob	1.4	0.5	0.2	<0.1	練石刀	偏状の打面。頭部調整なし。底部欠損。
598	F 34	VII	2665	手削Ob	1.4	0.5	0.2	<0.1	練石刀	頭部欠損。
599	F 34	VII	308	手削Ob	2.0	1.2	1.4	2.9	練石刀核	剝片素材か。
600	F 34	VII	3340	R9	0.8	0.4	0.1	<0.1	練石刀	頭部・尾部ともに欠損。
601	F 34	VII	3343	R9	1.8	1.6	2.2	4.6	練石刀核	剥片素材。打面横行。打面調整なし。石核横断面あり。
602	F 33	V	1165	R10	1.8	0.5	0.2	0.1	練石刀	打面調整あり。頭部調整なし。下端欠損。
603	F 42	VII	2124	R10	1.5	0.4	0.2	<0.1	練石刀	打面調整あり。頭部調整なし。
604	F 34	VII	1641	R10	1.0	0.4	0.1	<0.1	練石刀	直打面。頭部調整なし。下端欠損。
605	F 34	VII	3339	R10	1.4	0.3	0.2	<0.1	練石刀	打面調整なし。頭部調整なし。下端欠損。
606	F 34	VII	3392	R10	1.7	0.4	0.2	<0.1	練石刀	直打面。頭部調整なし。
607	F 34	VI	687	R10	2.2	0.4	0.2	0.1	練石刀	
608	F 34	VII	2456	R10	2.3	0.4	0.1	0.1	練石刀	打面調整あり。頭部調整なし。
609	F 34	VII	2458	R10	1.5	0.5	0.2	<0.1	練石刀	頭部・尾部欠損。
610	F 34	VII	2453	R10	0.9	0.4	0.1	<0.1	練石刀	頭部・尾部ともに欠損。
611	F 34	VII	1794	R11	1.1	1.5	0.3	0.3	剝片	頭部調整あり。
612	F 34	VII	1794	R11	1.6	1.5	0.2	0.3	剝片	
613	F 34	VII	2068	R11	1.6	1.4	0.4	0.6	剝片	調整削片か。
614	F 34	VII	4018	R11	1.5	1.6	0.5	0.7	剝片	調整削片。
615	F 34	VII	772	R11	2.1	1.3	0.5	1.0	剝片	複長削片。作業面調整あり。
616	F 34	VII	294	R11	1.8	1.3	0.3	0.5	剝片	調整削片。
617	F 34	VII	714	R11	2.0	1.6	0.5	0.7	剝片	頭部調整あり。
618	F 34	VII	708	R11	2.5	1.3	1.0	1.6	剝片	小剝片。打面部に欠損。
619	F 34	VII	4019	R11	1.7	2.0	0.6	1.3	剝片	調整削片。
620	F 41	VII	548	R11	1.9	1.6	0.6	1.9	剝片	打点欠損。背面に溝延焼着。
621	F 34	VII	1832	R11	1.4	2.2	0.5	0.8	剝片	調整削片。
622	F 34	VII	2457	R11	1.8	2.2	0.8	2.2	剝片	
623	F 34	VII	2455	R11	1.6	1.9	0.6	1.6	剝片	頭部調整あり。
624	F 34	VII	3351	R11	1.8	2.5	0.8	1.2	剝片	調整削片。
625	F 34	VII	1529	R11	2.9	1.4	0.7	1.3	剝片	複長削片。作業面調整なし。
626	F 34	VII	251	R11	1.9	3.6	0.9	0.8	剝片	練石刀核の打面作山削片。
627	F 34	VII	3353	R11	2.1	3.2	1.0	8.4	剝片	627+628(剝片削離接合)。調整削片どうし。
628	F 34	VII	3356	R11	0.8	1.2	0.2	<0.1	剝片	627+628(剝片削離接合)。
629	F 34	VII	2406	R11	5.3	2.2	0.7	4.9	剝片	629+630(剝片削離接合)。範長削片。作業面調整あり。

No.	Gr	形	No.	石材	長	幅	厚	重量	端面	説明	観察所見
630	F 34	VE	2093	R11	-	-	-	-	-	629+630(折れ面接合)。	
631	F 34	VE	1517	R11	1.8	3.5	0.6	2.9	鋸片	632+633(側面接合)。末端が心臓底斜片。	
632	F 34	VE	3656	R11	2.5	2.6	0.4	2.0	鋸片	632+633(側面接合)。	
633	F 34	VE	3350	R11	2.4	3.1	0.5	2.6	鋸片	632+633(側面接合)。	
634	F 41	VI	1040	R11	3.2	4.2	1.6	15.9	鋸片	幅広鋸片。作業面調整あり。端面陥没。	
635	F 34	VE	3347	R11	3.1	3.4	0.7	5.4	鋸片	635+636(折れ面接合)。不定形鋸片。作業面調整あり。	
636	F 34	VE	3349	R11	-	-	-	-	-	635+636(折れ面接合)。	
637	F 34	VE	2069	R11	6.1	3.5	1.3	17.7	鋸片	幅広鋸片。作業面調整あり。端正。	
638	F 34	VE	2705	R11	-	-	-	10.5	錐石刃抜	638+639+640(折れ面接合)。厚手の鋸片素材で、錐石刃抜削の作業面は右横小孔に向かう。錐石刃抜削のための打面再生が複数回あり、いわゆる横打ちである。	
639	F 34	VE	1537	R11	1.2	2.2	0.3	0.9	鋸片	638+639+640(折れ面接合)。錐石刃抜の打面作成鋸片。	
640	F 34	VE	2709	R11	1.3	1.7	0.3	0.8	鋸片	638+639+640(折れ面接合)。錐石刃抜の打面作成鋸片。	
641	F 34	VI	274	Ch3	1.5	0.6	0.2	0.1	錐石刃	端面調整なし。下端欠損。	
642	F 34	VE	980	Ch3	1.3	0.5	0.1	-0.1	錐石刃	打面調整あり。頭部調整なし。	
643	F 34	VE	2402	Ch3	1.3	0.3	0.1	-0.1	錐石刃	打面調整あり。頭部調整なし。下端欠損。	
644	F 34	VE	1541	Ch3	1.4	0.4	0.1	-0.1	錐石刃	点打正。頭部調整なし。	
645	F 34	VE	1531	Ch3	1.4	0.4	0.1	0.1	錐石刃	点打正。頭部調整なし。	
646	F 34	VE	2704	Ch3	1.5	0.5	0.2	0.1	錐石刃	646+647(折れ面接合)。打面調整あり。頭部調整なし。	
647	F 34	VE	2705	Ch3	-	-	-	-	-	646+647(折れ面接合)。	
648	F 34	VE	1642	Ch3	1.2	0.7	0.2	-0.1	錐石刃	打面調整あり。頭部調整なし。下端欠損。	
649	F 34	VE	1827	Ch3	0.9	0.4	0.1	-0.1	錐石刃	頭部欠損。	
650	F 34	VE	1824	Ch3	1.0	0.4	0.1	-0.1	錐石刃	頭部・尾部ともに欠損。	
651	F 34	VE	2064	Ch3	2.4	1.3	1.5	4.8	錐石刃抜	打面横打。下端調整あり。	
652	D 33	V	52	MoB	1.8	1.4	0.3	0.5	打製石繩		
653	C 43	V	51	Si	2.1	1.5	0.2	0.4	打製石繩		
654	D 61	V	500	MoB	2.2	1.8	0.4	1.3	打製石繩		
655	B 13	V	454	ch	0.10	1.4	0.2	0.3	打製石繩	先端を大きく欠損。使用によるものか。	
656	F 84	V	6363	Khch	1.6	1.5	0.3	0.5	打製石繩		
657	C 23	V	133	ch	2.2	2.1	0.3	1.1	打製石繩		
658	F 82	VI	6083	MoB	3.0	1.6	0.5	1.3	打製石繩		
659	G 73	VI	6240	ch	2.8	2.0	0.4	1.3	打製石繩		
660	F 62	VI	6153	Sh	3.5	2.1	0.3	2.2	打製石繩		
661	F 72	VI	8015	Ch10	1.2	1.5	0.3	0.3	打製石繩	素 661~668は土器	
670	F 42	VI	2609	Ch10	1.7	2.0	0.4	0.9	打製石繩	新品。	
671	G 62	VI	6418	Ch10	2.1	1.6	0.4	0.9	打製石繩	新品。	
672	G 62	VI	6863	Ch10	1.7	1.4	0.4	0.6	打製石繩	新品。	
673	F 34	VE	5834	Ch10	2.4	1.9	0.4	1.1	打製石繩	673+674(折れ面接合)。未製品。頭部側に中欠損箇所。	
674	F 34	V	1527	Ch10	2.4	1.9	0.4	1.1	打製石繩	673+674(折れ面接合)。	
675	E 42	V	1231	Ch10	2.8	2.3	0.4	2.0	打製石繩	675+676(折れ面接合)。	
676	E 42	V	1052	Ch10	2.8	2.3	0.4	2.0	打製石繩	675+676(折れ面接合)。	
677	E 31	V	99	Ch10	2.0	1.6	0.3	0.9	打製石繩	新品か。頭部と左右赤対称。	
678	G 32	VE	230	Ch10	2.2	1.3	0.3	0.8	打製石繩	未製品か。右脚欠損。	
679	F 53	VI	6637	Ch10	2.3	1.5	0.4	1.0	打製石繩	新品。先端は使用による欠け。	
680	F 42	VE	5472	Ch10	(1.7)	1.4	0.4	1.0	打製石繩	先端・右脚欠損。	
681	E 41	VI	2979	Ch10	0.2	2.0	0.3	1.0	打製石繩	新品。先端は使用による欠け。	
682	F 31	VE	5567	Ch10	2.8	2.1	0.4	1.4	打製石繩	682+683(折れ面接合)。未製品。右側斜面形中に大欠損箇所。	
683	F 42	VE	5507	Ch10	2.8	2.1	0.4	1.4	打製石繩	682+683(折れ面接合)。	
684	F 34	V	745	Ch10	2.1	1.9	0.3	0.9	打製石繩	右脚欠損。	
685	G 62	VE	7108	Ch10	(1.8)	2.0	0.5	0.9	打製石繩	新品。先端・茎部ともに欠損。	
686	G 61	VI	6235	Ch10	(1.7)	1.8	0.4	0.7	打製石繩	新品。茎部は使用による欠け。	
687	F 44	VI	5863	Ch10	0.10	1.6	0.3	0.5	打製石繩	新品。先端欠損。	
688	F 63	VI	6574	Ch10	1.1	1.8	0.5	0.9	打製石繩	未製品。先端欠損。	
689	E 41	VI	2557	Ch10	(1.6)	2.9	0.5	1.9	打製石繩	未製品。基部の分岐部。	
690	F 42	VI	2585	Ch10	0.10	1.4	0.3	0.4	打製石繩	新品。先端欠損。	
691	E 41	VI	3169	Ch10	(1.2)	1.0	0.3	0.5	打製石繩	新品か。先端・左脚欠損。	
692	F 74	VI	6463	Ch10	1.9	1.5	0.2	0.7	打製石繩	新品。先端は使用による欠け。	
693	E 31	V	861	Ch10	0.10	2.1	0.3	0.7	打製石繩	欠損により二分され、基部のみ残存。	
694	G 61	VI	6263	Ch10	1.2	1.5	0.3	0.5	打製石繩	未製品。	
695	G 62	VI	6420	Ch10	2.1	1.7	0.7	2.0	打製石繩	未製品。	
696	G 62	V	6107	Ch10	1.5	1.1	0.3	0.6	打製石繩	先端が丸みを帯びる。先端平分は乳白色・基部半分は黒色。	
697	F 33	VI	3294	Ch10	1.6	1.4	0.4	0.9	打製石繩	未製品か。素材面を大きく残す。	
698	G 62	VI	6333	Ch10	1.8	2.0	0.3	0.7	打製石繩	新品。右脚欠損。	
699	F 42	V	822	Ch10	0.00	0.07	0.3	0.3	打製石繩	先端のみ。	

No.	Gr	形	No.	石材	長	幅	厚	重量	器種	概略所見
700	G 61	VI	6936	Ch10	0.63	(0.6)	0.2	<0.1	打製石鑿	圓孔のみ。
701	D 44	V	1451	Ch10	(1.4)	(1.1)	0.3	0.4	打製石鑿	圓孔のみ。
702	G 51	VI	6893	Ch10	0.21	(1.4)	0.3	0.4	打製石鑿	未製作か。先端・右側縁欠損。
703	F 42	VI	5377	Ch10	1.5	1.4	0.4	0.7	打製石鑿	
704	G 62	VI	6876	Ch10	1.4	1.4	0.3	0.5	剝片	石鑿調整剝片。
705	E 41	VI	3660	Ch10	2.2	1.8	0.4	1.7	二次加工ある剝片	石鑿調整剝片。
706	F 34	V	955	Ch10	2.7	1.2	0.6	0.9	削器	瓶長剝片に細かい二次加工。
707	E 41	VI	3416	Ch10	3.2	1.5	0.6	1.5	削器	瓶長剝片に二次加工。
708	E 43	V	1455	Ch10	3.0	2.3	1.0	6.5	剝片	瓶長剝片を連続で削る中の剝片。厚手。
709	F 72	VI	6543	Ch10	3.0	2.2	0.8	3.8	削器	厚手の剝片素材。
710	E 43	V	676	Ch10	2.1	2.0	1.2	4.1	石核	幅広剝片をランダムに削離。
711	E 41	VI	3469	Ch10	2.6	2.9	1.8	9.7	石核	幅広削片をランダムに削離。
712	F 42	VI	5654	Ch10	2.8	6.4	1.3	22.6	剝片	厚手の幅広剝片。作成面面整ひあり。
713	E 43	VI	3260	Ch10	1.3	0.7	0.2	<0.1	剝片	石鑿調整剝片。
714	F 34	V	1825	Ch10	1.3	0.7	0.2	0.1	剝片	石鑿調整剝片。
715	F 42	VI	5042	Ch10	1.1	0.6	0.2	0.1	剝片	石鑿調整剝片。
716	G 51	VI	6255	Ch10	1.3	0.8	0.2	0.1	剝片	石鑿調整剝片。
717	F 42	VI	4117	Ch10	1.2	0.8	0.2	<0.1	剝片	石鑿調整剝片。
718	F 42	VI	3834	Ch10	1.2	0.7	0.1	<0.1	剝片	石鑿調整剝片。
719	F 42	VI	4665	Ch10	1.4	0.8	0.2	0.1	剝片	石鑿調整剝片。
720	F 42	VI	5550	Ch10	1.4	0.4	0.1	<0.1	剝片	石鑿調整剝片。
721	F 42	VI	5591	Ch10	1.1	0.7	0.2	0.1	剝片	石鑿調整剝片。
722	F 42	VI	4124	Ch10	1.5	0.6	0.2	0.1	剝片	石鑿調整剝片。
723	F 42	VI	2395	Ch10	1.2	0.8	0.2	<0.1	剝片	石鑿調整剝片。
724	F 42	VI	5081	Ch10	1.2	0.7	0.2	<0.1	剝片	石鑿調整剝片。
725	F 42	VI	5321	Ch10	1.5	0.8	0.2	0.1	剝片	石鑿調整剝片。
726	F 42	VI	5208	Ch10	1.1	0.8	0.2	0.1	剝片	石鑿調整剝片。
727	E 43	VI	2733	Ch10	1.1	0.9	0.2	0.1	剝片	石鑿調整剝片。
728	F 42	VI	4768	Ch10	0.9	1.3	0.3	0.3	剝片	石鑿調整剝片。
729	F 44	VI	3396	Ch10	1.3	1.2	0.2	0.3	剝片	石鑿調整剝片。
730	E 41	VI	3700	Ch10	1.4	0.8	0.3	0.1	剝片	石鑿調整剝片。
731	E 42	VI	3674	Ch10	1.6	1.2	2.5	0.2	剝片	石鑿調整剝片。
732	F 33	VI	3337	Ch10	1.5	1.1	0.3	0.3	剝片	石鑿調整剝片。
733	F 34	V	1757	Ch10	1.6	0.9	0.3	0.3	剝片	石鑿調整剝片。範長。
734	F 42	VI	4762	Ch10	1.2	1.1	0.2	0.2	剝片	石鑿調整剝片。
735	F 42	VI	2168	Ch10	2.0	0.9	0.5	0.4	剝片	石鑿調整剝片。
736	F 42	VI	2630	Ch10	1.2	1.3	0.3	0.3	剝片	石鑿調整剝片。
737	E 41	V	2193	Ch10	1.0	1.4	0.3	0.2	剝片	石鑿調整剝片。
738	F 42	VI	2340	Ch10	1.5	0.8	0.2	0.1	剝片	石鑿調整剝片。
739	E 43	V	1605	Ch10	1.2	1.0	0.2	0.2	剝片	石鑿調整剝片。
740	F 42	VI	2175	Ch10	1.3	0.9	0.3	0.2	剝片	石鑿調整剝片。
741	F 42	VI	4662	Ch10	1.4	1.5	0.3	0.4	剝片	石鑿調整剝片。
742	F 34	VI	709	Ch10	1.7	2.0	0.4	0.5	剝片	小剝片。
743	E 42	V	856	Ch10	1.0	1.2	0.2	0.2	剝片	打面欠損。
744	F 33	VI	4622	Ch10	1.2	1.6	0.2	0.4	剝片	石鑿調整剝片。
745	E 41	V	1893	Ch10	1.1	1.7	0.4	0.5	剝片	石鑿調整剝片。
746	F 42	VI	4116	Ch10	2.5	1.3	0.4	0.6	剝片	板長剝片。
747	F 42	VI	4231	Ch10	1.9	1.2	0.3	0.4	剝片	石鑿調整剝片。
748	F 42	VI	2170	Ch10	2.1	0.8	1.3	1.4	剝片	石核から大きめ打ち面がされた剝片。細縫の板長剝片を剥離したとわかる。
749	F 33	VI	4706	Ch11	2.2	1.6	0.3	0.8	打製石鑿	木製品。
750	E 41	V	2187	Ch11	3.2	2.3	0.4	1.9	打製石鑿	木製品。
751	E 43	V	1273	Ch11	2.3	4.0	1.4	11.3	石核	751 + 752 + 253(剥片剥離接合)。石核と剥片。
752	E 43	V	1277	Ch11	0.9	1.0	0.1	<0.1	剝片	751 + 752 + 253 石核と剥片。
753	E 43	VI	1879	Ch11	2.0	1.2	0.4	0.8	剝片	751 + 752 + 253 石核と剥片。
754	E 41	V	2176	Ch11	1.4	1.3	0.4	0.6	剝片	石鑿調整剝片。
755	E 43	V	1074	Ch11	1.4	1.1	0.4	0.4	剝片	石鑿調整剝片。
756	E 43	V	326	Ch11	1.7	1.6	0.3	0.7	剝片	石鑿調整剝片。
757	E 41	V	1886	Ch11	1.5	1.9	0.3	0.6	剝片	石鑿調整剝片。
758	E 41	VI	2339	Ch11	2.0	1.5	0.4	0.7	剝片	石鑿調整剝片。
759	E 41	VI	2531	Ch11	1.7	2.3	0.4	0.9	剝片	石鑿調整剝片。
760	E 43	V	1333	Ch11	1.8	1.4	0.5	0.8	剝片	縦面残存。
761	E 41	VI	2335	Ch11	1.9	1.9	0.4	0.6	剝片	石鑿調整剝片。
762	E 43	VI	1685	Ch11	1.4	1.7	0.5	0.6	剝片	石鑿調整剝片。
763	E 41	V	3704	Ch11	1.3	1.7	0.4	0.4	剝片	石鑿調整剝片。
764	G 62	VI	6875	Ch12	2.6	1.7	0.3	1.3	打製石鑿	未製作。